

2 日ソ漁区問題

昭和2年

110 昭和2年3月12日 準原外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛（電報）

出漁期との関係から漁業条約締結交渉妥結を

図リ三月末までに漁区確定の旨訓令

付記 昭和二年三月五日付農林省水産局長より外務省

通商局長宛

昭和二年邦人露領出漁方針について

本省 3月12日後発

第五九号

貴電第一一〇号ニ閲シ

北京條約ノ実行方法ニ付テハ我方トシテハ漁業協約ノ改訂ヲ見ルニ至ル迄一九二四年我當業者ノ露領ニ於テ現実ニ行ヘル漁業ノ活動ノ情態ヲ大体ニ於テ其ノ儘維持セムトスル趣旨ナリトノ見解ヲ有スルモノナル處此際一九二四年ノ実行方法ノ解釈問題ニ触ルルニ於テハ結局水掛論ニ終リ今トナリテハ目睫ノ間に迫リタル本年度出漁方法ノ協定上極テ

不利益ナリ就テハ貴官ハ本国政府ノ訓令トシテ左記ノ点ニ付切ニ先方ノ考量ヲ促サレ度シ

帝国政府ハ漁業協約ノ成立ノ一日モ速カナランコトヲ希望シ本邦人ノ漁業権ノ将来ヲ危殆ナラシメサル以上出来得ル限り妥協方針ヲ以テ交渉ヲ進メ來リタルニ拘ハラス重要事項ニ關シ尚ホ双方ノ意見一致ヲ見サルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ本年盛漁期迄ニハ猶ホ相當ノ余日アルヲ以テ夫レ迄ニハ此上トモ新協約ノ商議ヲ繼續シ可成速カニ其ノ調印ヲ見シコトヲ切望シテ已マサル次第ナリ然ルニ他方本年度出漁期愈々切迫シ殊ニ鮫及蟹ノ出漁期迄ニハ十數日ヲ余スニ過キサルヲ以テ此際露國側主張ノ如ク競売ヲ施行スルトスルモ本邦當業者ハ能ク之ニ応スル準備等ヲ為スノ余裕ナク競売ハ結局日本人ノ閑スル限り不可能事タルニ至ルナキヲ保セススクノ如クンハ露國ハ日本人ノ競賣參加困難ノ實情ニ乘シ條約及取極ノ精神ヲ無視シ不当ニ日本人ノ利益ヲ害スルノ措置ニ出テクルノ責任ヲ負担セサル可カラズ而シテ露國側ハ右鮫等ノ本年度競賣ニ國營及「コオペラチ

ーヴ」ヲ参加セシメントスル意向ノ趣ナルカ元來右參加ハ本條約商議上ノ難問題トシテ彼我間ニ未タ意見ノ一致ヲ見サルモノナルニ拘ラス露國ハ右交渉ノ成行ヲ無視シテ前記ノ主張ヲ為スカ如キハ甚タ不穩當ト云ハサルヲ得ス

日本ノ露國ニ對スル感想ハ從前甚タ良好ナリト云フヲ得サリシカ帝國政府ハ善隣ノ誼ニ基キ帝國朝野ノ反露傾向ノ抑圧ニ力メ幸ヒ最近ニ至リ我国上下ノ露國ヲ善解スル者漸次多カラントスルハ先方ノ諒知スル所ナルヘク將又漁業問題ニ至リテモ當業者ハ勿論一般日本人ハ之ヲ以テ經濟上ノ國際的協定ニ基ク一般的権利利益ト全然意義ヲ異ニスルモノト思考シ過去二十余年ニ亘リ築キ上ケタル地位ヲ一步タモ退クカ如キ取極ニ対シ強硬ニ反対スヘク加フルニ協約商議ノ進捗甚タ遅タルニ拘ラス本年度出漁期ノ漸次切迫セルニ焦慮シ自由出漁ヲ唱導スル者漸ク多カラントスルニ至レリ帝國政府ニ於テハ民間強硬論者ノ慰撫ニ力メ幸ヒ今日迄ハ公然此種ノ意見ヲ發表スル者少ナシト雖時日ノ切迫ニ連レ事態緊張ス可ク特ニ北海道及北陸東北各地ニ於ケル民情ニ付キ懸念スヘキ事情アリ依テ此際双方ノ執ルヘキ措置ハ第一ニ差迫リタル本年出漁問題ヲ解決スルニ在リ露國ニシ

（付記） 昭和二年邦人露領出漁方針ニ閑スル件
テ若シ出漁問題ニ付今回ノ商議ヲ期トシ必スシモ日本人ノ築キ上ケタル地位ヲ脅威スルカ如キ惡意ナキコトヲ立証スルニ於テハ我民論ノ抑制ハ勿論両國々交上ニモ少ナカラサル好影響ヲ齎ラス可キヲ信ス就テハ本年度出漁問題ニ付テハ北京條約第三条第二項ノ解釈ニ付キ議論ヲ上下スルヲ避け実際的解決方法トシテ一九二四年実行シタルト同様ノ方法ニ依リ即チ形式ハ先方ニ於テ是非トモ之ヲ競賣トスル必要アルニ於テハ其ノ前ニ予メ當業者ト漁業庁ト直接話合ヲ為シ實質上ノ随意貸下ヲ實行スルノ手続ヲ至急協定シ度シ要スルニ日本人カ昨年度經營シタル漁区ハ漁獲物ノ種類如何ニ拘ラス不取敢本年度モ經營セシムルコトニ付至急同意ヲ得タシ尤モ右ハ鮭鱈漁区ニ付テモ此際一括協定ヲ遂ケタキ趣旨ナルモ場合ニ依リテハ先ツ蟹、鮫漁区ニ付協定ヲ進ムルモ差支ナシ其ノ場合遅クモ本月末日迄ニ日本人漁区ノ確定ヲ見ルコト緊要ナル事情ヲ篤ト了承セラレタシ

目下莫斯科ニ於テ進行中ノ日露漁業協約改訂商議ノ経過ニ照シ右商議ハ國營「コオペラチーヴ」漁区獲得問題缶詰工

第一二三号

出漁問題に関する本邦関係者の意向至急回訓

方要請

モスクワ 3月13日後発
本省 3月15日前着111 昭和2年3月13日 在ソ連邦田中大使より
幣原外務大臣宛(電報)

露領漁業出漁船出帆期日予想			
地 方	期日函館出帆	備 考	
沿 海 区	四月初旬	大正十五年ニ於ケル初航調 四月八日	
オコーツク区	六月中旬	六月十四日	
ギヂギンスキーキ区	六月初旬	六月四日	
イチンスキーキ区	四月中旬	四月二十二日	
西 堪 察 加 区	四月中旬	四月二十二日	
東 堪 察 加 区	五月初旬	五月十日	
カラキンスキーキ区	五月中旬	五月十九日	
ヌ イ ス キ ー 区	七月中旬	七月十三日	

参考

シテハ既ニ大正十四年北京ニ於テ日露間ニ締結アリタル日

蘇基本条約第三条第二項ニ於テ「右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間『ソヴィエト』社会主义共和国連邦政府ハ日本國臣民ニ対スル漁区ノ貸下ニ關シ千九百二十四年ニ確立セラレタル実行方法ヲ維持スヘシ」トノ規定アルニ依リ帝国政府ハ本年度ノ邦人出漁ニ付テハ右条項ニ基キ大体左記ノ方針ニ依リ関係當業者ヲシテ出漁セシムルコト致度依テ先ツ在莫斯科田中大使ヲシテ大体左記方針ニ付「ソヴィエト」連邦政府ト協定セシムルコトセラルルヲ適當ト認メラ

カ確定ヲ為スノ要アリ而シテ斯ノ如キ事態ニ處スル措置トシテハ既ニ大正十四年北京ニ於テ日露間ニ締結アリタル日蘇基本条約第三条第二項ニ於テ「右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間『ソヴィエト』社会主义共和国連邦政府ハ日本國臣民ニ対スル漁区ノ貸下ニ關シ千九百二十四年ニ確立セラレタル実行方法ヲ維持スヘシ」トノ規定アルニ依リ帝国政府ハ本年度ノ邦人出漁ニ付テハ右条項ニ基キ大体左記ノ方針ニ依リ関係當業者ヲシテ出漁セシムルコト致度依テ先ツ在莫斯科田中大使ヲシテ大体左記方針ニ付「ソヴィエト」連邦政府ト協定セシムルコトセラルルヲ適當ト認メラ

場問題等ノ重大案件ニ付今尚妥結ヲ見ス從テ新条約ハ到底

本年度出漁期ニ於テ之力適用ヲ見ルコトヲ期シ難キモノト認メラル然ルニ邦人ノ露領出漁ハ例年西南方面鯨漁区及

堪察加西海岸方面蟹漁区ノ四月初旬ヨリ開始セラルルヲ初メ夫々日睫ノ間ニ相迫リ居リ(別表参照)關係當業者ニ於

テモ目下漁夫雜夫等ノ雇入、使用船舶ノ傭入、漁業用品ノ買入等出漁ノ準備ヲ為ス要アルトコロ之等邦人カ大正十五

年ニ於テ經營セル漁区ハ全部同年ヲ以テ既ニ貸下期間一応満了シアル關係上本年經營スヘキ漁区ニ付取急キ何等力之

カ確定ヲ為スノ要アリ而シテ斯ノ如キ事態ニ處スル措置ト

シテハ既ニ大正十四年北京ニ於テ日露間ニ締結アリタル日蘇基本条約第三条第二項ニ於テ「右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間『ソヴィエト』社会主义共和国連邦政府ハ日本國臣民ニ対スル漁区ノ貸下ニ關シ千九百二十四年ニ確立セラレタル実行方法ヲ維持スヘシ」トノ規定アルニ依リ帝国政府ハ本年度ノ邦人出漁ニ付テハ右条項ニ基キ大体左記ノ方針ニ依リ関係當業者ヲシテ出漁セシムルコト致度依テ先ツ在莫斯科田中大使ヲシテ大体左記方針ニ付「ソヴィエト」連邦政府ト協定セシムルコトセラルルヲ適當ト認メラ

ル

一 漁区貸下ニ関スル件 記

大正十五年ニ於テ本邦當業者カ租借シ居タルハ當業者ヨリ本年度租借ノ申出アルモノニ付テハ本年一箇年引続キ

之カ租借經營ノ認メラルルコト

右租借ハ露領水產組合ヲシテ當業者ノ申出ヲ取纏ノ上官憲ニ包括貸下ノ申出ヲ為サシメ之カ包括貸下ヲ受クルコト

二 漁区借区料ノ件

前項ニ依リ貸下ヲ受ケタル漁区ノ借区料額ハ一応昨年通りト為スコトヲ主張スルコト若シ先方カ右ニ応諾セサルニ於テハ其ノ額ニ付露領水產組合ヲシテ露國官憲トノ間ニ追テ協議ノ上之ヲ決定スルコトト為シ不取敢本年度上半期分借区料ニ充当スルモノトシテ昨年度ノ借区料年額ノ半額ヲ包括貸下契約締結ト同時ニ先方ヘ納入セシムルコト

三 貸下条件及査証其ノ他ノ出漁ニ関スル条件
大体大正十五年ニ於テ實行セル處ニ依ルコト

貴電第五九号ニ関シ

御訓令ノ次第ハ既ニ累次電報セル通り本使ヨリ一度ナラス先方ニ對シ事理ヲ説キテ懇談セシモ先方ハ當業者ノ希望セル本年度居据リノ底意ト看取シ更ニ北京條約ノ規定ニ依ルモ亦一九二五年ニ競売ヲナン日本人側ハ國營ト共ニ之ニ参加シ漁区ヲ爭奪シタル事例ニ對シ日本政府ヨリ何等抗議ナカリシコトヲ強味トシ此ノ上帝国政府ノ訓令トシテ正式ニ交渉スルモ差向キノ処応諾ヲ控ヘ日本ノ條約締結ニ對スル遣口ヲ見ルコトスヘク現ニ蟹及ヒ鱗ノ競売ヲ暫時延期スル事ニハ異議ナシト述ヘ居ルニ付往電第一一八号末段本年度出漁問題ニ付帝國政府ノ御決意ヲ知リタル上其ノ御意向ヲ体シ交渉スルニ非サレハ何等効ヲ見難シト認メラル就テハ往電第一一八号ニ對シ至急回訓アリタシ

112 昭和2年3月16日 在ソ連邦田中大使より
幣原外務大臣宛(電報)

蟹・鱗の漁区については昨年度と同様とする
旨申入れ方訓令

本省 3月16日前着

貴電第一一八号ノ末段及第一二三号ニ関シ

北京條約第三条第二項ニ関スル當方ノ解釈ハ往電第五九号ノ通ニシテ名義上ノ競売ナラハ兎モ角普通ノ競売ハ之ヲ承引シ難キ處夫レハ兎モ角トシテ同條約ノ精神ハ日本人ヲシテ何カノ方法ニ依リ漁業ヲ經營セシムルノ趣旨ナリトノ点ニ付テハ先方モ何等異議ナカルヘシ然ルニ少クトモ蟹及

鯪ニ付テ先方ノ主張ノ如ク我當業者ヲシテ普通ノ漁区競売ニ参加セシムルコトトナラハ漁期既ニ切迫セルニ拘ラス先

方ハ今ニ漁区表ノ發表スラナササル折柄我當業者ノ競売參加ハ事実上不可能事ニ属シ仮令形式競売ヲ為ス場合ト雖今

日トナリテハ貴電第一二三号競賣延期ノ如キハ益々漁期ヲ失ス可ク旁々先方ノ主張ハ我當業者ヲシテ漁業ヲ經營セシメスト言フト何等拝フトコロナク北京條約ノ精神ニ背反ス

若シ先方ニシテ同條約ノ精神ヲ遵守スルノ誠意ヲ有スルニ於テハ我當業者ヲシテ本年度漁業經營ヲ可能ナラシムルニ必要ナル措置ヲ執ルヘキハ當然ノ義務ニシテ之カ為メ少ナクトモ蟹及鯪ニ付キ大体ニ於テ昨年度日本人ノ經營セル漁区ヲ本年度ニ於テ其ノ儘經營セシムルノ外他ニ途ナシト認ム若シ夫レ國營企業ノ新規希望ノ若干漁区ノ決定並邦人経

決議

其ノ一

一、当面ノ出漁方法ニ付テハ昨年同様ノ實質ニ於テ速ニ解決スルコト

二、本年度漁区カ万一千競賣ニ付セラルル場合ハ組合員一致之ニ参加セサルコト

前項ニ反スルモノハ組合規約及慣例ニ依リ之ヲ処分ス
第一項關係組合員ハ組合ヨリ指定スル期日迄ニ本年度借区料ヲ組合ニ供託スヘシ

其ノ二

別途ノ決議遂行ノ為西南区漁区及蟹漁区ニ生スル損害ハ特別委員会ニ於テ之ヲ調査シ事実蒙リタル額ノミヲ賠償スルコト前項ノ賠償金ハ本年度漁区經營者ト組合(特別積立金)ニ於テ分担スルコト

114 昭和2年3月20日
(在ソ連邦田中大使より)
幣原外務大臣宛(電報)

蟹・鯪漁業問題に関するストモニヤコフ漁業

代表との会談について

モスクワ 3月20日後発

當漁区ノ借区料ノ若干値上等ニ付テハ協定ニ応スルニ客ナ

ルモノニアラス就テハ貴電第一二三号ニ拘ラス往電第五九号及本電ノ趣旨ヲ強ク先方ニ申入レラレ先方ノ回答振折返シ電報アリ度シ猶出漁問題ノ解決迄ハ本條約ニ関スル商議ハ差控ヘラレ度シ

農林大臣ト協議済

113 昭和2年3月16日
(在ソ連邦田中大使宛(電報))

領水産組合の決議について

本省 3月16日後発

第六五号

往電第六四号ニ関シ

露領水産組合ハ當面ノ問題トシテ此際條約締結ノ促進ヨリモ本年度出漁方法ノ決定ヲ以テ過ニ焦眉ノ急務ト認メ本年度一年ヲ限り昨年度經營セル漁区全部ヲ包括契約ト為スノ趣旨ヲ以テ左記ノ決議ヲ為セリ右ハ往電ノ趣旨ト異ル所アルモ兎ニ角先方カ此際普通ノ競賣ヲ断行スルニ於テハ事態ノ悪化ヲ招クヘキハ必然ナリト思考セラル右御参考迄

本省 3月21日前着

第一四二号

往電第一三七号ニ關シ

十九日「ストモニヤコフ」ト會見當面ノ問題タル蟹及鯪漁業ニ付貴電第六四号ノ御趣旨ニ基キ數時間ニ亘リ力説シ篤ト先方ノ考慮ヲ求メタルニ先方ハ蟹及鯪ノ関スル限り從来ノ契約ヲ一年間延長ニ付格別反対ナキ模様ナルモ鮭鱈ニ対スル先例トナルヲ惧ルモノノ如ク依然之迄ノ主張ヲ固持シ居タルモ兎ニ角再考ノ上成ル可ク速ニ何分ノ回答ヲナス可キ旨約セリ尚後刻「カラハン」ニモ會見シ本件解決ニ努ムル筈ナルモ不取敢「ス」トノ會談要領左ノ通り電報ス本使ハ十一日會見ノ要領ハ之ヲ政府ニ電報セリ然ルニ政府ヨリ嚴格ナル訓令ニ接セリ即チ條約問題ニ付テハ本使ノ意見ヲ充分考慮シ折角關係官廳ト協議中ナリト雖蟹及鯪漁業ハ既ニ出漁期間切迫シ且我當業者ノ希望スル漁区ハ一般漁区ニ比シ極メテ少ナルノミナラス國營企業ノ利害ニ關係ナク實際問題トシテ其解決簡単ナルモノナルニ之スラ未タ解決ヲ見サルカ如キ状態ニ於テハ到底條約問題ノ妥協的解決困難ナリト認ム故ニ此際先ツ以テ蟹及鯪問題ノ急速解決

ヲ要スト云フニ在リ言フ迄モナク蟹及鯪問題ニ関スル便法ハ之ヲ先例トシテ他ノ漁区問題ニ援用セントスル意向ナク万一条約ノ締結カ鮭鱈漁期ノ間ニ合ハサル場合ハ其際別ニ商議ヲナサントスルモノナリ思フニ本件ノ為条約ノ商議ニ一頓挫ヲ招来スルカ如キハ重大任務ヲ有スル貴我双方ノ為執ラサル処ナルニ付大局上ノ見地ヨリ何等カノ便法ニ付協定シタシ本使トシテハ一年間從来ノ契約ヲ延長スルヲ最適當ト認ムト述ヘタルニ先方ハ實際上ハ小問題ナルモ主義上ハ重大問題ナリ即チ条約成立迄ニ遵由スヘキ法律ハ一九二四年ノ実行方法ナリ右ニ付疑義アリトスルモ二五年ニハ完全ナル競売行ハレタリ

現ニ當時真藤氏ハ競売場ニ於テ競売ヲ歡迎ス競賣カ公平ニ行ハレン事ヲ切望スト述ヘタル旨ノ記録アリ之日本當業者カ喜テ競売ニ參加スル例証ニシテ日本側ヨリ何等抗議モナカリシナリ故ニ條約成立迄ハ右同様ノ競賣ヲ行フ可キモノナル事明カナリ然ルニ今一新例ヲ認ムルトセハ右主義ハ破ル可ク而モ今後条約成立迄ハ日本側ニ於テ右新例ヲ有力ナル新例トシテ援用セラル可シ時期切迫セリトハ云ヘ一九二四年ニハ四月六日ニ第二次ノ競賣行ハレタリ「ソ」側トシ

テハ蟹及鯪ニ付テハ他ノ漁区ニ對スルヨリモ早ク競賣ヲ行フノ用意アリ日本側ニ於テモ「ソ」側ノ立場ヲ諒トシ北京條約第三条ノ規定ヨリ退却スルコトヲ強ヒサラン事ヲ切望スト答ヘタルニ付本使ハ「ソ」側ノ心配ハ尤ニシテ日本側ニ於テモ「ソ」側ニ対シ「ソ」側カ退却ノ惡例ナリト認ムルモノヲ強ヒントスルモノニ非ス北京條約ノ解釈ニ付テハ「ソ」側モ主張アル可シ日本側モ亦之ヲ有ス今回条約ノ解釈ヲ上下セントスルニ非ス唯出漁期ノ關係上蟹及鯪ニ付便法ヲ協定セントスルモノナルニ付退却カ否カノ問題起ル事ナシスル便法ノ協定ニ付「ソ」側トシテハ北京條約ノ解釈ニ付留保ヲ付セラルルモ可ナラン日本側モ同様留保スル事アル可シ斯クセハ先例トナラス「ソ」側ニ不利ヲ齎ス事ナカル可ク若シ何等ノ便法スラモ協定困難ナリトセラルルニ於テハ北京條約ヨリモ退却以上ニ大ナル障害起ルヤモ計リ難キヲ惧ルト酬ヒタルニ先方ハ試ミニ問ヒタシトテ若シ条約カ鮭鱈漁期ノ間ニ合ハサル時ハ二五年ノ例ニ依リ競賣カ行ハルルモノト解釈シテ可ナルヤ之「カージナルボイント」ナリト述ヘタルニ付本使ハ右ハ北京條約ノ解釈ヲ決定スルニ外ナラス

従⁽³⁾テ此處ニ明答ヲ与ヘ難キハ當然ナリ蟹及鯪ニ付便法ノ協定ヲ求ムルハ決シテ先例トセントスル底意アルニ非ス條約商議ノ一大障害ヲ除カントスル以外他意ナシ而シテ本使自身トシテハ右障害ニシテ除カルルニ至ラハ鮭鱈漁期迄ニハ條約成立可能ノ期待ヲ有スル旨縷述セルニ対シ先方ハ懇談故打開ケテ申上クト前提シ若シ蟹鱈ニ付一年契約ヲ延長セハ日本當業者ハ之ヲ以テ條約ノ締結不用不利トシ政府当局ヲ動カスニ至ル事ナキヤ實ハ有力ナル同僚カ日本側ニ於テハ此際条約ノ締結ヲ欲セス一年間居据ハラントスル魂胆ヲ有ス之最近ノ状況ニ依リ推知シ得可ク元来日本側トシテハ蟹工船漁業ヲ有シ蟹漁区ノ如キハ余リ重要ナラサルニ拘ハラス強硬ナル主張ヲナスハ畢竟之ヲ以テ将来ノ先例トナサントスルニ過キサル可シト述ヘタル事アリ故ニ若シ本使ノ提案ヲ告ケナハ一層右ノ印象ヲ濃厚トン却テ「ソ」側内部ノ形勢ヲ悪化スヘク寧ロ条約ノ成立ヲ急キ適時ニ競賣ヲ行フ事トナス方可ナリト考フトテ執拗ニ其主張ヲ繰返シタリ

依テ本使ハ當業者ノ一部ニハ或ハ一年タケ居据ハラント目論見居ルモノアルヤモ計ラレス然レトモ當業者ノ大部分ハ「ソ」側ト協調ヲ計ル事ノ得策ナルヲ熟知シ居レリ現ニ

モスクワ 3月20日後発
本省 3月21日前着

(1) 第一四三号
往電第一四二号ニ関シ

十九日夜更ニ「カラハン」ニ会見シ本件ハ實質上些少ノ問題ナルニ拘ハラス「ストモニヤコフ」氏ハ之カ先例トナルコトヲ恐レ応諾ヲ難シトスルカ如キモ本件ハ切迫セル漁業ヲ解決スルタメ便法ヲ講セントスルモノニシテ北京條約ノ解釈ヲ決定セントスルニアラス從テ何等先例トナラサルハ當然ニシテ先例トシテ引用セサルコトヲ約スルモ可ナリスル杞憂ノタメ条約ノ締結ノミナラス両国ノ國交ニ悪影響ヲ及ホスカ如キ甚々遺憾ナルニ依リ政治的見地ヨリ熟考ノ上日本ノ希望ヲ満足セシメラレタントノ意ヲ力説シタルニ「カ」ハ「ス」ト同シク一九二四年ノ實行方法ニ依ルモ競売ヲナシタル事実及二五年二六年ニ於テハ普通ノ競売ヲナシタル事実ヲ述ヘ此際競売ヲナスモ日本側トシテ何等危惧スルノ要ナカルヘシ若シ一九二四年ノ實行方法ヲ写実的ニ繰返スコトトセハ二回ノ競売ヲ行ヒ第一回ハ日本人ハ参加セス露國側ハソノ好ム処ヲ取リ第二回ニ日本人カ殘留部分

ヲ取得シタルコト承知ススル事態ハ日本人ノ為不利ナルヘシ今回ハ一併ニ競売セントスルモノニシテ日本側ニ於テ不便トセラル理由ナカルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ一九二四年ハ競売アリタルハ事実ナルモ其前ニ双方ノ間ニ諒解アリ今回ハ貴方ハ右ノ諒解ヲ拒ミ單ニ競売ヲ行ハントスルモノニシテ右ハ日本トシテ到底同意出来ス國交回復前にテ當業者カナンタル交渉ニ於テ諒解ヲ与ヘナカラ國交回復後大使館ヨリナス交渉ニ於テハ諒解ヲ与ヘス直ニ競売ヲナサントスルカ如キハ日本ニ於テ不可解ノコトトナスヘク之カ結果日本人ノ參加ナキ競売ヲ見ルニ至ラハ不幸ナル事態ニ導クヘシ

本件ハ單ニ從來ノ事例ヲ云為セス政治的ニ解決スヘキモノナリ貴方ノ主張ハ條約締結ノ前途ニ暗影ヲ投スルモノニシテ之ニ反シ我希望ヲ容レラルレハ前途ニ光明ヲ与フルモノナリ日本政府ハ之ヲ好機トシ更ニ鮭鱈ニ對シ同様ノ諒解ヲ求メ此儘一年間居据ハラントスルカ如キ目先キノ見ヘサル底意ヲ有セス此上ハ直ニ條約締結ヲ促進スル考ナリト述べタルニ「カ」ハ北京條約締結當時ニ於テ第三条第二項ニ付日本側ハ旧條約ヲ實行セントシ「ソ」側ハ國內法ニ依ラン

トシ結局一九二四年ノ實行方法トナシタルモ競売ニ參加セサルカ如キ事ハ一度モ問題ニ上リタル事ナシ「ソ」側ニ於テハ條約改訂商議ニ伴ヒ極東地方ヨリ頻リニ日本人ヨリモ不利ナル地位ニ置カレサラン事ヲ請求シ来リ日本人ニノミ競売ニ依ラスシテ漁区ヲ借繼カシムルハ大ニ困難トスル事情アリ從テ本件ハ熟議ノ上ニアラサレハ回答シ難シ尤モ本件ノ為ニ條約締結ヲ遲延セシメ引ヒテ國交上ニ累ラ及ホスカ如キハ當方ノ本意ニ非サルニ付何トカ考慮ス可キモ競売ヲ全然廃止スルカ如キハ國內法ヨリ云フモ困難ナルヘシト述ヘタルニ依リ更ニ前説ヲ繰返シ日本政府カ本件ヲ重大視スルノ意ヲ強ク述ヘタルニ兎ニ角成ル可ク月曜日ニハ回答スヘシト約セリ

モスクワ 3月22日後発
本省 3月23日後着

第一四九号

往電第一四三号ニ関シ

二十二日「カラハン」ハ本使ノ來訪ヲ求メ先ツ別電ノ通覚書ヲ手交シタル後「ソ」政府ハ過日出淵次官カ「ベセドフスキーハ」ト話シタル處及本使ノ要請ヲ考慮シ日本本漁業家ヲシテ國營企業トノ競争ニ依リ漁区ヲ失フカ如キ憂ナカラシムル為此際非公式ニ國營企業ハ蟹及鯪ノ関スル限り現在所有スル二漁区以外漁区ヲ取ラサル可キ事ヲ言明スヘシ右ニ依リ日本側ハ安心セラレタント述ヘタルニ依リ本使ハ然ラハ更ニ進テ此儘一年間契約ヲ延期スル訳ニ行カサルヤト述ヘタルニ競売ハ形式的ニモ必要ニシテ之ヲ廢止スルハ國法上及慣例上不可能ナリ日本側ハ一、二ノ代人ヲ出しシテ入札セラルレハ然ル可ク万事ハ地方官憲ト貴方ノ代表者ト打合ハスナルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ兎ニ角政府ニ報告ノ上何分ノ挨拶スヘキ旨述ヘタルニ「カ」ハ此上何モ異議アル可キ答ナシト云ヒ居タリ

116 昭和2年3月22日 在ソ連邦田中大使より
別電 ソ連邦田中大使
請訓 より幣原外務大臣宛第一五〇号
漁区貸下げに関するソ連政府覚書

先方ニ対スル回答振至急回電アリタシ

(別電)

モスクワ 3月22日後発
本省 3月23日後着

第一五〇号

往電第一四九号別電

外務人民委員部ハ日本大使ヨリ伝アリタル鮑及蟹漁区問題ノ急速解決ニ関スル日本政府ノ希望ニ鑑ミ「ソ」連邦政府ハ右希望ニ副フ様之等漁区ノ貸下ヶ及借区ノ為メ直ニ競売ヲ指定スル用意アルコトヲ日本大使館ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

外務人民委員部ハ此ノ機会ヲ利用シテ両国間漁業条約締結ノ交渉(此ノ交渉ニ依リ両邦ハ幸ニ問題ノ大部分ニ付決定ヲ見ルコトヲ得タリ)カ速ニ結了スヘク且双方署名ノ条約カ日本漁業家ノ為メ競売ニ依ル漁区貸下ヶ付将来確タル秩序ヲ設定スヘシトノ確信ヲ陳述スルモノナリ

117 昭和2年3月23日

(幣原外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛 電報)

鯨・蟹漁区の一年間當業者への貸下げにつき

本国政府に打電方 在本邦代理大使へ申入れ

本省 3月23日後発

第七〇号

貴電第一四四号ニ関シ

二十二日出淵次官ヨリ露国代理大使ニ対シ去ル十八日鯨及蟹ニ対スル出漁便法ニ関シ懇談シタル次第ニ付テハ未タ本國ヨリ回電ニ接セラレサル趣ノ処鯨及蟹ノ漁期切迫セル折柄幣原大臣モ憂慮シ居ル旨ヲ以テ特ニ大臣ノ名ヲ以テ(此)際モスクワ政府ニ於テ鯨及蟹漁区ニ限り大体昨年度日本人ノ經營セル漁区ヲ其儘本年一年間我當業者ニ貸下ケラレタキコト()本件解決ヲ見サルニ於テハ両国間ノ友好關係ニ悪影響ヲ及ホスヘキコト()モスクワ政府ニ於テハ本件ニ關シ幾分疑惑ノ念ヲ抱キ居ルカ如キモ我方に於テハ鮭鱈漁区ニ對シテモ居据リヲ為サムトスルカ如キ意思毫モ無之コトヲ力説シ右ノ趣至急本國政府ニ電報方申入レタルトコロ代理大使ハ之ヲ快諾シタル趣ナリ

118 昭和2年3月25日

(出淵外務次官
在本邦ソ連邦代理大使 会談)

漁区貸下げ問題等に関する駐日ソ連邦代理大使の來談

漁業問題ニ付露国代理大使來訪ノ件

昭和二年三月二十五日露國代理大使出淵次官ヲ來訪シ去ル十八日會見ノ際御話シアリタル蟹及鯨出漁ノ件ニ付テハ早速本国ニ委細電報シ尚其ノ後二十二日重ネテ御話シノ次第ハ之亦直チニ本国政府ニ電報シ且自分ノ意見ヲ詳細ニ具申シ置キタル處昨日「カラハン」ヨリ回電ニ接シタリ右ニ拠レハ本國外務部ニ於テハ經濟部及農林部ノ激烈ナル反対アリタルニ拘ハラス日本政府ノ希望ニ応スルコトニ決定シ昨年同様ノ条件ニ依リ昨年ト同一ノ漁区ヲ日本人ニ貸下クルコトニ詰合ヒヲ纏メタル趣ナリ自分ハ右吉報ヲ次官ニ告クルコトヲ欣幸トスルモノナリト語リタリ仍テ次官ヨリ右ニ就テハ昨日田中大使ヨリモ電報ニ接シ大体好都合ニ運フコトトナルヘシト思考シ居リタル處今貴代理大使ノ御通告ニ接シ大イニ安心スルト共ニ段々ノ御尽力ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ度シト述ヘ同様ノ条件トハ貸下料モ昨年ト同等ニスル意味ナリヤト尋ネタルニ代理大使ハ同等ノ値段ナリト明言シ乍ラ多少不安ニ感シタルモノト見エ「ペーハップス」ト付ケ加ヘ兎ニ角今回ノ決定ハ形式的入札ノ下ニ昨年通リノ漁区ヲ昨年通り日本人ニ貸下クル方針ナリト内諾セリ

(此ノ時次官ハ山口總領事ヲ招キ前回ノ会談ノ続キトシテ露語ヲ以テ代理大使ト会談セシメタルニ大体前記ノ通リ語リ且今回ノ決定ニ依リ何等面倒ナク貸下ヶ行ハルヘキ旨ヲ確認セリ)

次イテ代理大使ヨリ「カラハン」ヨリノ次官ニ対スル「メッセージ」ナリトテ鯨及蟹ハ漁区ノ數モ少ナク地方住民ノ利害關係モ余り重カラサルニ顧ミ今回ノ如キ好意的取扱ヲ為シタル次第ナルモ鮭及鯨ハ地方住民トノ關係頗ル重大ナルヲ以テ今回ノ如キ便法ヲ講スルコト不可能ナルニ就キ此ノ機會ニ漁業協約ノ交渉ヲ促進スルコトニ尽力アリタキ趣ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ日本政府ニ於テモ専心漁業協約ノ進行ヲ希望シ居ル次第ナルモ工場問題及「コ一ポラティブ」問題等猶ホ意見ノ一致ヲ見サルモノアリ切ニ露國側ノ了解ヲ求メサルヲ得スト答ヘタルニ代理大使ハ工場問題ハ法律ノ關係アリ日本側ノ希望ニ応スルコト頗ル困難ナルコトヲ繰返シ述ヘタリ最後ニ代理大使ヨリ又々「ベツサラビア」問題ニ言及シ今ヤ英露ノ關係頗ル微妙ナルモノアル際万一日本政府ニ於テ「ベツサラビア」條約ヲ批准セラルルカ如キコトアランカ露西亞ノ面目上誠ニ忍ヒ難キコトトナ

ルヘシ本問題ニ就テモ「カラハン」氏ヨリ日本ノ國論「ベ」条約批准反対ニ傾キアルコトヲ見大イニ満足ニ思考シ居ルコトヲ申来リ居ルカ日本政府トシテ批准ヲ為ササルヘシトノ約束ヲ為スコト困難ナルハ露國政府ニ於テモ充分ニ之ヲ了解シ居リ又自分ヨリモ條約ノ批准ハ大權ニ屬スルニ顧ミ政府ニ於テ約束ヲ為スコト困難ナル次第ヲ本国ニ電報シ置キタル次第ナルカ批准セサルヘシトノ約束ノ代リニ或ル条件ノ下ニ批准延期ヲ約束セラルルヲ得サルヘキカ例へハ自分一個ノ私見ナルカ「『ソヴィエト』ト『ルーマニア』国トカ国交ヲ開始スル迄ノ間批准ヲ見合ハスヘシ」トノ約束ノ如キハ不可能ナルヘキヤト尋不タルニ付之ニ対シ次官ハ日本政府ニ於テハ目下批准問題ヲ考慮シ居リ此ノ際何等「コムミット」スルヲ得ス但シ自分一個ノ意見トシテハ「ベセドフスキ」氏カ日本國在勤中ハ日本政府ハ「ベッサラビア」条約ヲ批准セサルヘシト所謂貴代理大使ノ条件付批准延期ヲ約束シ得ヘシト告ケタルニ彼ハ自分ニ対スル御好意ハ深ク感謝ストレヒ笑セリ次イテ次官ヨリ冗談ハサテ措キ貴代理大使ニ於テ「ソヴィエト」國ト「ルーマニア」國トノ国交開始云々ヲ述ヘラレタルカ近ク両國ノ關係

何等「コムミット」スルヲ得ス但シ自分一個ノ意見トシテ

ハ「ベセドフスキ」氏カ日本國在勤中ハ日本政府ハ「ベ

ッサラビア」条約ヲ批准セサルヘシト所謂貴代理大使ノ条件付批准延期ヲ約束シ得ヘシト告ケタルニ彼ハ自分ニ対スル御好意ハ深ク感謝ストレヒ笑セリ次イテ次官ヨリ冗談ハ

サテ措キ貴代理大使ニ於テ「ソヴィエト」國ト「ルーマニア」國トノ国交開始云々ヲ述ヘラレタルカ近ク両國ノ關係

改善ノ望ミアル次第ナリヤト反問シタルニ代理大使ハ実ハ歐州戰争勃発後間モナク帝政露西亜ハ「ルーマニア」國ヨリ約四億円ニ相当スル金貨ヲ保管シアリタルカ右金貨ハ其ノ後悉ク露國ニ於テ費消シ「ルーマニア」ヨリハ右返還ノ請求ニ接シ居ル次第ナリ斯カル大金ハ今日露國ニ於テ返済スルコトヲ得サルニ付「ベッサラビア」ト右金貨トヲ相殺ニハ右ノ如キ結着ヲ觀ルニ至ルヘキカト思料ス露國トンテハ其ノ隣接國タル「ルーマニア」國トノ間ニ何時迄モ國交開始ヲ見サルカ如キハ甚タ苦痛トスル次第ナルヲ以テ孰レノ途両國間ニハ余リ遠カラサル機會ニ國交開始ヲ見ルニ至ルヘシト述ヘタリ

119 昭和2年4月1日 出淵外務次官 在本邦ソ連邦代理大使 会談

鯨・蟹出漁問題並びに中國時局問題等に関する意見交換

漁業問題ニ關シ露國代理大使來訪ノ件

昭和二年四月一日露國代理大使「ベセドフスキ」（大使着任セルモ未タ國書ヲ捧呈セス）出淵次官ヲ來訪シ昨日

「カラハン」ヨリ此ノ際可成速カニ漁業協約ノ談判ヲ進捗セシメ度ニ付日本政府ヨリ田中大使ニ向テ訓令ヲ發スル様貴官ニ懇談方電訓ニ接シタル旨ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ日本政府ニ於テ漁業協約ノ進行ヲ切望シ居ル次第ハ屢次貴代理人大使ニ御話シタル通ニテ露國政府ニシテ好意的態度ヲ以テ日本側ノ主張ヲ容レラルニ於テハ日本側ニ於テモ同様ノ精神ヲ以テ交渉ノ進行ヲ図ルヘキハ勿論ノ次第ナルニ付ル旨ヲ述ヘ尚此機会ヲ以テ日本側ニ於テハ協約ノ交渉ヲ遲延セシメ居据リヲ計ラムトスルモノニ非サルコトヲ篤ト説明セルニ代理大使ハ早速「カラハン」ニ電報スヘシト答ヘタリ次イテ次官ヨリ蟹及鰓出漁問題ニ言及シ過日貴代理大使ノ尽力ニ依リ形式的競売ニヨリ千九百二十四年ノ振合ニテ日本人ニ漁区ヲ与フルコトニ付貴國政府ヨリ約束ヲ取付ケ日本漁業組合ヨリ二名ノ代表者既ニ浦潮斯徳ニ赴キタル處貴國地方官憲ハ未タ右ニ関シ莫斯科ヨリ訓令ニ接セサル趣ニテ今以テ何等諒解成立セス日本政府當局モ將又漁業組合モ甚タ心許ナク思ヒ居ル次第故此ノ際重テ莫斯科政府ニ電報ヲ以テ至急地方官憲ニ訓令方上申セラレタント告ケタ

ルニ代理大使ハ地方官ニ於テ訓令ヲ受ケサル筈無シト信スルモ念ノ為重ネテ電稟スヘシト約束シ兎ニ角鯨及蟹ノ関スル限り國營ニ於テ日本漁業家ト競争スルカ如キコト絶対ニ無之又個人ノ競争ハ露國官憲ニ於テ之ヲ防止スルコト容易ナルニ付結局日本漁業家ニ從來通り漁区ヲ与フル事間違無キ旨ヲ切言シ今ヤ支那ノ時局極メテ重大ナル時ニ当リ本國政府ニ於テ漁業協約ノ如キ比較的小問題ノ為日本政府ニ對シ満足ヲ与ヘサルカ如キハ甚タ不得策ト思考セラルニ付篤ト從來ノ關係ヲ新任大使ニ説明シ適當ナル進言ヲ為サンムヘシト答ヘタリ

右会談ノ後代理大使ハ支那時局ニ言及シ南京事件以来日本ノ國論著ク硬化シタル模様ニテ万一再出兵論勢ヒヲ制スルカ如キコトトナラハ遂ニハ從來ノ穩健ナル日本ノ對支政策ハ徐ロニ強硬トナリ必然内政干渉ノ事態ヲ馴致スルニ至ルヘクサスレハ勢ヒ折角良好円満トナリタル日露ノ國交ニモ悪影響ヲ及ホスニ至ルヘク誠ニ痛心ノ至リニ堪ヘスト述ヘタルニ付次官ヨリ貴代理大使ノ觀察セラル通リ南京事件以来国内ノ輿論一時ニ高マリ反対党ハ勿論政府ニ同情ヲ寄セ来レル向ニ於テモ今回ノ事件ヲ以テ政府ノ責任ニ帰シ此

122 昭和2年4月5日 勅原外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛 (電報)

予想に反する競売結果に対し我が方の希望実

現方訓令

本省 4月5日後発

第九四号

浦潮競売ノ結果ハ貴地ニ於ケル先方トノ話合トハ大ニ相違スル状態ナルニ付テハ此際當業者代表ヲシテ引続キ漁業庁ニ対シ希望貫徹方交渉セシムヘキモ貴官ハ予テノ話合ト相

違セル点ヲ指摘セラレ我方ノ希望ニ副フ様措置方至急先方へ交渉セラレ結果當方及浦潮哈府へ電報セラレタシ

123 昭和2年4月5日 勅原外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛 (電報)

競売および最低価格につき再度交渉方訓令

本省 4月5日後発

第九五号

往電第九四号ニ関シ

競売ノ結果鯨漁区ニシテ露側ニ競落セシモノノ内昨年度借区料二、三〇〇留ナリシモノニ対シ五、五一〇留ヲ以テ競

落シ不落漁区中昨年度一、五〇〇留ナリシモノニ対シ最低価格ヲ五、〇〇〇留ト指定シアリ又蟹漁区ノ不落漁区中昨年度二、八七五留ナリシモノニ対シ最価格ヲ二〇、〇〇〇留ト指定シアルカ如キ事実ヲ見タルニ付テハ再交渉ノ結果露側ニ奪取セラレタル漁区及不落漁区ヲ取戻スコトナル場合テモ前記ノ如キ競落価格又ハ最価格ニテハ予テノ話合ノ趣旨ニ反シ我方ノ希望ニ副フモノニアラサルコトヲ考量ニ入レ先方へ交渉セラレタシ

124 昭和2年4月5日 出淵外務次官
在本邦ソ連邦代理大使 会談

蟹・鱈漁区競売結果に関する会談

昭和2年4月5日露國代理大使「ベセドフスキイ」ヲ招致

シ出淵次官ヨリ浦潮ニ於ケル蟹鱈漁区競売ノ結果ニ關シ注意ヲ喚起シ先般莫斯科ニ於テ「カラハン」氏ヨリ田中大使ニ約束シタルコト貴代理大使カ東京ニ於テ約束セラレタルコトニ顧ミ今回ノ結果ハ真ニ意外トスル所ニテ漁業關係者ハ痛ク憤慨シ居ル有様ナリ就テハ速ニ莫斯科ニ電稟シ過

日約束セラレタル通り千九百二十四年ノ振合ニ依リ日本人ニ漁区ヲ与フル様至急手配有度旨懇談シタルニ代理大使ハ右ノ如キ意外ノ結果ニ立到リタルハ全ク地方官憲ノ誤解ニ基クモノト考ヘラルニ付速ニ莫斯科ニ電報シ善後措置ヲ講スヘシトテ引取りシカ越ヘテ七日朝同代理大使出淵次官ヲ來訪シ今朝莫斯科ヨリ返電ニ接シタル旨右ニ拠レハ「カラハン」氏ニ於テモ深ク今回ノ結果ヲ遺憾トシ直ニ善後策ヲ講スルコトニ決定シタル趣ニ付何レ近日中過日御約束シタル通日本人ニ其ノ希望スル漁区ヲ与ヘ得ルコトトナルヘシト語レリ

右終テ代理大使ハ六日北京ニ於ケル露國大使館搜索問題ニ

可侵權ヲ有スル大使館敷地ニ侵入シ家宅搜索ヲ為スト共ニ言及シ約三百ノ支那憲兵及巡警力公使館区域内ニ侵入シ不

二十五名ノ露西亞人ヲ拉致シタルコト如何ニモ言語同断ノ(道)

次第ナルヲ以テ露國代理大使ハ直ニ支那政府ニ向テ嚴重ナル交渉ヲ為シタリ北京ヨリノ電報ニヨレハ首席公使タル和

蘭公使ハ予メ支那憲兵巡警ノ公使館区域立入りニ非公式承諾ヲ与ヘタリトノコトナルカ右ハ公使團會議ノ同意ヲ得タル結果ナルヘシト思ハル旨ヲ語リタルニ付次官ヨリ本件

125 昭和2年4月5日 在ソ連邦田中大使より

編注 後出287文書参照。

競売結果に対するカラハンの陳謝並びに善後策表明

モスクワ 4月5日後発

往電第一七二号ニ閲シ

五日「カラハン」ニ会見浦潮ヨリノ電報報告ニ依リ競売ノ結果ヲ説明シ斯ノ如キ事態ニ至リタルハ日本ニ於テ政府及當業者何レモ非常ニ不満ナルヘク殊ニ最モ驚クヘキ事実ハ官厅価格カ未曾有ノ騰貴ヲ見タルノミナラス右ニ拘ハラス露人側ハ鯨漁区ノ闊スル限り日本人ノ分ヲ八個迄落札シタル事ニシテ斯ノ如キハ漁業官厅ト露人側トニ何等カ不法ナル連絡アリタルコトヲ語ルモノニシテ此ノニノ事実ニ依リ今回ノ競売ハ全然不公正ナリト謂ハサルヘカラス斯ル意外ノ椿事ヨリ来ルヘキ影響ハ甚大ナルヘク本使カ努力シ來リタル条約改訂問題ニ付テモ恰モ足下ヲ洗ハレタル感アリ真ニ遺憾ニ堪ヘサル旨切言シタルニ「カ」ハ平常ニ似合ハス大イニ恐縮シ实ハ昨夜本使ヨリ意外ノ結果ヲ耳ニシ直ニ浦潮ニ電報シ報告ヲ求メ置キタルカ未タ回答ニ接セサルモ中央政府ノ意思ハ嘗テ本使ニ語リ又在東京代理大使ヲシテ伝エシメタル通リ蟹及鯨ノ闊スル限り昨年通り日本人ニ經營セシメムトスルモノニシテ其ノ趣旨ニテ地方官憲ニ訓令シ置キタルニ斯クノ如キ結果ヲ招キタルハ彼等ノ馬鹿ニ依ルモノニシテ責任者ハ处罚セサルヘカラス日本側ニ於テ憤懣

126 昭和2年4月5日

在ソ連邦田中大使より
幣原外務大臣宛(電報)

競売の結果とソ連当局の対応振りについて

モスクワ 4月5日後発
本省 4月6日後着

第一七四号

本官発浦潮宛電報

第三〇号

佐々木ヨリ組合ヘ

佐々木ヨリ井出平塚両代表へ
第三一号

貴電第六号迄ト長尾及ヒ平塚氏ヨリノ電皆見タ昨日競売參加ニ際シ諸君ノ執ラレタル凡テノ態度ハ実ニ立派ニシテ何等一点申分無キモノト認メ衷心感激ニ堪エス然ルニ其結果

報告ニ接シ意外千方百実ニ千秋ノ痛恨事ナリ依テ早速昨夜之カ善後策ニ付篤ト陳情シタルカ大使ハ即夜並ニ本日午後露

国当局ニ嚴談シタルニ此事実ヲ疑フ迄ニ驚キタル態度ヲ示シ極東官憲カ中央ノ電訓ヲ無視シタルヲ憤慨シ同時ニ日本側ニ対シ恐縮ノ意ヲ表サレ此際是非共日本當業者ニ満足ヲ

セラルルハ至極無理カラヌ事ナリ就テハ早速善後策ヲ講スヘキカ不落ノモノヲ郵報シ競売シテハ如何ト述ヘタルニ付本使ハ露人側ニ横取りセラレタル八漁区ハ如何ニナルヤト聞キタルニ或ハ一部代漁区ニテ辛棒出来サルヤト述ヘタルニ依リ日本漁業者ハ此上再競売ニ参加セサルヘク又代漁区ノ如キハ問題トナラス本使トシテハ該競売ヲ無効トシ更メテ日本人ノ契約ヲ一年延期シ本年モ昨年通り引続キ出漁シ得ルコトトナスヨリ外ニ名案ナント思考ス但シ借区料ノ如キハ幾分増加スルモ已ムヲ得サルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ其ノ案ハ自分トシテ異議ナシ唯競落者ニ「コオペラチーブ」及個人組合等アル関係上手続問題トシテ如何スヘキヤ承知セサルヲ以テ一応当局者ト協議スルヲ要ス何レニシテモ日本側ハ安心セラレ度ク何トカ満足ヲ与フル様解決スヘキハ責任ヲ以テ明言スヘシ就テハ浦潮滯在中ノ日本漁業代表ノ出発ハ一先ツ見合シメラレシト述フ依テ本使ハ然ラハ貴下ニ信頼スヘキモ何分時期切迫セルニ付一兩日中ニ決定セラレ度旨ヲ述ヘ其ノ承諾ヲ得タリ

浦潮ニ転電シ哈府ヘ転電セシム

127 昭和2年4月7日

在本邦ソ連邦大臣 会談
幣原外務大臣

鯨・蟹漁区経営に關し昨年と同様の希望申入れ

昭和2年4月7日 漁業問題ニ閲シ外務大臣

大使

第一七七号

128 昭和2年4月(8)日

(在ソ連邦田中大使より
幣原外務大臣宛(電報)

カラハンの再競売実施表明に対し我が方の対応振りにつき意見具申

モスクワ 本省 4月8日後着 後発

私ノ莫斯科出発ノ頃ハ漁業協約ノ改訂商議モ終末ニ近キツツアル模様ナリシニ依リ当地到着ノ頃ニハ最早条約ハ締結セラレ居ルヘシト思ヒ居リシニ今尚商議中ナルコトヲ知リ驚キタル次第ナリ又今回鯛蟹漁区ノ競売ニ付行違ヲ生シタルコトハ甚タ遺憾ニ堪ヘス

大臣

鯛蟹漁区競売ノ不結果ニ付テハ當業者ヨリ陳情モアリ彼等ハ政府ニ欺瞞セラレタリトテ不平ヲコホシ居ルニ依リ右ハ中央政府ト地方官憲トノ間ニ何等カノ誤解アリタルニ基ケルモノナルヘキモ當方トシテハ両国間ノ予テノ約束通り實行セラル様取計フコトニ努力スヘキ旨説明シテ彼等ヲ慰メ居レル次第ナルカ貴方ニ於テハ我當業者ニ

対シ満足ナル解決ヲ与ヘラレムコトヲ切望ス

大使

競売ニ付行違ヒアリシコトハ私モ遺憾ニ存シ且大臣ノ立場ニ同情スルモノナリ

條約締結ヲ見ルニ於テハ漁区貸下ハ條約ノ規定ニ拠ルコトトナリ今回ノ如キ行違ハ全然起ラサルコトトナルヘキ

大臣

鮭鱈漁区ニ関シテハ未タ何等ノ協定ナシ鯛蟹漁区ニ付テハ既ニ協定モアルコト故代漁区ヲ与フルコトシテ問題ノ解決ヲ計ルカ如キハ好マシカラス矢張リ昨年日本人ノ經營シタル漁区ニシテ本年モ亦經營ヲ希望スル漁区ヲ貸下クルコトトセラレタシ

大使

鮭蟹漁区ニ付テハ「カラハン」ヨリノ電報モアルコト故貴方ノ希望ニ副フ様解決セラルヘシト思考ス我方ハ条約改訂ニハ我方ニトリ最少限度ノ「インテレスト」ヲ維持シ得ル限り出来ル丈妥協シテ成ルヘク速ニ條約ノ締結ヲ希望シ居レリ

往電第一七三号ニ関シ

「カラハン」ハ七日夜本使ノ來訪ヲ求メ鮭蟹漁区今回ノ競売ニハ不正ノ点アリタルニ依リ之ヲ取消シ九日頃再競売ヲ施行シ度考ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ今回競売ノ不公平ナリシニハ我當業者ノ代表者モ呆レ且憤慨シ本使ヨリノ引留電報ニ拘ハラス浦潮ヲ出発セル次第ナレハ仮令貴方ニ於テ再競売ヲナストモ前回ノ例ニ懲リ之ニ参加スル事ヲ欲スルヤ疑ヒ無キ能ハス前回申シタル通り漁期切迫ノ今日ナレハ前年ノ借区契約(借区料ハ多少割増スル事トシ)ヲ更新スル事カ最良ノ方法ナラスヤトテ再三此方法ニ依ラン事ヲ求メタルモ「カ」ハ右ハ国内法上ノ困難アリ今次ノ競売ハ遺憾乍ラ現場ニ不正事件アリ目下責任ヲ明ラカニシツツアルモ再競売ニハ前回ノ如キ事ナク一片ノ形式ニシテ最低価格モ今回ノ如ク法外ニ引上クル事ナキヲ以テ日本當業者ハ其希望スル全部ノ漁区ヲ「ポケット」ニ入レタルモノト考へ競売ニ参加シテ可ナリ若シ正式代表引揚ケタリトセハ在浦潮日本領事ノ証明アル者ヲ適宜代表者ト認メ差支ヘナク

今回ノ誤解ハ遺憾ナルモ自分ニ於テ大使ニ對シ日本人ハ從来通リノ漁区ヲ借り受ケ得ト約束シタル以上此約束ハ必ス

ニ依リ至急條約ノ締結セラレムコトヲ希望ス
鯛蟹漁区競売ノ結果ニ付テハ中央ノ訓令カ地方当局ニ徹底セサリン為メ起リシモノナルモ「カラハン」ヨリノ電報ニ依レハ既ニ中央ヨリ地方ヘ再訓シタル趣ナレハ予テノ約束通り實行セラルコトト信ス

大臣

我方トシテモ条約ノ急速締結セラレムコトハ衷心希望スルトコロナルモ何分鯛蟹ノ漁期切迫シ條約ノ締結ヲ待ツコトヲ得サル際ナルニ依リ鯛蟹漁区ニ付両国間ノ約束ヲ見タル次第ナルカ貴方ハ競売施行後ノ今日如何ナル方法ヲ以テ日本漁業者ヲシテ昨年通り鯛蟹漁ヲ行ハシムル考ナリヤ

大使

私ハ鮭鱈漁区ニ関シテハ如何ナル協定カアルヤハ承知シ居ラサルカ鯛蟹漁区ニ付テハ協定成立シ居ルニ依リ其ノ通り実行セラルヘキモ此際如何ニ日本漁業者ノ希望ヲ満足セシムルコトトナルヤノ技術上ノ方法ハ承知セサルモ例ハ代漁区ヲ与フル等ノ方法ヲ以テ日本人ニ満足ヲ与ヘ得ヘキコトト思考ス

履行セラルヘキニ付是非當業者ヲ慰撫シ再競売ニ参加セラレタシト懇請シタルニ依リ本使ハ之ヲ政府ニ至急電稟スヘキヲ約セリ

尚「カ」ハ契約締結ニ付テハ即時在浦潮外務部代表「シマノフスキ」ヲシテ在函館領事ニ電報セシメ漁船ノ出帆等ニ付支障ヲ來ササル様措置セシムヘク又税金未払等ノ問題ニテ支障ヲ來スカ如キ事無キ様ニスヘシト約束セリ

右ノ次第ニ付此上一ヶ年契約延期ノ交渉ヲナスモ時日ヲ空

費スルノ惧アルニ付浦潮在留漁業関係者ニ委任シ競落価格

ハ過日我代表者カ入札シタル範囲内ニ於テ先方「カラハン」ハ「シマノフスキ」ト言ヘリト適宜協定セシメ至

急手続ヲ完了シ出漁セシムル事最善ノ方法ト認メラル右ニ付何分ノ儀至急回電アリ度

浦潮ヘ転電シ哈府ヘ暗送セシム

129

昭和2年4月12日

在ウラジオストック渡辺総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

漁区再競売の実施について

ウラジオストック 4月12日後発
本省 4月12日後着

右ニ付スルノ惧アルニ付浦潮在留漁業関係者ニ委任シ競落価格

ハ過日我代表者カ入札シタル範囲内ニ於テ先方「カラハ

ン」ハ「シマノフスキ」ト言ヘリト適宜協定セシメ至

急手続ヲ完了シ出漁セシムル事最善ノ方法ト認メラル右ニ付何分ノ儀至急回電アリ度

浦潮ヘ転電シ哈府ヘ暗送セシム

130

昭和2年4月13日

在ソ連邦田中大使宛(電報)

鮭・鱈出漁に関する基本方針について

本省 4月13日後発

第八四号

往電第八〇〇号ニ閲シ

競売ハ予定通り行ハレ我方漁区全部(三九工及蟹場四二才ゼルヌイ共)競落セリ組合員外ノ参加邦人ナク露側参加者ハ國當カ予定通り蟹場二区ヲ取り個人二名ノ内一名ハ邦人以外ノ一漁場ヲ取り他ノ一名ハ我一漁場ニ入札シタルモ官憲之ヲ認メス我方ニ競落セシメタリ公式發表ハ午後五時ナルモ不取敢

在露大使、哈府ヘ転電セリ

今般蟹及鱈出漁問題無事解決ノ上ハ本條約ノ急速成立ニ力ム可キハ勿論ナルカ我方トシテハ往電第七八号當方提案成立セハ自余ノ事項ハ歩ミ寄リノ余地アリト思考シ且ハ貴電第一八一号労働問題(農林省ト折角協議中)迪條約ノ成否ヲ決定スル程ノ主要問題トハ思考シ居ラサル次第ナレハ

一〇四号

昭和2年4月13日

在ソ連邦田中大使宛(電報)

鮭・鱈出漁に関する基本方針について

本省 4月13日後発

露側ニ於テ往電第七八号當方案ヲ承認スルニ於テハ條約成立ノ見込確実トナル訣合ナリ然レトモ条文ノ整理及爾余ノ未決問題ノ妥結等ノ為條約ノ調印迄ニハ猶ホ相当ノ時日ヲ要スヘキニ拘ハラス他方鮭鱈出漁期ハ既ニ切迫シ殊ニ東「カムチャツカ」及「カラギン」ノ両区ハ五月初旬、西「カムチャツカ」「イチンスキイ」等ハ四月中旬ニ出漁ヲ必要トスル次第ニ付條約調印ノ後直チニ往電第四九号ノ便法ニ依ルコトトスルモ少クトモ前記各区ニ付テハ時期既ニ遅シト認メラル然ルニ先般蟹及鱈出漁問題商議ノ際其ノ解決方法ヲ鮭鱈出漁ノ先例トシテ援用セサル旨ノ約議モアルコトニ付我方トシテハ出来得ル限り條約商議ノ速進ニ力ムル積リナリシモ何分條約規定ノ最重要部分ニ付キ双方ノ意見合致セサルニ加ヘ蟹鱈競賣行違等ノ事故ノ為メ本條約商議カ自然延引シ復又鮭鱈漁期ノ切迫ヲ見タル次第ナリ加之本邦當業者ハ條約商議ノ停頓ヲ見テ早クモ漁期前条約成立ノ不可能ヲ見越シ本年度出漁ハ北京條約第三条ニ依リ当然前年度通リノコトト解シ普通競賣參加ノ準備ヲ整ヘサル向アリ然ラサルモノト雖條約成立時期不明ノ為メ準備モ氣迷ヒ自然平年ノ如ク氣乗リセサリシ内漁期切迫シ取急キ準備ヲ進

(1)昨年度我當業者經營漁区中本年度經營希望漁区全部ヲ

297

296

貸下クルコト

(d) 前記漁区ノ借区料ハ昨年度借区料ノ一割五分見当マテ
増額ニ応スルコト

(e) 国営企業ノ新規希望漁区留保ノ協議ニ応スルコト但シ
右ハ現存工場所在漁区及其ノ付属漁区（往電第九号參照）タルヘキモノニ手ヲ触レス且ツ日本人ノ代漁区希望申出等ヲ容ルルヲ条件トスルコト
農林大臣ト協議済

131 昭和2年4月15日

在ソ連邦田中大使より
幣原外務大臣宛（電報）

鮭・鱈漁区の競売方法に関するカラハンとの会談について

モスクワ 4月15日後発
本 省 4月16日後着

第一九四号

貴電第一〇四号ニ関シ

十五日「カラハン」ニ会見、条約ハ急速ニ纏リ難キニ付鮭鱈ニ付テモ本年ノ出漁方法ヲ決定スル必要アルヘキ旨ヲ述ヘタルニ先方ハ同感ノ意ヲ表シ至急競売期日ヲ決定シタキ

132 昭和2年4月15日 在ウラジオストック渡辺總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

鮭・鱈漁区の競売方法に関する意見具申

ウラジオストック 4月15日後発
本 省 4月16日前着

第八八号

今次ノ競売ハ御知悉ノ通り曩ニ一旦競落ヲ公示セセルニ拘ハラス我方御交渉ニ応スベク单ニ「前回ノ競売ハ競争ノ結果國営機關及地方住民ノ競落漁区暴騰ノ為之ヲ取消ス」云々トノ公示ニテ再競元ニ付セラレ而モ公示後纔ニ二日ニテ入札ヲ行フ如キ形式上違法ナルノミナラス内実ニ於テモ我方ノ落札ヲ期スル為予メ国営ハ素ヨリ「プリプロムサユーズ」及個人団体ニモ他ノ沿海及河川漁区ヲ（拙信公第一七五号ノ如キ）有利ニ与フル内約位ニテ不参加ヲ強制シタル如ク又個人参加者「スマイルノフ」カ前回落札シ今回モ我方ニ比シ高価ニ入札セルニ拘ハラス身元証明書添付ナカリシヲ理由ヘトナラス此ノ点本人ヨリ抗議シタルモ取上ケラレス本件ハ法廷ニ争ハ勝訴トナルヘキモ泣寝入リナラン）ニ無効トスル等且入札ノ方法モ從来ト異リ入札価格モ不落漁区ノ官厅価格モ読上ケス入札ノ結果ノミヲ周知セシメタル如キ頗ル違法ノ遺方ナリシカ之即チ其ノ反面ニ前回ノ入札カ今回ト反対ニ露側ノ為予メ国営乃至「コオペラ」個人團体等ニ内通シ置キ單ニ形式競売ヲ行ヒタル先方ノ所謂「メダル」ノ裏面アリシヲ暴露セルモノニシテ此ノ事實及

今回ノ入札ニ既報組合員外ノ一邦人カ参加ヲ企テタルコト

口吻ナリシヲ以テ普通ノ競売ヲ行フトセハ日本ハ絶対ニ反

対スヘキハ勿論ナリ日本人ハ大体昨年同様ニ出漁シ得ル期待ノ下ニ準備ヲ整ヘ居レリ就テハ普通ノ競売以外何等カノ方法ヲ立テサルヘカラスト先方ノ意向ヲ探リタルモ未タ関係方面ト打合セ居ラサル故ヲ以テ意見ヲ述ヘス却テ本使考ヲ聞キタルヲ以テ此ノ儘一年間契約ヲ延長セハ最モ簡便ナルヘント述ヘタルニ日本ハ蟹、鯨ノ例ヲ繰リ返サントスルモノニ非スヤトノ事ナリシニ依リ國営企業カ本年着手スルニ新計画アラハ考慮スルヲ辞セス國営ハ幾許ノ漁区ヲ經營セントスルカト聞キタルモ未タ承知セサル旨ヲ答ヘ更ニ「コオペラチーブ」及個人ニモ希望アルカ如シト云ヒ何レ関係方面ト協議ノ上兩三日中ニ本使ト会談スヘキ旨ヲ約セリ

第一一九号

本 省 4月23日後発

133 昭和2年4月23日 在ソ連邦田中大使宛（電報）

鮭・鱈漁区問題に関する交渉継続のため競売日延期申入れ方訓令

在露大使ニ転電シハバロフスクヘ暗送セリ

二十二日「ベセドフスキ」ハ出淵次官ニ対シ「カラソン」ヨリノ電報ナリトテ鮭鱈漁区ニ付テハ露側ハ（日本人）ニ手ヲ触レサルコト（）国営及「コオペラチー

「」ノ為鮭鱈漁区ノ二割以内ヲ取得スルコトノ希望ヲ開陳

シタル趣ノ処右ハ何レモ我方ノ承認シ難キ所ナリ先ツ工場
漁区ニ付テハ單ニ日本人工場ノ存在スル漁区ノミナラス本

協約力往電第七八号当方案ノ趣旨ニ依リ成立シタル暁工場

付属漁区トナル可キモノヲモ一括シテ當方ニ保有セントス

ルモノナリ又先方カ國營及「コオペラチーヴ」ニ留保セン

トスル漁区ヲ二割以内ト切り出シタルハ例ノ駆引トハ思考

スルモ我方ハ個人ノ經營ニ係ラサル極テ少數ノ漁区ヲ本邦

側トノ相談ニ依リ留保スルコトヲ認メ尙ホ右留保ヨリ受ケ

ル打撃ヲ代漁区ノ取得ニ依リ緩和セントスルモノナリ然ル

ニ先方カ漁期切迫ノ今日右申出ノ如キ多數漁区ヲ留保セン

トスルニ於テハ往電第一一六号組合決議ノ次第モアリ事態

徒ラニ紛糾ス可シ本協約成立ノ暁数年ニ亘リテ留保セラル

ヘキ漁区ト本年一年度限リノモノト殆ント同一トナスカ如

キハ極メテ不合理ノ申出タルハ申ス迄モナシ僅カニ一年ノ

コトニモアリ新漁区及日本人ノ經營中止漁区等ニ於テ或ル

程度ノ留保ヲ以テ露側カ満足セサル限りハ到底考慮ノ余地

ナシ尚ホ右「ベセドフスキ」談話ハ在京大使限リノ含ミ

トシテ「カラハン」ヨリ電報アリタルモノヲ内話シタルヤ

ノ疑アルニ付此点特ニ御含置アリ度シ

尚ホ組合決議ニモアル通り組合側ハ貴官ト露側トノ間ニ取

極成立ヲ見タル上ニテ當業者代表ヲ浦潮ニ派遣スル意向ニ

有之當方ヨリハ組合側ニ対シ右取極成立ト共ニ直ニ地方當

局ト交渉ノ為予メ代表ヲ派遣シ置ク様勧メタルモ承諾セサ

ルニ依リ組合側ハ二十七日ノ競売參加ニハ到底間ニ合ハサ

ルニ付右延期方先方へ申入レ置カレタシ

134 昭和2年4月26日 在ソ連邦田中大使より

競売期日延期に対するカラハンの不同意表明

について

モスクワ 4月26日後発
本省 4月27日後着

第二〇号

貴電第一一三号及第一一二三号ニ関シ

當時恰モ休日続キナリシヲ以テ競売延期ノ件ハ不敢二十

四日書面ヲ以テ「カラハン」ニ申込ミニ二十六日会見セル處

「カラハン」ハ休日ノ為關係方面トノ打合セ未濟ナルモ明日ニ差

迫リタル競売ヲ延期スルコトハ甚タ困難ナリ依テ明日ハ予

定ノ通施行シ日本側ノ為ニ更ニ第二回ノ競売ヲ行フコトト
セハ如何トノコトナリシヲ以テ明日ノ競売ニ依リ日本人ノ

漁区奪取サルレハ事態面倒トナルヘク此際競売延期ヲ以テ

最善ノ途ト考フル旨ヲ述ヘタル処更ニ相談ノ上至急回答ス

ヘシト約セリ又今回発表ノ漁獲標準高ノ著減及若干漁区未

発表ノ不当ヲ鳴シ斯ノ如キ遣方ニテハ貴方カ如何ニ安心セ

ヨト言ハルルモ信用シ難シ万事昨年通リタルヘキコトヲ力

説シタルニ「カラハン」ハ其辺ハ何トテモ調定シ得ヘク御心配ニ

及ハスト言ヒ何レ重ネテ回答スヘシト述ヘタリ又我漁業代

表ト農務當局トノ会談ハ前述ノ点決定如何ニ依リ直ニ相運

ハシムヘク組合ヨリ彼等ニ宛テタル電報ニハ脇ニ落チサル

処アルモ本使トシテハ貴電ノ趣旨ヲ体シ先方ト折衝セシム

ル積リニテ一応「カラハン」ニ対シ我當業者代表カ会談ノ用意アルコトヲ話シ置キタリ

浦潮、ハバロフスクヘ転電セリ

135 昭和2年4月28日 在ウラジオストック渡邊總領事より

競売強行に対する抗議並びに再競売実施につ
き申入れ

区表条件等力漸ク入札当日位當業者ニ通達サレタル如キ急
遽違法ノ遣方ニテ協約ニ反スルノミナラス事実邦人ヲ排除
スル如キ北京條約及莫斯科商議ノ精神ニ反スルモノニテ二
十六日懇談ノ重大ナル事態ヲ招クモノ故漁獵庁ノ行為ニ抗
議シツツ本入札ヲ取消シ中央ノ協定ニ依リ更ニ入札ヲ行ハ
レタシ」ト申込ミ且昨夜来浦セル「マモノフ」ニモ同様照
会ヲ発シ目下会見申込ミ中ナルカ漁獵庁ハ未タ（午後二
時）入札ノ結果公認ノ発表ヲ差控ヘアリ

在露大使、哈府へ転電セリ

136 昭和2年4月29日 在ソ連邦田中大使（在ソ連邦田中大使より）
田中外務大臣宛（電報）

漁区競売に関するカラハンへの抗議について

モスクワ 4月29日後発

本 省 4月30日前着

第二一七号

貴電第一二八号ニ関シ

二十九日「カラハン」ニ会見セル処「カ」ハ二十七日ノ競
売ニ依リ日本側ヨリ奪取セル分ハ認可スヘカラスト訓令セ
ル旨ヲ語リ至急第二回競売ヲ行ヒ日本人ノ希望漁区ヲ取ラ

137 昭和2年5月3日 在ソ連邦田中大使（在ソ連邦田中大使より）
田中外務大臣宛（電報）

漁区再競売実施に関するソ連側回答について

モスクワ 5月3日後発

本 省 5月4日後着

第二三二号

貴電第一三三二号ニ関シ

(1) 第二三二号

二十九日「カラハン」ニ会見後（往電第二一七号参照）當
業者代表ヲシテ先方ノ指定セル最高經濟會議ノ一員「クル
イショフ」ヲ往訪セシメタル処「ク」ハ國營カ将来經營ヲ
希望スル漁区ニ付協議シタキ意向ヲ示シ本年度ニ関シテハ
会談ノ用意ナク只予算トノ關係上國營ハ格別發展ノ余裕ヲ
有セサル旨其レトナク話シタルニ止マレル由ニテ當業者代
表ニ於テハ先方ノ態度ニ鑑ミ切込ミテ会談ヲ進ムルコトハ
却テ不利益ト認メ結局不得要領ノ儘引取り來レリ依テ「カ
ラハン」ニ対シ直ニ書面ヲ以テ貴下ノ懇情ニ基キ當業者代
表ヲシテ「ク」ニ面談セシメタルモ何等要領ヲ得サリシ旨

区表条件等力漸ク入札当日位當業者ニ通達サレタル如キ急
遽違法ノ遣方ニテ協約ニ反スルノミナラス事実邦人ヲ排除
スル如キ北京條約及莫斯科商議ノ精神ニ反スルモノニテ二
十六日懇談ノ重大ナル事態ヲ招クモノ故漁獵庁ハ行為ニ抗
議シツツ本入札ヲ取消シ中央ノ協定ニ依リ更ニ入札ヲ行ハ
レタシ」ト申込ミ且昨夜来浦セル「マモノフ」ニモ同様照
会ヲ発シ目下会见申込ミ中ナルカ漁獵庁ハ未タ（午後二
時）入札ノ結果公認ノ発表ヲ差控ヘアリ

在露大使、哈府ヘ転電セリ

136 昭和2年4月29日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛（電報）

漁区競売に関するカラハンへの抗議について

モスクワ 4月29日後発
本省 4月30日前着

第二二七号

貴電第一二八号ニ関シ

二十九日「カラハン」ニ会见セル処「カ」ハ二十七日ノ競
売ニ依リ日本側ヨリ奪取セル分ハ認可スヘカラスト訓令セ
ル旨ヲ語リ至急第一回競売ヲ行ヒ日本人ノ希望漁区ヲ取ラ

表者ト先方当局ト今日中ニモ会見セシムルコトトセリ
ハバロフスク、浦潮ヘ転電セリ

137
昭和2年5月3日
田中大臣宛(電報)
在外務大臣大使より
在ソ連邦田中大使より

漁区再競売実施に関するソ連側回答について

貴電第一三二号ニ関シ

二十九日「カラハン」ニ会見後（往電第二一七号参照）當業者代表ヲシテ先方ノ指定セル最高経済會議ノ一員「クル

イシヨフ」ヲ往訪セシメタル処「ク」ハ国營力将来經營ヲ希望ヘレ魚之才協義ノタニ意河ヲ六ノ太王度ニ向ノニ、

会談ノ用意ナク只予算トノ関係上国営ハ格別発展ノ余裕ヲ

有ナハ旨其レノノク語シタハニ上レハニテニテ会談ヲ作
表ニ於テハ先方ノ態度ニ鑑ミ切込ミテ会談ヲ進ムルコトハ

却テ不利益ニ誤ル結果不得要領ノ旨引取リ采レリ依テ「大ラハン」ニ対シ直ニ書面ヲ以テ貴下ノ懇情ニ基キ當業者代表ヲシテ「ク」ニ面談セシメタルモ何等要領ヲ得サリシ旨

シムルコトトスヘシト述ヘタルニ依リ大便ハ漁獲標準等一
切昨年ノ通トセサルヘカラス又最低価格ノ上騰ハ甚タ不都
合ナリ自分ハ政府ヨリモ七分迄増額ヲ認メ差支ナキ旨訓令
ヲ受ケ居レリ右ニ対スル貴答ヲ聞キ度シト述ヘタルニ
「カ」ハ何分増額ト約束スルコトハ困難ナリ第二回競売ニ
ハ総テ日本人側ノ満足スヘキ方法ヲ採ルヘキニ依リ安心シ
テ参加セラレ度キ旨繰返シタルニ依リ本使ハ從来成ル可ク
貴官ノ言明ニ信頼スル積リナルモ今回ノ実験ニ依リ乍遺憾
安心出来サルコトヲ発見セリ若シ第二回競売ニ依リ又不結
果ヲ見レハ第三回第四回ト繰返スノ暇ナク結局漁期ヲ逸ス
ルコトトナルヘシ自分トシテ斯ル危険ヲ取ルヲ得ス故ニ今
回ハ予メ具体的ニ決定シ置キ安心シテ競売ニ臨ムコトト致
度シト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ競売ヲ全然形式的ニセヨ
トノコトニテ斯ル主張ヲ日本側ヨリ再ヒセラルハ無理ナ
リト述ヘタルニ依リ本使ハ今日ノ事態トナリテハ貴官ノ抽
象的言明ニノミ信頼スル能ハス從テ競売ヲ形式的トナス程
度ニ前以テ協定セサルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ困却ノ
色ヲ示シ結局更ニ関係方面ト協議ノ上回答スヘキコトヲ約
セリ尚国營カ此ノ際希望スル漁区ノ問題ニ付テハ我漁業代
並ニ貴下ノ言明ニ反シ浦潮來電ニ依レハ二十六日競落ノ漁
区ニ対シテハ漁業庁ニ於テ既ニ確認ヲ与ヘタル由ナル旨ヲ
述ヘ斯ル状態ニテハ問題ハ益々紛糾スヘク甚タ遺憾ナルニ
付至急善後措置ヲ講セラレタキ旨強硬ニ申送ルト共ニ面会
ヲ求メ置ギタル処翌三十日「メリニコフ」ヨリ館員ノ來訪
ヲ求メ来レルカ館員ハ當方接受ノ電報ニ基キ浦潮ニ於ケル
競売ノ実情並ニ我方要望ニ付詳細ナル説明ヲ与ヘタルニ
「メ」ハ官庁価格ヲ昨年度借区料ノ七步以上増ササルヘシ
トノ点ニ付テハ關係當局ヲ説服スルコト困難ト認ムニ付
日本側ノ再考ヲ希望スト切言シ先決問題ハ漁区ノ決定ニア
ルヲ以テ成ルヘク速ニ關係當局ト協議ノ上同日中ニモ何分
ノ挨拶ヲナスヘキ旨答ヘタリ(尚館員カ辞去ニ際シ偶々邂
逅セル最高経済會議ノ「エルガムイシェフ」ハ本年國營ハ
日本側漁区ヲ取得セサルニ拘ラス日本側ニテ不満ナリトハ
意外ナリトテ零シ居タル由ナリ)然ルニ翌一日ハ勞働祭ニ
シテ二日ハ之ニ伴フ公休日ナリシ為先方官庁事務ハ總テ休
止シ漸ク本三日館員ヲシテ「メ」ニ会見セシメ得タルカ
「メ」ハ

下ヲ公認シ居ラス

(二)二四三ノ漁区ハ從来國營所屬ノモノナリ九八ノ「べ」ハ勿論九八ノ「ア」モ國營ニテ取得セヌ從テ國營及「コ一ペラチーブ」ハ日本側ノ希望漁区ヲ取得セサリシニ付「カラハン」ノ約言ハ履行セラレ居レリ

(三)二十六日「ソ」連邦個人ノ競落セル日本側関係ノ四漁区ニ付テハ未タ貸下ヲ確認セサルモ追テ認可スルノ外ナシ

⁽²⁾右以外ノ漁区ニ付再競売ヲ行フコトトスヘク其期日ハ日

本側ノ都合ニ依リ何時ニテモ可ナリ

(五)右再競売ヲ行フ場合個人ノミナラス國營及「コ一ペラチーブ」モ参加スルコトアルヘキモ國營及「コ」カ日本側

希望漁区ヲ取得スルカ如キコトナカルヘク此点タケハ保障シ得ヘク只個人ニ付テハ競売參加ヲ許ササルヲ得サル以上彼等ヲシテ日本側漁区ヲ取得セシメサルヘシトノ保障ヲ与フルコトハ困難ナリ

(六)官庁価格ヲ昨年度借区料ヨリ七分以上騰貴セシメサルヘシトノ(脱)ニ於テモ述ヘタル通り保障困難ニシテ「メ」トンテハ蟹鱗ノ例モ有ルニ付日本側ニ於テ借区料ノ約二割五分方高値ニ入札アランコトヲ希望ス(館員ハ三十日

及本三日ノ会談ニ於テ蟹鱗ノ場合ト事情ヲ大イニ異ニスル点ヲ詳細ニ指摘シ其反省ヲ促シ置ケリ)又二十六日ノ競売ニ於テ最低価格ヲ高騰セシメタルハ「ソ」側個人ノ入札セル日本側関係漁区ヲ強テ不落ニ終ラシメントスル真意ニ出テタルモノニシテ實際所定ノ最低価格ハ発表ノモノヨリ低カリシ次第ナリ

(七)借区条件従テ制限超過漁獲ニ對スル措置等ヲ昨年度通りト為スコトハ多分妥協シ得ル見込ナルモ明言スルヲ得ス

(八)新漁区(組合側ノ希望ニ依リ十七ヶ所ヲ提議シ)ヲ發表シ競売ニ付スルコトハ關係官庁ト協議スヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

依テ館員ハ二四三ノ漁区及其付近ノ借受地区ニアル工場ノ由來及実情ヲ詳述シ同漁区ハ之ヲ日本側經營ノモノト見做スヘキヲ當然ト認ムトテ先方ノ再考ヲ求メ尚國營ハ右二四三以外本年經營セントスル漁区ナキヤト突込ミテ確カメタルニ「メ」ハ右二四三ニ付テハ國營ニテ既ニ工場建設ノ計画アルモ右漁区及二四三關係ノ日本側工場經營繼續ノ問題ニ付テハ日本側當業者代表ニ於テ前記「クルイショフ」ト協議セラレタク何トカ妥協ノ道アルヘシト考ヘ得ル旨並ニ述ヘタリ

前記(五)ノ趣旨ヲ繰返シテ答ヘタル館員カ自分限リノ所見トシテ前記「メ」ノ所言ノ如クンハ「ソ」側ニ於テハ日本側ノ要望ヲ殆ト容レサルモノト認ムルノ外ナク斯テハ到底本件ノ円満解決困難ニシテ既ニ漁期到来セントスルニ鑑ミ或ハ遺憾ノ事態ヲ招来スルヤモ測リ難シト述ヘタルニ「メ」ハ甚タ当惑ノ態度ヲ示シ居タル趣ナリ本件ニ付テハ更ニ明日四日「カラハン」ニ交渉ノ筈ナルモ成行大要不取敢電報ス

138 昭和2年5月4日

出淵外務次官 在本邦ソ連邦大使館參事官会談

漁区入札問題の円満妥結に関する意見交換

漁業問題ニ關シ露國大使館參事官ト会談ノ件

昭和二年五月四日露國大使館參事官「ベセドフスキ」出淵次官ヲ來訪シタル際次官ヨリ去月二十七日ノ入札ノ際從

来日本人ノ有シ居タル漁区五ヶ所露國々營及個人ニ落札シタル処右ハ甚タ不都合ト認メ過日來田中大使ヨリ「カラハン」氏ニ談判シタル処「カラハン」氏ハ右入札ヲ取消シ結

局從来通リ日本側ニ与フヘキ意向ヲ漏サレタルモ漁区ノ値段其ノ他ノ条件ニ付今以テ満足ナル協定ヲ見ルニ至ラス鮭鱈出漁ノ時期迫リ居ル今日故日本漁業家ニ於テ大イニ焦リ

139 昭和2年5月4日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

(昭和二年五月四日 出淵次官口述速記)

漁区および最低価格等に関するカラハンとの

会談並びに今後の対応振りにつき請訓

(1) 第二三三号
往電第二二二号ニ関シ

四日「カラハン」ニ会見セル処「カ」ハ浦潮ニ於テハ猶過日ノ競売ノ結果ヲ確認セス然レトモ一四三ノ漁区及一四八

(昨年度小杉ノ経営セルモノ)ノ漁区ハ前者ハ國營後者ハ「フリップコ」カ日本人側ニ又貸セルモノニシテ是等ハ本年モ当然日本人側ニ經營セシムヘキモノト見做スヲ得ス右ヲ除キタル他ノ四漁区ハ結局確認セサルヲ得サルヘシト述へタルニ依リ本使ハ日本政府ハ過日ノ競売ニ對シ抗議セヨト訓令シ來リ居リ從テ右競売ヲ認メサルモノト思考ス殊ニ他ノ四漁区ヲモ遂ニ確認スルコトトナラハ勿論之ヲ承認セサルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ右四漁区ノ閔スル限りハ認可ヲ差控フルコトトスヘク而シテ至急日本側ニモ都合好キ期日ニ於テ第二回ノ競売ヲ施行スヘシ其ノ國際國營ハ日本人側ノモノヲ取ラス又「コーペラチーブ」モ第一回ノ際ニ取ラサリシ如ク第二回ニモ取ラサルヘシ唯露國個人ニ對シテハ其ノ競売參加ヲ禁止シ得サルニ依リ從テ日本人側ノモノヲモ全然取ラシメスト確約スルヲ得サルハ諒トセラレタシ勿

論日本人側カ露國個人カ從来經營シタルモノヲ取ラルルコトモ隨意ナリ又國營ハ極メテ少數ノ漁区ヲ今回取ラント欲ス其レニ付テハ過日「クリイショフ」ト日本漁業者代表ノ會合ハ多少行違ヒアリタルモ再ヒ会見セラルレハ判明スヘシ

(2) 第二三三号
最低価格ハ一般ニ一割乃至二割ノ増額ニ止ムヘシ過日ノ競売ニテ急騰セシメタルハ日本人以外ニ奪取セシメサラシムル魂胆ニ出テタルモノニシテ一時ノ方便ニ過キス漁獲制限高ノ問題ハ過日發表シタル如キ急激ノ減少ヲナササルモ幾分変更スルコトハアリ得ヘシ超過漁獲ニ閔スル日本人側ノ希望ハ成ルヘク尊重スヘキモ全然昨年通リト確約スルヲ得スト述ヘタルニ依リ本使ハ最低価格ニ付一割乃至二割ト云ヘハ日本人ハ結局不落ヲ虞レ總テ二割ニ増額セサルヲ得サルコトナルヘシ依テ斯ノ如ク曖昧ニセス日本ノ提案通り一律ニ七分増額スルコト出来サルヤト説キタルニ七分ニテハ余リニ低シ併シ一律ニ或歩合ノ増額トスルコトハ自分限リ異議ナキニ依リ更ニ相談ノ上回答スルコトトスヘシト述ヘ更ニ本使ノ問ニ對シ第二回競売ノ際露國個人ヲシテ日本人ノ漁区ヲ取ラシメスト確約スルコトハ到底困難ナル旨ヲ

述ヘタリ依テ本使ハ日本政府ノ希望全部満足ニ承諾セラレサルハ甚タ遺憾ナルモ本使トシテ貴意ノ次第ヲ政府ニ報告シ其回訓ヲ俟チテ更ニ貴方ト商議スルノ外ナキ旨述ヘ置キタリ

右ノ通リ國營カ新ニ執ルヘキ漁区及最低価格値上ノ歩合等ニ付尚不定ノ点アルモ貴電第一二三号ニ對スル先方ノ態度ハ右ニテ大体御承知ノ上今後ノ御方針ニ付何分ノ儀回訓アリタジ

浦潮、ハバロフスクヘ転電セリ

140 昭和2年5月9日 田中外務大臣 在本邦ソ連邦大使 会談

本年の出漁問題に關し好意的斡旋の希望申入

大臣会見録 (三)

五月九日午後四時田中大臣露國大使ノ來訪ヲ求メラレ自分モ本日漸ク臨時議会ヲ終リタル所ニシテ取り込み中ナリシモ緊急ヲ要スル問題ナリシ為急ニ御來訪ヲ煩シタル次第ナルカ問題ハ余ノ儀ニ非ス日本漁業者ノ本年出漁問題ナル處同問題ノ今日迄ノ経過ニ付御話致シ度キ所ヲ茲ニ覺書

法ニ依リ再ヒ漁区ヲ取得セシメントスルハ誠ニ遺憾ナリ今ヤ漁期ハ既ニ到来シ本邦當業者ハ普通競売ニ参加スヘキ準備ヲ有セス且又政府ニ於テモ北京條約ノ規定ノ手前當業者ヲシテ右様ノ普通競売ニ参加セシムルコトヲ得ス。次イテ大臣ハ右ノ次第ナルヲ以テ貴國政府ニ於テ飽ク迄其ノ主張ヲ固執セラルニ於テハ本邦當業者ニ及ホス損害ニ付露國政府ハ當然其ノ責任ヲ負担セサルヘカラサルモノト思考ス然ルニ今日折角良好ニ趣キツツアル日本上下ノ對露感情カ本年一年度ノ出漁問題ノ為悪化スルカ如キコトアラハ甚タ以テ遺憾トセサルヲ得サル次第ナリ就テハ貴大使ニ於テハ外交ノ大局ニ鑑ミ此際貴國政府カ田中大使ヨリ申出テタル當方要求ヲ応諾スル様至急最善ノ努力ヲ致サレムコトヲ希望ス今日特ニ右ノ斡旋ヲ御依頼スルハ結局日本政府カ本邦當業者ノ利益ノ擁護上必要ト思考スル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルカ如キコトナキヲ祈念シタルニ出ツ此ノ点特ニ御諒察ヲ請ヒ度シト述ヘラレタルニ

大使ハ只今伺ヒタル所ニ依レハ本問題ニ付日本外務省ノ有セラル情報ト自分カ本国政府ヨリ接到セル報告トノ間ニ相違アルコトヲ感得ス自分ハ鯨及蟹ノ漁場競売ノ際ニハ其

漁場ヲ獲得スルコトトナルヘク結局漁場ノ數ニ於テハ客年ト大差ナキコトトナルヘシト考ヘ居レリ之自分カ本問題ヲ寧ロ樂觀的ニ観察シ居ル所以ナリト答ヘタリ
之ニ対シ大臣ハ相方ノ報告ニ相違アル所ニ付テハ當方ノ次官若クハ本問題主管者ト貴方參事官等トノ間ニ於テ其ノ相違点ヲ發見セシメ又之ヲ匡正スル方法ヲ協議セシムルコト致度ク自分トシテハ今回ノ臨時議会中ニモ日本當業者側ヨリ既ニ船ヲ準備シ居リテ直ニ出漁シタシト累次迫リ來タレルニ対シ議會終了後ハ直ニ露國大使ト会談シテ何トカ其ノ途ヲ付クヘシトテ之ヲ押ヘ置キタル關係モアリ將又自分カ外務大臣ヲ兼摶スル理由ノ一ハ露國トノ關係ニ於テ新生面ヲ開キ以テ益々親善ノ実ヲ擧ケ度キコトニアリ而シテ何時迄之ヲ兼摶スルヤハ予断能ハサルモ苟モ之ヲ兼摶スル間ハ右ニ述ヘタル使命ヲ果ス為努力スル積リナリ就テハ貴大使モ日露外交ノ大局ニ顧念シ御着任早々ノ仕事ノ一トシテ自分ノ右努力ヲ御助ケ下サルコトヲ希望シテ止マスト述ヘラレタルニ

(マア) 大使ハ自分ニ斯ク迄モ打チ合ケテ信念ヲ置キ下サルコトハ

感謝ニ堪エス政府ノ訓令ハ申スニ及ハス自分ノ主義及信念

ノ主張ヲ固執セラルニ於テハ本邦當業者ニ及ホス損害ニ付露國政府ハ當然其ノ責任ヲ負担セサルヘカラサルモノト思考ス然ルニ今日折角良好ニ趣キツツアル日本上下ノ對露感情カ本年一年度ノ出漁問題ノ為悪化スルカ如キコトアラハ甚タ以テ遺憾トセサルヲ得サル次第ナリ就テハ貴大使ニ於テハ外交ノ大局ニ鑑ミ此際貴國政府カ田中大使ヨリ申出テタル當方要求ヲ応諾スル様至急最善ノ努力ヲ致サレムコトヲ希望ス今日特ニ右ノ斡旋ヲ御依頼スルハ結局日本政府カ本邦當業者ノ利益ノ擁護上必要ト思考スル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルカ如キコトナキヲ祈念シタルニ出ツ此ノ点特ニ御諒察ヲ請ヒ度シト述ヘラレタルニ

大使ハ只今伺ヒタル所ニ依レハ本問題ニ付日本外務省ノ有セラル情報ト自分カ本国政府ヨリ接到セル報告トノ間ニ相違アルコトヲ感得ス自分ハ鯨及蟹ノ漁場競売ノ際ニハ其

ノ結果ニ付頗ル憂慮シ居リタル次第ナルカ幸ヒニシテ日本側ニ満足ナル結果ヲ見タルハ同慶ニ堪エサル次第ニシテ之ニ反シテ今回ノ鮭鱈漁区ノ競売ニ付テハ初メヨリ非常ニ之ヲ樂観的ニ考ヘ居リタル次第ナリ

只今承リタル處ニテハ四月二十六日ノ競売ハ露國側ニミニテ之ヲ行ヒ優良漁区ヲ無競争ニテ獲得シタリトノコトナルモ自分ノ諒解スル處ニテハ日本當業者ハ自発的ニ之ヲ参加セサリシモノニシテ必シモ露國側ノ計画ニ依リ之ヲ除外シタルモノニ非ス加之露國政府ノ態度トシテハ日本當業者カ前年經營シタル漁区ニ対シテハ露國側ニ於テハ成ル可ク之ニ手ヲ染メサルコトニ取計フヘキ旨地方官憲ニ対シテ指令ヲ与ヘタリト自分ハ諒解シ居リ此ノ露國政府ノ態度ハ来ルヘキ第二回ノ競賣ニ於テモ同様ナルコトト信シ居レリ此ノ結果トシテ四月二六日ノ競賣ニ依リ日本當業者カ失ヒタル漁区ハ僅カニ四、五ニ過キサルコトナリタル次第ナリ而シテ蟹鱈漁区競賣ノ場合ニハ第一回ノ競賣ノ結果ヲ取り消シタル上第二回ノ競賣ヲ行ヒタルモノナルカ今回ハ四月二十六日ノ競賣ノ効果ハ其ノ儘之ヲ存続セシメテ第二回ノ競賣ヲ行ヒ日本當業者モ右第二回ノ競賣ニ於テ更ニ若干ノ

ヨリ云フモ日露両國關係展開ノ為ニハ充分尽シ度シト希望シ居ルヲ以テ微力乍ラ貴意ニ副フ様努ムヘシト応酬ス
次イテ大臣ヨリ此ノ目的貫徹ノ為ニハ累次御目ニ掛リテ会談スルコト必要ナルニ付御暇ノ節ハ時々御來訪ヲ希望スル旨ヲ述ヘラレタルニ露國大使ハ之ヲ謝スルト共ニ御言葉ニ從ヒ早速今週末若クハ來週早々御伺ヒシテ両國ニ關係深キ諸種ノ問題ニ付自分ノ希望ヲ述ヘ之ニ対スル閣下ノ御意見ヲ伺フコトシ度キ旨ヲ希望シ大臣之ヲ快諾セラレタリ
(右会談ノ結果露國大使ハ即刻「ベセドフスキ」氏ヲ差シ出ス旨ヲ述ヘ出淵次官之ト会見セラルコトトナリタリ)

141 昭和2年5月9日 出淵外務次官 在本邦ソ連邦大使館參事官 会談

鮭・鱈出漁問題に関する会談

漁業問題ニ関シ露國大使館參事官「ベセドフスキ」

昭和2年五月九日露國大使館參事官「ベセドフスキ」露國大使ノ命ニ依リ出淵次官ヲ來訪シ鮭鱈出漁問題ニ關スル

日露両國ノ主張相違ノ点詳カニ承知シタキ旨申出テタルニ

付次官ヨリ大体説明シタル上列席ノ山口領事ヲシテ露語ヲ

以テ詳細説明セシメ其ノ結果別紙ノ通り莫斯科ニ電報セン
マルコトトン山口領事ニ於テ別紙原文タル露語ヲ写取り我
方ノ記録ニ存置スルコトナセリ

右終シテ出淵次官ヨリ先般貴官ト鮭鱈出漁問題ヲ議シタル

際貴官ヨリ函館ニ於テ委細ノ事情ヲ調査シタル結果本国政
府ニ對シ借区料ハ三割以上ニ値上ケスルコト不当ナリト認
メラル旨電稟シタル旨合アリタルモ右ハ貴官ヨリ本国
政府ニ發シタル意見ナリトノコトニ付別段論議ヲ為ササリ
シ處最近田中大使ヨリノ電報ニ依レハ「カラハン」氏ハ出
淵次官ニ於テ借区料三割増加方同意セラレタリ云々ト語ラ
レタル趣ニテ甚タ事實ニ相違スル次第ナリ曩ニ貴官ト会談
ノ際三割問題ニ付論議セサリシハ自分ノ不注意ニシテ之力
為メ若シ貴官ニ誤解ヲ与ヘタリトセハ甚タ遺憾トスル処ナ
ルモ兎ニ角「カラハン」氏ニ於テ根本的ニ誤解アリト認メ
ラル旨ヲ述ヘタルニ「ベ」參事官ハ自分ヨリ決シテ莫斯科
科ニ對シ次官カ三割増加ニ同意セラレタリ電報シタル事
無シ若シ莫斯科ニ誤解ヲ与ヘタリトセハ全ク自分ノ不注意
ニ因リタルモノト考ヘラルニ付早速「カラハン」ノ誤解

ヲ解ク様電報スヘシト答ヘタリ

最後ニ出淵次官ヨリ鮭鱈出漁問題未解決ノ儘漁期切迫ヲ見
ルニ至リタルハ甚タ遺憾トスル処ナル旨ヲ切言シタル上田
中新總理ハ組閣早々本問題起リタル為メ漁業家ヨリ頻リニ

急速解決方ヲ迫ラレ居リ且彼等ハ動モスレハ自由出漁ヲロ
ニスル為メ漁業協約交渉行詰リノ今日政府ノ立場頗ル困難
ナル次第ナルカ兎ニ角鮭鱈問題ノ如キ比較的重要ナラサル
事柄ニ對シ貴國政府ニ於テ執拗ナル態度ヲ示シ漁期切迫ノ
今日手違ヒヲ生スルカ如キコトアラハ日露両国ノ國交關係

ニ悪影響ヲ及ホスコト少カラサルヘク折角露國ニ對シ親善
的態度ニ出テムトスル田中外相トシテ國論ノ手前自然其ノ
態度ヲ変更スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルモ計り難ク今
日ハ貴國政府ニ於テ大局ヨリ打算シ正ニ善処スヘキ場合ナ
リト思考ス「ドブガレフスキ」新任大使ハ實ハ本日初メ
テ實際ノ外交談判ヲ始メラレタル次第ナルカ而モ其ノ相手
ハ新タニ任命サレタル田中外相ノコトニモアリ本問題ハ要
スルニ新任大臣ト新任大使トノ間ニ於ケル始メテノ談判故
大使ニ於テ本国政府ヲ動カス為メ最善ノ努力ヲ尽サルヘク
又本國政府ニ於テモ新大使ノ顔ヲ立ツル為メ出來得ル限り

井組長以下數名來訪ノ際通商局長及水產局長立会ノ席ニテ
次官ヨリ鮭鱈出漁問題最近ノ経過ヲ説明シ差向キ小樽ニ滯
在中ノ漁船三隻ハ追テ「ベトロバウロフスク」ニ於テ命ヲ
待ツ条件ニテ出発差支ヘ無キコトニ露國大使館ト打合セ濟
ミノコトヲモ告ケタルニ一同満足ノ意ヲ示シテ退出セリ

(昭和二年五月十一日 出淵次官口述速記)

(別 紙)

鮭鱈出漁問題ニ關スル日本ノ主張

(一)二十七日競売ニ於テ奪取セラレタル六漁区(小杉ノ分モ
含ム)ヲ日本人ニ還ヘスコト

(二)次回ノ競売ニ於テ日本人ハ昨年經營シタル漁区ニシテ本
年モ經營ヲ希望スル漁区一切ヲ取得シタキコト

(三)借区料ハ昨年度ノ借区料ヨリ一割五分増額スルヲ得ルコ
ト

(四)國營「コオペラチーヴ」露國私人ハ日本人ノ漁区ニ対シ
「プリテンド」セサルコト

(五)各漁区ノ漁獲制限及超過漁獲ニ付テハ前年通りトスルコ
ト

翌十日前十時出淵次官田中總理ヲ官邸ニ訪問シ「ベセド
フスキ」ト打合セノ次第報告シ農林大臣ニ伝達方ヲ求
メタルニ總理ヨリ寧ロ閣議ノ席上ニ於テ説明スル方可然ト
ノ話合アリタルニ付引続キ閣議ノ席ニ赴キ前日田中大臣ト
露國大使トノ会談要領及次官ト「ベ」參事官会談ノ要領ヲ
説明シ特ニ農林大臣ニ向テ事態右様ノ通りニ付一両日内ニ
ハ大体満足ナル回答ニ接スヘキカト思考セラルモ必要ニ
応シ適宜漁業家ヲ指導シ自由出漁等ヲ八釜シク言ハシメサ
ル様配慮アリ度キ旨ヲ語リ尚同日午後四時日露漁業組合酒

昭和3年

昭和3年1月30日

田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛（電報）

本年度の出漁に關し協定すべき事項につき訓

令

本省 1月30日後発

第三三号

本年度出漁ニ関スル臨機的措置ニ付テハ客年往電第三六九号末段ヲ以テ申進シタル次第モ之レアリ貴方ニ於テモ御考案アルコト存セラルル處我方トシテハ漁期ノ關係上約發効前ト雖大体条約ノ規定ヲ本年度出漁ニ適用スルノ趣旨ヲ以テ左記各項ニ付責任國當局トノ間ニ協定ヲ遂クルコトト致シタキニ付至急右ノ趣旨ニ依リ篤ト先方ト懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリタシ

(一) 本年度邦人ノ出漁ニ付テハ條約發効前ト雖事情ノ許ス限リ條約ノ規定ヲ適用スルコト

(二) 従テ租税、公課、報償金、査証、漁獲標準高ノ制定及更正、漁区ノ貸下期間等ニ付テハ條約ノ規定ニ依リ之ヲ行フコト

度經營漁区ヲ競落セサルコト

(七) 国営企業ノ本年度經營漁区決定ノ商議モ亦條約發効前之ヲ開始シ商議終了ノ上ハ條約發効前ト雖最終議定書ノ規定ニ依リ之カ貸下ヲ決定スヘキコト

国営及「ツエントロ・ソユーズ」ハ條約發効前ノ競売ニモ亦参加セサルコト

(八) 各種「コーペラチーヴ」ハ條約發効前ト雖條約付屬文書ノ規定ニ基キ本年度ノ一般競売ニ於テ十万布度^(編注)ヲ限度トシ漁区ノ貸下ヲ受ケ得ヘキコト

農林省側ト協議済

編注 一布度は一六・三八キログラム。

143 昭和3年2月8日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛（電報）

漁業条約發効にあたり我が方の取るべき基本

方針

本省 2月8日後発

第四三号

貴電第三三号ニ関シ

(三) 邦人現有缶詰工場關係漁区ノ長期貸下ノ申出及關係日本人ノ推薦ハ條約發効前之ヲ為シ右貸下ニ関スル商議ヲ開始シ得ルコト

前記商議力條約發効前終了シタル場合ハ條約發効前ト雖議定書丙ノ規定ニ依リ特別契約ヲ締結スヘク又若シ右商議中ニ出漁期到来スルトキハ關係日本人ハ議定書丙、乙章第十一ノ規定ノ精神ニ従ヒ關係漁区ニ出漁シ之ヲ經營スルコトヲ容認スルコト

(四) 前記(三)缶詰工場關係漁区以外ノ漁区貸下ニ関シ條約第二条第一項ノ規定ハ既ニ本年度漁期切迫セル今日之ヲ嚴格ニ適用スルコト事實上不可能ナルヲ以テ昨年度邦人ノ租借セル漁区ニシテ本年度モ經營ヲ希望スル漁区ハ(1)條約第二条第二項ノ規定ニ依リ無競賣貸下ヲ為スカ又ハ(2)之ヲ競賣ニ付スル場合ニ於テハ競賣施行時期及競賣予告期間ニ付成規ノ通實施スルコトハサル事由アルヲ以テ該漁区ヲ一般競賣ヨリ除外シ形式競賣ニ依リ貸下クルコト

(五) 前記(四)ニ依リ邦人現有漁区ヲ貸下クル場合ニ於ケル借区料ハ相當増額ヲ認ムルコト

(六) 「ソ」側カ前記(四)ヲ承認スルニ於テハ邦人ハ露人ノ昨年

(一) 往電第三三号訓令ノ根本趣旨ハ今ヤ兩國間ニハ條約ノ正

式調印ヲ了シタルノミナラス批准モ我方ニ於テ国内法規ノ關係上法制局枢密院等ノ審查ヲ要スル為相當期間遲延スヘキモ條約ハ結局遠カラス双方ノ批准ヲ得テ發効スヘキ見込ナルニ付明治四十年協約締結商議ノ當時既決事項ニ大体準拠シテ暫定的取極ヲ為セル前例モアリ新條約發効前ト雖其ノ規定ヲ出来得ル限り本年度出漁ヨリ實行スルコト至当ナリトノ建前ヲ採り唯條約ノ規定中時期其ノ他ノ關係上實行不可能ノ部分例ヘハ漁区競売ノ如キモノニ付便宜双方間ニ臨機的措置トシテ便法ヲ講セムトスルニ在リ而シテ條約ノ規定上正式競賣カ差迫リタル本年度出漁ニ間ニ合ハサルコトハ何人モ首肯シ得ル義ナルニ付我方トシテハ此際條約第二条第二項ノ適用ヲ主張シタク新條約發効前其ノ規定ニ準拠セムトスル所以モ主トシテ右ノ点ニ存シ此際ヲ以テ右ノ規定運用ノ端ヲ開クニ最モ都合好キ時機ト認ムル結果ニ外ナラス唯交渉ノ御都合上他ノ方法トシテ調印直前ノ先方ノ声明ニ依リ我當業者ノ現有漁区ニ付先方ヲシテ條約ニ規定セル三年及五年ノ貸下期間ヲ以テ所謂形式競賣ヲ認メシメ其ノ代リ我方ニ於テモ借区料ノ幾分増額ヲ認ムルノ趣旨ニテ先方ノ諒解ヲ

求メラルルモ一策ト思考シタル次第ナリ仍テ一応右ニ依リ御折衝ノ結果先方カ条約ノ規定通り正式競売ニ依ラル限リ三年及五年ノ貸下期間ニ到底同意セサルコト判明スルニ於テハ我方最後ノ腹トシテ我當業者ノ現有漁区ノ借受期間ヲ本年度一年タケ延長セシムルコトスルモ已ムヲ得スト思考スルニ付右ノ趣旨ニテ更ニ篤ト懇談ヲ遂ケラレタシ又労働法関係ノ規定ノ如キモ時期等ノ関係上事実適用困難ナリト認メラルニ付テハ本年度漁期ニ限り之カ適用ヲ除外スルコトニ協定セラレタシ若シ夫レ本年度新規開設漁区ニ至リテハ我方トシテハ適当ノ時期ニ於テ大体条約ノ規定ニ依リ一般競売ニ付セラルルコトニ何等異議アルニアラサルニ付此義御含置キアリタシ

(二)尚条約第二条第二項ノ意義ハ我方トシテハ飽迄広義ニ之ヲ解釈スルコト内外ニ対スル政府ノ立場上極メテ必要ナル處往電第一五号後藤子爵ヘノ訓令ニ基ク同子爵ノ先方ヘノ申入ニ依リ該条項ハ全ク狭義ニ解シ缶詰工場関係漁区ノ長期貸下ト国営ノ留保漁区トノ二事項ニノミ適用範囲ヲ限局スルコトニ我方トシテモ「コムミット」シタル次第ナリヤ當方ニ於テハ貴電第一七号及第一八号ニ依リ

モスクワ
本省 3月7日前着 発
第六五号
貴電第七二号ニ関シ

本年度漁区ノ取得方法ニ付当初蘇側ニ於テハ競売ニ依ルヲ原則トシ国営及工場関係漁区ニ対シテハ特別ノ条件ヲ付スル基礎ノ下ニ我方ト協定シタキ意向ヲ示シ右ニ対シテハ恐ラク日本側ニ於テ異議無キモノト考ヘ居タル模様ナリシ処我方ノ要望ヲ知悉スルニ及ヒ関係官厅間ニ於テ協議ヲ重ねタルモノノ如ク漸ク数日前ニ至リ国営ノ志望スル数個ノ例外漁区ヲ除キ大体昨年度ノ契約ヲ本年一年限り延長スル事タケハ内定シタル趣ニテ「カラハン」ヨリ近ク会見シタキ旨或席ニテ申出アリタリ其際本使ハ国営ノ為例外ヲ認ムル事ハ到底同意困難ナルヲ告ケ置キタルカ其ノ為更ニ協議ヲ凝ラシ居ル為ニヤ未タ正式官憲ノ申出ニ接セス右ニ付「コルチャ」ハ酒匂ニ対シ国営側ニ於テハ本年度ヨリ是非經營シタキ漁区トシテ数個ヲ選ヒ之カ保留方極力主張シ居レル次第ナルカ結局国営カ折角建設セル工場ノ運営ヲ有意義ナラシムル程度ノ漁区ニ局限シテ日本側ノ好意的考慮ヲ求ム

必スシモ然ラスト諒解シ居リ調印後条約適用ノ實際問題トシテ相当ノ希望ヲ懸ケ居ル次第ナルノミナラス貴電第二二号所謂調印前ノ先方声明ノ辞句ニ依ルモ先方ヲンテ此際何トカシテ前記ノ臨機措置ニテモ我現有漁区ヲ尊重スル趣旨ニテ応諾セシムルコトトスルモ已有之我方ニテハ予テ客年往電第三六九号以来數次貴官ノ御意見ヲ期待シ居ルニ付此際何分ノ貴見御電報アリタシ(三)貴電末段ノ昨年度邦人經營漁区中本年經營ヲ希望セサル漁区数(二、三ハ少クトモアル見込)及本年新ニ經營ヲ此際急速處理ヲ必要トスル往電第三三号及本電申進ノ根本問題解決ノ上ハ改良網使用漁獲標準高修正漁区面積拡張問題等ニ付テモ何等カノ申入ヲ為シ度キ所存ナリ右予希望スル漁区数ニ付テハ追テ電報ス

メ御含ミ置キアリ度シ

農林省側ト協議済

144 昭和3年3月(7)日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

漁区取得方法その他に關する交渉経過

且若シ我方ヨリ本年度漁区借受問題決定ニ先立チ進シテ國營及工場関係漁区ノ選定問題ヲ提起セハ其他ノ漁区ハ之ヲ競売ニ付スヘシトノ先方ノ主張ヲ強ムル事トナルヘキ点ヲモ慮リ態ト差控ヘ居タル次第ナルカ先方トシテハ本年度出漁問題ニ関連シ前記ノ如ク数個ノ漁区ヲ國営ニ保留方申出ル意向ナルカ如シ右申出中日本關係漁区ニ付テハ條約発効前ノ事ニテモアリ旁其申出ヲ峻拒スル心組ナリニ付「コルチャ」ハ酒匂ニ対シ船舶關係査証関係漁業用物件品目表作製ノ問題アルヘキモ之等ハ何レモ本年度漁区問題解決セハ条約ノ規定ニ準拠スル事トナルヘク唯財務部ニ於テハ過去ノ税金問題ノ解決ヲ迫ルナルヘシト述ヘ四ニ付テハ之亦「コルチャ」ハ酒匂ニ対シ主義上ハ労働關係規定アルモノトシタキモ實際上ハ貴方労働機関トノ協定等不可能ノ事實アルニ鑑ミ労働時間割増賃銀社會保險ニ関スル規定ノ如キハ之ヲ適用スルニ由無キ事トナルニ付日本側ヨリ見レハ勞

効関係規定ノ適用無キ事ト同様ノ結果トナルヘシト述ヘ此ノ他ノ事項ニ関シテモ條約発効セハ夫々其ノ規定ニ依ルヘキヲ本則トシテ事實上適用困難ナルモノハ事實問題トシテ本年丈ハ從来ノ例ニ依ル事トセハ可ナルヘシト付言セル趣ナリ

尙前記ノ如ク本年度ハ原則トシテ競売ヲ行ハサル事トナルヘキ處其場合ニハ「コ一ペラチ一ヴ」ニ關スル秘密公文中一九二八年トアルヨ一九二九年ニ変更方問題トナルヘキモノ思考スルニ付右ニ關シテハ予メ御考究置有度シ

145 昭和3年3月11日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

數例を除く漁区契約の一年延長に関する力ハ

ハンの提案について

モスクワ 本省 3月11日後着 発
第七〇号

往電第六五号ニ關シ

十日「カラハン」ト會見セルニ「カ」ハ日本人カ昨年度借受ケタル漁区ハ數個ノ例外ヲ除キ全部昨年度ノ契約ヲ一年シ

ヘキモ前記例外漁区以外ノモノニ付テハ本年一年丈契約ヲ延長スル事ニ決定セルモノトシテ報告シ關係當業者ヲ安心セシメ差支無キヤト確メタルニ「カ」ハ右ニ異議無キ旨答ヘタリ就テハ先方ニ對スル回答振リニ付何分ノ回訓アリタシ

146 昭和3年3月18日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛(電報)

漁区契約一年延長案の原則承認および新漁業

条約発効との關係につき注意喚起

本省 3月18日後発

第八三号 貴電第七〇号及第七三号ニ關シ

「カラハン」カ邦人昨年度借受漁区ノ契約ヲ一年延長スルコトシテ本年度出漁問題ヲ解決セントスルノ趣旨ハ遲クトモ五月下旬迄ニハ発効スヘキ新條約トノ關係ヲ如何ニ処理セントスル意味ナリヤ前記貴電ニテハ明瞭ナラサル処貴電第六五号酒匂「コルチヤ」ノ会談ニ依レハ先方ニテハ条約発効後ハ労働問題ノ如キハ致方ナキモ其ノ他ハ當然新條約ノ規定ヲ適用スル意向トモ推セラレ結局本年度ノ漁季ハ

間延長スル事トシ本年度出漁問題ヲ解決スル事トシ度ク右例外トハ鮭鱈漁区「二二六六」「二三三二」ヲ國營ニ經營セシメ度ク尚「二四三」ハ之ヲ日本人ニ又貸シセス又ハ蟹漁区「三六」「三六ア」「四一」「四二」ノ四個ヲ國營ニ經營セシメ度キニアリ尤右ノ中一、二ノモノハ日本人ノ昨年度借受ケタルモノニ屬セサルヤモ図ラレス此ノ点ハ目下哈府ニ問合セ中ナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ依テ先ソ本使ハ蘇側カニ基キ總テ日本側ト全部ニ亘リ改メテ協議スヘキハ勿論ニシテ今回ノ提議ハ本年度限リノ便法トシテ漁区關係ヲ解決セントスルニ過キスト弁明セルニ付本使ハ前記例外漁区中少クトモ「二四三」ハ當然工場關係漁区タルヘキモノニシテ本年度ノ便法如何ニ拘ハラス少クトモ來年度ヨリハ日本側ノ經營スヘキモノナリトスル強キ論拠ヲ有スルニ付右ハ予メ承知シ置カレ度シト述ヘタルニ「カ」ハニ反対セス依テ本使ハ貴方ノ提議ハ政府ニ稟請ノ上何分ノ回答ヲ為ス

左記ノ事項ニ付テハ一年延長説承認ニ際シ先方ヨリ充分ナ
ル了解ヲ確実ニ取付ケラル様致度シ

一、邦人力昨年經營シタル漁区ニシテ本年引続キ經營ヲ希
望スルモノニ付テハ（本年度ノ經營ヲ希望セサルモノハ
往電第五一号ノ通）全部之カ契約ハ一年タケ延長スルコ
ト從テ貴電第七〇号先方申出ノ漁区ハ三六号ヲ除クノ外
何レモ昨年度ニ於テ邦人力經營シ且本年モ經營ノ為既ニ
準備済ノモノナルニ付一個所タリトモ之ヲ國營ニ貸下ク
ルコトハ承諾ノ余地ナシ尚三六号ハ「ボリシヤヤ」河口
南二乃至七露里ニ在ル処同河口南六露里ニ在ル坂本作平
ノ鮭鱒漁区二〇七号ト相重ルヲ以テ成ルヘク國營ニ貸下
ケサル様致度シ

二、借区料税金労働法關係其ノ他一切ノ貸下条件ハ總テ昨
年通リトシ新條約発効後ト雖変更ナキハ勿論ナルコト

三、邦人ノ新規開設希望漁区モ昨年ト同一ノ貸下条件ニ依
リ邦人力競売參加ニ間ニ合フ様至急發表セシムルコト
農林省ト協議済

147 昭和3年3月24日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛（電報）

第八八号 本省 3月3日後發

貴電第八二号ニ閲シ

一、本年度出漁ニ関スル交渉方針トシテ往電第三三号ヲ以
テ新條約ノ規定ヲ事情ノ許ス限り適用スル様申進置キタ
ルハ之ト不可分的ニ昨年度邦人經營漁区ニシテ本年希望
ノモノハ新條約第二条第二項及議定書甲第六条ノ適用ニ
依リ五年又ハ三年ノ期間ヲ以テ無競売貸下ヲ受クルカ又
ハ形式競売ニ依ル貸下ヲ受クルコトヲ先方ニ応諾セシム
ル条件ヲ付シアル義ニシテ又往電第四三号（一）以テ我方
最後ノ腹トシテ我當業者ノ現有漁区ノ借受期間ヲ本年度
一年タケ延長セシムルモ差支ナキ旨申進シタルモ亦漁区
貸下ノ形式ハ新條約第二条第二項ニ依ル無競賣貸下ニシ
テ只貸下期間ノミハ議定書甲第六条第一項所定ノモノニ
依ルコトナク特ニ一ヶ年ト為スモ已ムヲ得ストノ趣旨ニ
出テタルモノニシテ我方トシテハ終始一貫新條約第二条
第二項ニ依ル貸下ヲ此際ニ実現セシメ以テ将来邦人一般

漁区無競賣貸下ノ素地ヲ新條約発効ノ当初ニ当リ固メ置
カムトシタル次第ナリ從テ前記往電第三三号及第四三号
ハ漁区貸下ノミハ北京條約ニ依ル昨年通ノ實行方法タル
契約ノ一年延長トシナカラ貸下ヲ受クタル漁区經營上ノ
貸下条件ハ新條約ニ依リテ可ナリトノ趣旨ニハ非斯然ル
ニ貴電第七〇号及第七三号ニ依リ先方ハ條約発効前ノ故
ヲ以テ無競賣貸付ハ到底心諾ノ模様ナク單ニ昨年邦人經
營漁区ヲ大体本年度モ昨年同様ノ實行方法ニ依リ契約一
年延長ノミヲ應諾スル意向ヲ示シ来レルモノト認メラレ
タルニ付我方トシテハ已ムヲ得ス（飽迄新條約ノ規定ニ
依ル無競賣貸下ヲ主張シ度キ所存ナルモ）右先方ノ意向
ヲ考慮シ此際次善ノ案トシテ往電第八三号申進ノ通り
先ツ新條約第二条第二項適用ノ主張ヲ止メ先方ノ意向ヲ
大体承認スヘキモ之ヲ承認スル以上ハ趣旨ノ一貫ヲ期ス
ル為飽迄北京條約第三条第一項ニ依ル貸下ニ依ルコトト
シ從テ之ニ依リ貸下ヲ受クタル漁区ノ貸下条件ハ貸下ノ
當時ニ於テ確定セラルヘキモノニシテ爾後新條約適用ノ
時代ニ入ルモ既ニ成立セル個々ノ貸下契約ニ闕スル限り
当初ノ条件ハ変更ナキモノトノ理論ニ立戾リタル次第ニ

シテ我方トシテハ前後理論ニ何等ノ扞格ナキ次第ナリ
一、然ルニ貴電第八二号ニ依レハ税金ニ付テハ新條約ノ規
定ニ依ルコトヲ先方ニ申入レラレ貴電第七〇号「カラハ
ン」ノ申出モ右了解ノ下ニ提出セラレタルモノナル由ナ
ルカ右ニ付テハ往電第三三号ノ次第ハアルモ貴電第六五
号及第七〇号中ニ何等ノ御報告ナク貴電第八二号ニ依リ
初テ承知セラ次第ニシテ若シ貴官ノ立場御來示ノ如ク困
難ナル次第ナラハ貴官ノ裁量ニ依リ此際左記二方法ノ内
何レカ一ニ依リテ御交渉ヲ進メラル様致度シ

(1)邦人現有漁区ノ本年度貸下ハ新條約第二条第二項ノ無
競賣貸下ト為ス条件ノ下ニ往電第三三号及第四三号ノ
趣旨ニ依リ漁区ノ貸下条件ハ労働法除外等ノ外出来得
ル限り新條約ノ規定ニ拠ルコト但シ貸下期間一年ノ場
合ニハ借区料ハ昨年通り据置ノコト

(2)若シ(1)ニ依ラス単純ナル契約一年延長ト為ス場合ニハ
往電第八三号申進ノ通り一切ノ貸下条件ハ昨年通トシ
新條約発効後ト雖変更ナキコト此場合借区料ヲ昨年通
据置クハ昨年度既ニ前年ノ一割五分ヲ増加シアリ一九
二四年貸下ニ於テハ三年間据置ニテ前年ノ借区料ノ大

出漁方針並びに漁区契約と新漁業条約との関
係についての我が方の希望

体一割五分増ト為シタルニモ鑑ミ此際更ニ増額ヲ必要
トル程度ニ漁区ノ経済価値増加セリト認ムルヲ得サ
ルニ因ル

尚右(四)ノ場合ニ於テモ新条約発効後モ本年度ニ於テ新条
約ノ規定ヲ全然適用セストノ趣意ニ非サルハ勿論ナルニ
付新条約ハ出漁条件ニ関係ナキ限り適用アルヘク從テ我
缶詰工場契約国営漁区ノ割当等ニ付テモ発効後可成早目
ニ(実行ハ結局來年度トナルトモ)交渉ヲ開始シ新条約
ニ伴フ事態ノ確立ヲ急速ニ計リタキ所存ナリ

三、貴電第七〇号御来示ノ先方申出ノ国営希望漁区ハ第三
六号以外何レモ昨年度邦人経営ノモノニシテ且本年モ經
營ノ為既ニ準備済ナリトノ理由ヲ以テ先方申出ヲ拒絶ス
ルハ御来示ノ通單純ナル理由ニ不過モ此等重要漁区ヲ缶
詰工場關係漁区及国営留保漁区ノ商議ト無關係ニ本年度
ニ於テ手放スコトノ容認シ難キ事情ハ御承知ノ次第ト存
ス又之ヲ拒絶シタリトテ元来先方ノ希望モ「カラハン」
ノ言ノ如ク条約ニ基ク国営漁区ノ留保問題ニ非サルヲ以
テ将来交渉上ノ累トナルモノニハ非スト思考ス若シ夫レ
二四三号及二三二号ニ付テハ御来示ノ如キ理由ニ依リテ

日条約発効前ニ於テ斯カル部分的ノ解決ニハ応シ難シ仮
令本件ハ本年丈ノ問題ニシテ来年ハ更メテ全部商議スト
ノ建前ナリトスルモ右ハ一片ノ理論ニ過キシシテ本年一
年ニテモ国営ニ經營セシムレハ条約発効後ノ商議ニ影響
スヘキハ勿論ナルニ付事實ハ国営留保漁区ノ交渉ニ部分
的ニ同意ヲ与ヘタルト同様トナル斯ノ如キハ日本政府ト
シテハ条約ノ關係上當業者ニ対シ説明困難ナリ依テ本年
ノ処ハ斯カル新要求ヲ撤回セラレム事ヲ望ム尤モ万口ム
ヲ得サル事情アラハ禁漁区ノ再開ヲ考慮シ可ナリトノ趣
旨ヲ伝ヘタルニ「カ」ハ斯クテハ大イニ困難ナリ禁漁区
ノ再開ハ漁族保護ノ見地上断行シ難ク国営トシテハ本年
ハ全ク仕事カ出来サル事トナル日本側ニテ今少シク同情
的態度ニ出テラルヘキヲ期待シ居タリト零シ鬼ニ角關係
方面ト協議ノ上近々ニ何分ノ挨拶スヘント述ヘタリ就テ
ハ漁区問題ニ關シテハ今後トモ国営ノ希望ヲ放棄セシム
ルカ又ハ二、三禁漁区ノ再開ニ依リ妥協ヲモスル事ニ努
ムヘキモ右ニ付最終的決定ヲ見ル迄ニハ尚相当ノ時日ヲ
要スヘキヤニモ認メラルニ付繫争漁区以外ノ漁区ニ対
スル出漁条件ニ關シテハ場合ニ依リ漁区問題ト引離シ早

目ニ解決ヲ期スル事ト致スヘン

(二)然ルニ貴電第八八号後段御来示ノ如ク新条約第二条第二
項ヲ援用スル前提ノ下ニ貸下条件ヲ議スル事ハ外交ニ関
スル經緯ト(往電第四〇号)及未タ条約発効前ナルトニ
鑑ミ到底先方ヲ納得セシメ得ヘキニ非ス又(四)ノ如ク出漁
条件ニ関スル限り新条約ノ規定ヲ適用セサル事トシ従テ
税金及課金問題ニ付テハ從来ノ如ク未納ノ儘曖昧ノ事態
ニ置カムトスル事ハ之迄本使カ先方ニ対シ交渉シ来レル
經緯ヨリ見ルモ又ハ先方カ本件ヲ重要視セル点ヨリ見ル
モ先方トシテモ到底同意セサルヤニ認メラル依テ貸下條
件ハ昨年度ノ例ニ依リ契約ノ有効期間ヲ一九二八年十二
月迄延長スル事トナスモ(組合作製昭和二年度露領租借
漁区表第三四頁参照)別ニ契約ノ一条項トシテ新条約發
効ノ上ハ同条約ノ規定ヲ案照シ契約ノ条項ニ必要ノ調整
ヲナスヘシトノ趣旨ヲ加フル事トシ解決ヲ計り度シ右案
ニ依レハ例ヘハ機械力ノ使用(貸下条件第一条)越年者
(第四条)肥料製造(第七条)商船ノ航行(第一九条)
等ノ如キ我方ニ有利ナル規定ニ対スル調整如何ニ依リ租
税公課ノ如キ我方ノ義務ニ属スル事項ニ付調整ヲナスヘ

モ之カ留保ヲ拒絶シ得ル事理ナルヲ以テ右ニ漁区ニ付テ
ハ之ヲ理由トシテ付加セラルル極メテ適當ノ措置ト思考セラ
留保申出ヲ転換セシムル方法トシテ「カムサツカ」河河
口等ニ本年度ノ国営事業ニ絶対必要ナル程度ノ数ノ禁漁
区ノ再開ヲ主張セラルルハ極メテ適當ノ措置ト思考セラ
ルニ付可然御折衝アリ度之カ為組合ヲシテ真藤ニ指示ヲ
發セシムルハ未タ其時機ニ非ストモ認メラルニ付差当
リ貴地限リトシテ真藤ヲ利用セラルコト致シタシ

農林省側ト協議済

キヲ主張シ得ヘク我方ノミ不利ヲ受クル事ヲ避ケ得ヘキ
ハ勿論ト思考ス就テハ貴電第三三号及第五三号ノ御趣旨
ヲ体シ交渉ヲ進メ来レル本使ノ立場ヲモ篤ト考慮ニ入レ
ラレ何分ノ儀至急御回訓アリ度シ

149 昭和3年4月3日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)ソ連側の国営漁区拡張と新漁業条約との関係
についてモスクワ 4月3日後発
本省 4月4日前着

第九五号 貴電第九二号ニ関シ

三日「カラハン」ニ会見漁期切迫ノ今(日)日本ノ要望通り決定サレ度旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ本件ニ付テハ「ソ」政府ニ於テモ慎重審議セルモ国営ニ若干ノ發展ヲナサシムル必要アリ曩ニ提議セシ各漁区ハ是非国営ニ譲歩セラレ度其他ノ漁区ハ一切昨年通り本年モ出漁セシメ差支ナキニ付今一応日本政府へ申伝ヘラレ度旨ヲ主張ス依テ本使ハ日本側ハ既ニ多年經營シタル事實ニ基キ本年モ昨年同様凡テノ

漁区ニ対シ出漁準備セシハ当然ニシテ今ニ至リ貴方ニ於テ斯ク主張サルハ甚タ無理ナリト思考ス若シ之ヲ我政府ニ報告セハ惡印象ヲ与フヘント反省ヲ求メタルモ「カ」ハ実ハ國営ニ於テモ大体條約ノ成立ヲ見越シ夫々準備シ居リ殊ニ本年要求セルハ新條約ノ規定ヨリモ少ナキ數個ノ漁区ニ過キス日本側ニテ少シモ國営ノ發展ヲ顧ミサルハ當方ニモルモ日本側ノ同意ナクシテ國営カ漁区ヲ取ル能ハサルニ拘ハラス今回ハ我不同意ヲ排シテ貴方ノ要求ヲ固執セラルハ不条理ナリト説キタルニ対シ「カ」ハ「ソ」ハ本年ハ条件ヲ其儘トシ一年丈貸下ケ契約ヲ延期スル趣旨ノ取計ニ出テントスルモノニンテ之ニ対シ幾分國営ノ希望ヲ満足セシムルハ必スシモ無理ナル要求ニアラス新條約ノ規定ニ依リ難キニ依リ一年延期ト相互的ニ國営ニ若干ノ漁区ヲ与ヘントスルモノナリト答ヘ本使ヨリ本年丈ニ対シ斯カル強硬ノ態度ニ出テラルハ貴方ノ為ニモ採ラサル処ナル旨並ニ日本人カ在來經營セルモノヲ本年度モ更ニ經營セントスルコトハ至当ノ希望ナル旨ヲ述ヘ種々説明ニ力メタルモ「カ」ハ自分トシテハ政府ノ訓令ニ依リ日本側ノ再考ヲ求メルノ外

本省 4月5日後発

第一〇〇号(至急) 貴電第九五号ニ關シ

如何トモナシ難シ兎ニ角貴国政府ニ電報アリタシ自分ヨリモ「トライヤノフスキ」ニ打電シ委細説明セシムヘシト述ヘ態度ヲ変更セサルニ依リ然ラハ本日ノ会見ヲ其儘我政府ニ電報シ其上ニテ更ニ会見スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ

惟フニ先方ハ国営ニ於テ機械ノ買入其他ノ準備ヲナシタル為今更之ヲ無駄ニシ難キ事情アルト尚日本側ニ対シ一年貸継キヲ認メタル以上此際国営モ幾分ニテモ進出シ置クヲ當然ナリトスル見地ヨリ斯ク強硬ニ主張セルモノト考ヘラル就テハ御回訓ノ際ハ其点御考慮アリタシ

尚新漁区競売ノ件ハ先方ニ於テハ日本ニ対シ一年貸継キヲナス以上新漁区ヲ与フル要ナシトノ意向アリト述ヘタルニ依リ本使ハ新漁区開設ハ毎年ノ例ニシテ特ニ本年ハ條約締結ニ依リ政策的意味ニ於テモ新漁区競売ヲ施行セラルルヲ可トスル旨ヲ力説シ先方ハ再考ヲ約セリ

尚在來ノ貸下条件ト新條約規定トノ調整ニ就テハ先方ニ於テ今一応研究ノ上次回ニ於テ交渉スルコトトナレリ

150 昭和3年4月5日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛(電報)

日・ソの漁区は現状維持として交渉方訓令

ヲ求ムルコト

第二案トシテ差当リ漁季切迫セル蟹及沿海区漁区（繫争漁区四個ヲ後廻シトシ）ニ付前記方針ノ下ニ至急出漁ノ応諾ヲ求ムルコト

トシ右兩案ノ採否ハ交渉ノ經緯ニ徵シ貴官ニ於テ然ルヘク

御裁量ノ上兩案中何レカ一案ヲ以テ此際至急取纏メラレタ

ク何レニスルモ往電第九二号ノ通四月八日ノ第一船ニ問ニ

合フ様在國館及小樽「ソ」連邦領事ニ出漁査証ニ必要ナル

電訓ヲ發スル様御交渉アリタシ尚繫争漁区ノ今後ノ解決方

ニ付テハ當方ニ於テモ下考量中ナル處少クモ鮭鱈漁区ニ

関シテハ特別割増金提供ノ案ナキニアラサルモ現在交渉ノ

程度ニテハ當業者側ノ内意モ未タ確知シ難キニ付单ニ貴官

御含迄ニ止メ置カレタシ

尙新漁区開設ノ件ニ付テハ川角來電第四〇号ノ如ク哈府ニ

於テモ中央ノ回訓ヲ待チ居リ且我當業者モ出漁ヲ急キツツ

アル次第モアルニ付折角御交渉中ナルヘキモ此上トモ競売

執行方取急キ御取計アリタシ

農林大臣ト打合済

151 昭和3年5月1日 在ソ連邦田中大使より

田中外務大臣宛（電報）

カラハンは内政上の觀点から日本との契約調印を延期する模様について

モスクワ 5月1日前發
本省 5月1日後着

第一三一号
往電第一二一号ニ關シ

五月早々「アフガン」皇帝來遊ノ為「カラハン」カ多忙ナルヘキヲ慮リ三十日同氏ニ會見シ尚多少ノ余日アルモ鮭鱈漁区ニ對スル延長契約モ此ノ際調印ノ事ニ地方官憲ヘ訓令

方依頼シタルニ「カ」ハ右ニ對シ外務省トシテハ何等異存無キモ關係省ノ異議アリ今直ニ承諾シ難キ旨述ヘタルニ依

リスクテハ曩ニ「カ」ノ言明セル処ト相違アルヲ詰リタルニ「カ」ハ繫争漁区ヲ除キ一般ニ契約ヲ延長スルコトニハ

外務省ハ勿論關係省モ何等主義上異議無キモ關係省ニ於テハ鮭鱈出漁期ニ尚多少ノ余裕アルヲ以テ此ノ間ニ繫争漁区

問題ヲ何トカ解決シ出漁ニ間ニ合フ様新契約ヲ調印シ度シトノ意見ニテ外務省ニ對シ先ツ繫争問題ノ解決方ヲ迫リ居

152 昭和3年5月30日

田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛（電報）

係争漁区問題解決にあたつての我が方の希望

貫徹方指示

本省 5月30日後發

第一六九号

繫争漁区問題ニ付テハ出漁季目睫ノ間ニ切迫シ来レルニ拘ラス未タ解決ノ運ニ至ラサルコト甚タ遺憾ナルヲ以テ二十九日本大臣「トロヤノフスキ」大使ト會見ノ際本問題ニ言及シ從來邦人ノ經營ニ係リ本年モ既ニ出漁準備ヲ整ヘ居ル右漁区ニ出漁出来サルニ於テハ問題ノ漁区カ優良漁区タルニ鑑ミ當業者ノ受クル打擊大ナルヘキニ依リ本年限ノモノニモアリ日本人ノ現有勢力尊重ノ声明ノ趣旨ニ顧ミ是非昨年通貸下クルコトトン国營ノ為ニハ日本人ニ關係ナキ新開ノ優良漁区ヲ与ヘラルル様致度旨申入タルニ大使ハ右直ニ本國政府ニ取次クヘキ旨約シタリ就テハ貴官ハ「カラハン」ノ帰任シタルヲ幸ヒ「カ」ニ對シ帝国政府カ漁業條約発効ニ際シ從來ノ懸案タル本問題ヲ円満解決ノ上條約事項ノ商議ニ入り度キ希望ナル旨ヲ篤ト說示セラレ我方希望貫

ト付其ノ旨地方官憲ヘ更ニ訓令セシムヘント述ヘタリ
ラル尤モ鯪漁区ハ蟹漁区同様此ノ際契約調印ニ異議無キニ
尚「カラハン」ハ「アフガン」皇帝ニ扈從シ十日頃ヨリ二週間位国内旅行ノ筈

徹方ニ付御尽力アリタク尚往電第一四四号ノ金銭代償ニ依

ル解決案ハ貴電第一五三号酒匂「メリニコフ」ノ会談ニ依
レハ先方ハ主義上ノ問題トシテ之ニ応スル意向ナキ次第ト
解セラルモ應急ノ解決案トシテハ金銭代償ノ外ナシト考

ヘラルニ付時宜ニ依リテハ今一応正式ニ之ヲ申入レラル
ルコトモ一策ト存ス尚係争漁区ハ其ノ解決ニ至ルマテ國營
及日本側共之力經營ヲ為シ得サル筋合ニシテ結局彼我双方
ノ不利之ヨリ甚タシキハナキ儀ナルヲ以テ我方トシテモ其
ノ急速解決ヲ切望スル次第ナル所條約実施後ノ今日ニモア
リ此点ハ貴官ヨリ特ニ先方ノ注意ヲ喚起セラレ國營力係争
中ノ漁区ニ投網スルカ如キ事態ヲ万々生セサル様可然御配
慮アリ度シ

農林省ト打合済

153 昭和3年6月1日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

係争漁区をソ連の国営に經營させたいとする

カラハンとの応答について

モスクワ 6月1日後発
本 省 6月3日前着

スル対抗策トシテ一、二箇所ニテモ奪取シ先例ヲ造リ置カ
ントスル意地張ニ非スヤト問ヒタルニ「カ」ハ多クノ関係
官序ニハ斯カル感情アルヘキモ自分カ貴使ニ要望スルハ全
ク國營事業カ既ニ準備ノ為巨額ノ出費ヲ為シ其ノ将来ノ發
展上必要ナルニ依ルモノナリ他意アルニ非スト答フ依テ本
使ハ此ノ調子ニテ双方固執セハ結局作業不可能トナリ双方
損失ノ上塗ヲ為ス訣ニテ實際的見地ヨリスレハ誠ニ馬鹿気
タルコトナリ本件ハ何等政治的色彩無ク互ニ「ビジネス」
的立場ヨリ解決スルヲ要ス然ルニ是等係争漁区ハ國營ニト
リテ始メテ手ヲ着ケル訣ナルモ日本側ハ多年經營シ来レル
モノニシテ本年一年ノ問題トシテ之カ繼續經營ヲ希望スル
ハ当然ニシテ之カ為準備シタル事実ハ無視スルヲ得サルヘ
シ唯問題ハ國營ニ對シ不当ノ損失ヲ与ヘサルニアリ之カ為
ニハ急場ノ今日金錢的解決ニ依ルノ外無シ貴方ノ主張ハ諒
トスルモ其ノ結果ヲ考フレハ余リニ「ビジネス」的ナラス
早キニ及シテ金錢的解決ノ途ヲ採ラルコト得策ナラスヤ
ト百方説明ニ努メタルモ「カ」ハ自分トシテハ何等同意ス
ヘキ權能ナシ我經濟機關ノ空氣ヨリ考フルニ此ノ提議ニハ
応諾シ難カルヘシ日本側ニ於テ今少シク國營事業ノ發展ヲ

第一八八号

貴電第一六九号ニ関シ

往電第一八二号ノ通既ニ「カラハン」ト會見済ナルモ更ニ一
日同氏ト會見シ「トロヤノフスキ」大使ハ田中首相ノ要
望ヲ貴方ニ取次クコトヲ約セラレタル由ニ付先ツ貴方再考
カ「ト」ニ懇談サレタルコトヲ記載シタル後首相ヨリ莫斯
科ニ稟請方依頼セラレタルモ「ト」ハ日本側ノ御希望ハ到
底我政府ノ承諾シ得サルコト明カナリトテ之ヲ拒絶シ更ニ
去ルニ臨ミ再ヒ首相ヨリ依頼アリタルニ対シ之ヲ断リ置キ
タリトノ報告ニシテ何等稟請セル処無シト述ヘ併シ「ト」
カ何等約束セルカ如キ印象アリトセハ更ニ「ト」ニ対シ貴
見ノ通到底応諾シ難キ旨為急電報シ置クヘシト述ヘ次ニ本
使ヨリ極メテ懇談的ニ新條約実施ノ今日ニ於テ斯カル些少
ノ問題ニ付過去ノ歴史ニ見サル執拗ナル争議ヲ継続スルハ
互ニ甚タ不愉快ニシテ之カ條約締結者タル我々ハ何トカ解
決ヲ計ル要アリト前提シ貴方カ本年ニ限リ斯ク強硬ナルハ
恐ラクハ日本側カ現有漁区ヲ絶対ニ手放サストノ宣伝ニ対
考慮シタル案ヲ立テラレ度シトテ遂ニ何等「コンミット」
セス尚其ノ際「カ」ハ斯ク解決遲延セハ結局係争漁区ハ國
營ヲシテ經營セシムルニ至ルヘシト脱線セルニ依リ本使ハ
斯カル無法ノ処置ハ如何ナル根拠ニ依リ行ハルヘキヤ新条
約ニ依ルモ最後ノ場合ハ係争漁区ヲ競売ニ付スルノ外無ク
其ノ競売ニ関シテハ國營ハ參加シ得サルヘシト述ヘタルニ
「カ」ハ沈黙セリ

154 昭和3年6月5日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

係争漁区の日ソ間の配分に関する我が方解決

案提示方訓令

本 省 6月5日後発

第一八二号

貴電第一八八号ニ関シ

繫争漁区問題カ金錢代償ノ方法ニ依リ解決ヲ見ルコト困難
ナリトセハ漁区自体ノ配分方ニ付具体的交渉ヲ行フノ外ナ
カルヘキニ依リ當方ニ於テ當業者及組合ノ意向ヲモ徵シタ
ル結果左記解決案ニ依リ妥結ヲ計ルコト致シタキニ就テ
ハ貴官ハ至急之ヲ先方ニ提示セラレ先方ノ同意ヲ取付クル

様御尽力アリ度シ

一、二四三号、二三三二号及二二六号ベノ三漁区ニ付テハ
甲、「カムサツカ」河口西南八露里ニ新ニ漁区ヲ一ヶ所開
設セシメタル上右新漁区及二四三号ノ二漁区中一ヶ所ヲ
国営ニ一ヶ所ヲ日魯ニ貸付スルコトトシ右新漁区ノ漁獲
標準高ハ大体二四三号ノ最近三年間ノ平均漁獲高ニ依リ
之ヲ定ムルコト

乙、「オゼルナヤ」河口北一露里ヨリ八露里半ノ地域内ニ
ハ現在八露里半ニ二三〇号及四露里半ニ二三三二号アルノ
ミナルヲ以テ（大正十五年日魯作成ノ漁区距離表ニ依レ
ハ右二三〇号ハ河口北九露里半ニ二三二号ハ河口北五露里
三七七「サーゼン」ニ在リ即河口ヨリ二三〇号其ノ間ノ
距離ハ露国発表ノ漁区表ニ依ルモノヨリモ更ニ余裕アリ
ト云フ）右二三三二号ノ位置ヲ変更シ前記距離間ニ新ニ漁
区ニケラ開設セシメタル上右新漁区及二三三二号ノ三漁区
中「オゼルナヤ」河口ニ近キ二ヶ所ヲ国営ニ河口ニ最モ
遠キ一ヶ所ヲ日魯ニ貸付スルコト（二二六号ベハ我
方ニ留保ス）右新漁区ノ漁獲標準高ハ付近漁区ノ最近三
年間ノ平均漁獲高ニ依リ之ヲ定ムルコト

155 昭和3年6月12日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛（電報）

カラハンより提議のソ連側対案への回答振り

請訓

モスクワ 6月12日後発
本 省 6月14日前発

第二二一号（至急）
往電第二〇三号ニ関シ

十二日「カラハン」ト会見セルニ「カ」ハ熟議ノ結果ナリ
ト前提シ

甲、勘察加河口西南八露里ニ新漁区開設方ニ付テハ部内ニ
反対強カリシモ結局本年一年限り試験的ニ之ヲ開設スル
事ニ漸ク協議纏リタルカ日本側ノ提議ハ右新漁区及二四
三号ノ内何レカ一個ヲ国営ニ貸下クル事ニ同意ストノ趣
旨ナルニ付日魯ヘハ右新漁区ヲ提供シ国営ヘハ二四三ヲ
貸下クル事トシ度詳細ニ付テハ係官ヲシテ協議セシメタ
シ尤モ右ハ本年限リノ事ニテ來年度以降ニ付テハ別ニ協
定スヘキハ勿論ナリト述ヘ

乙、「オゼルナヤ」河ト二三〇号漁区トノ間ニ新漁区開設

二、繫争蟹漁区ニ付テハ右鮭鱈漁区問題ノ解決ヲ俟チ貴電

第一三五号ノ真藤案ニ依リ解決セラレ差支ナシ

尚貴電御来示ニ依ルモ先方ハ本年度出漁ニ關係アル巨細ノ
問題ヲ一切繫争漁区問題解決ノ為ノ牽制材料トナシ居ル觀
アル處我方ニ於テ何等條約ニ依ル國営ノ漁区取得ヲ否認セ

ントスル意思ナキニ係ラス之ヲ曲解シ為ニ本年度出漁ニ種
々ノ故障頻出シツツアルハ我方ノ甚タ不快トスル處ナルヲ

以テ「ソ」側ニ於テカカル小細工ヲ弄セサル様可然御説示
アリ度ク差当リ借区料一割五分増ノ問題ハ貴電第九七号
「カラハン」ノ約言アル次第ニ付我方ノ断シテ承認スル能
ハサル所ナルモ他ノ借区条件ニシテ昨年ト同一ナラハ税金
公課ハ新条約ニ依ルコトスルモ何等差支ナキコト往電第
九二号申進ノ通ナルニ付此際右ノ点ヲ先方ニ明示セラレ借
区契約ヲ一日モ速ニ締結スル様申入レラレ繫争漁区問題ト
関係ナキ他ノ出漁問題モ速急解決方併セテ先方ニ督促アリ
タシ

農林省ト協議済

編注 一サージエンは二・三メートル。

タシ
モスクワ 6月12日後発
本 省 6月14日前発

- 次第ヲ語リ「トロヤノフスキ」ヨリ右ニ付何等電報アリシヤト尋ネタリシニ「カ」ハ未タ接電セサルモ既ニ中央ニ於テ決定セル事故「ト」ヨリ意見ヲ上申シ来ルトモ間ニ合ハサルヘシ尤モ「ト」ニ対シテモ今回ノ提議ヲ至急打電シ使モ直ニ貴案ノ次第ヲ本国政府へ電報スヘキ旨挨拶シ置キタリ
- 日本政府ノ同意ヲ得ル様尽力セシムヘシト答ヘタルニ付本就テハ本件回答振りニ付何分ノ儀至急回電アリタシ
- 156 昭和3年6月14日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛(電報)
ソ連案受諾に際しての留保事項について
- 本省 6月14日後発
- 第二〇六号(至急)
貴電第二一一号ニ関シ
- 甲、日魯カ二四三号ノ代リトシテ「カムサトカ」河口西南八露里ニ開カルヘキ新漁区ヲ取得スルコトニ協定セラレ差支ナシ
- 乙、二二六号ベト二三二号トハ「オゼルナヤ」河口ニ新漁区ヲ開設セサル限リ共ニ日魯ニ於テ經營ヲ希望スルニ付

- 至急回電アリタシ
- 157 昭和3年6月18日 在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)
漁区問題自然解決にともなう交渉措置振り請
- 訓
- モスクワ 6月18日後発
本省 6月19日前着
- 第二三三号
往電第一一九号ニ関シ
- 十八日「カラハン」ハ未タ現場ヨリモ亦哈府ヨリモ回電ニ接セサル旨答ヘタルカ本件ニ付テハ二四三号及八露里漁区関係ニ付テハ既ニ解決セル次第故最早問題ナキヤニ考ヘラルモ何等参考トナルヘキ情報アラハ回電アリタシ
- 158 昭和3年6月20日 田中外務大臣より
在ソ連邦田中大使宛(電報)
漁区問題自然解決につき交渉不要の旨回訓
- 本省 6月20日後発

右両漁区共我方ニ留保方強硬ニ主張セラレ度之カ為ニハ日魯ヨリ国営ニ金錢補償ヲ支払フコトトスルモ差支ナシ若シ先方カ右提議ニ応スルヲ難スル場合ニハ第二策トシテ左記ニ依ラレタシ即

二三〇号ト二三二号トノ距離ハ十分ニ四露里アルヲ以テ右両漁区間ニ嘗テ開カレタルコトアル二三一号ヲ復活シテ新ニ一漁区ヲ開設スルコトハ漁族保護ノ趣旨ニモ反セサルヘキニ付右開設方主張セラレ該新漁区ト二三二号トノ内何レカ一ヲ国営ニ他ヲ日魯ニ貸付スルコトトナラハ日魯ニ於テ二二六号ベラ金錢補償付ニテ借受クルコトニ異議ナシ

丙、二四三号漁区ニ関スル事態ノ急迫御承知ノ通ナルニ依リ甲ヲ乙ト切離シ日魯ニ於テ即時「カムサトカ」河口西南八露里ノ新漁区經營ニ着手差支ナキコトニ協定セラレ「ソ」側地方官憲ニモ大至急電達方御取斗アリタシ本電ノ趣旨特ニ甲乙ノ第一案ハ十四日出淵次官ヨリ露國大使ニ申入レ濟ニテ同大使ヨリモ「ソ」政府ニ取次クヘキ旨約シタルニ付本件一日モ早ク妥協精々御尽力アリタシ尚往電第一八二号ヲ以テ申進シタル繫争蟹漁区問題ノ経過

治上及經濟上ノ「インテレスト」ノ為圧迫セラレ居ルコトヲ語ルモノナリ吾人ハスル圧迫ニ左右セラルコトナク又

前記ノ陰謀カ日蘇關係ノ順調ナル發達ニ何等影響スルコトナキモノト思考セサルヘカラス吾人ハ漁業條約ヲ反古ニ為

サムトル漁業家一部ノ希望ハ成功スルコトナク同條約力完全ニ実施セラレムコトヲ疑ハス云々

ト論セリ又同日ノ「エコノミヂエスカヤ・ジズニ」モ其ノ

日欄ニ根拠ナキ要求ト題スル短評ヲ掲ケ日本漁業家ノ要求カ一々条約ニ反スルコトヲ挙ケタリ

162 昭和4年2月10日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

漁区競売に当つて処理すべき諸懸案について

モスクワ 2月10日発
本省 2月11日着

第四七号

漁業關係ノ諸懸案ニ付テハ説明ヲ付シタル個條書ヲ作製シ成ルヘク速ニ「カラハン」ニ対シ實際上ノ見地ヨリ是等ノ円滑解決方懇談ノ積リナルカ予メ「コルチャ」ニ極東ニ於ケル交渉ノ経緯等ヲ説明シ置ク方適當ト認メ九日「コ」ト

会談セルカ其ノ要領左ノ通

一、繁殖保護税ノ件

「コ」ハ元來貸下条件ハ一般的ノモノナルニ付該稅ニ関スル一項アルモノト認ム日本當業者カ抵代稅ヲ支払フ以上又寄付的ニ之カ支払ヲ欲セサル以上其ノ支払ヲ要セサルハ云フ迄モ無シト述ヘタリ

二、保証金ノ件

「コ」ハ実ハ先日最高經濟會議ノ一員ヨリ左ノ通營業保証金ヲ納入スル様規則ヲ改正スル要アリトノ話ヲ聞キタル事アリ其ノ後ノ模様ハ之ヲ知ラサルモ免ニ角私見ニ依レハ本件ニ関スル日本側ノ主張ハ正当ナリト認ムト為シ本官ハ参考ノ為読ミ聞カセタル哈府發閣下宛電報第三三号「チュツカエフ」ノ言ニ対シテハ笑ヲ以テ答ヘ國營カ議定書甲第十八条ノ公企業ニ含ムヘキハ露証ハ別トシ英文ニ依レハ明カナリト述ヘタリ

尚競売広告ニ保証金カ六割五分トアル点ニ付「コ」ハ右ハ抵代稅ノ支払方法ハ借料ノ夫ニ準ストノ條約付屬公文ノ規定ヲ考慮シタルモノト認ム從テ若シ國營モ五割ノ保證金ヲ納入スル事トナレル場合日本側トシテハ僅ニ一部

ニ対シ故障申出ノ余地アルモノト考ヘル旨付言セリ

三、新漁区追加發表ノ件

本官ヨリ日本側ノ希望スルモノ約七十個處アリ其ノ詳細ニ付テハ本朝漸ク電報ニ接シタルヲ以テ追テ一覽表トシ提議スヘキヲ述ヘタルニ「コ」ハ本件ノ如キハ全ク極東官憲ノ意見ニ待ツヘキモノナリ曩ニ發表セラレタル新漁区ノ如キモ本官ヨリ提示ノ一覽表ニテ初メテ承知セル次第ナリ從テ本件ヲ中央ニテ如何取扱フヘキヤ見当付カサルモ免ニ角一覽表ヲ提示シ置カレ度シト述ヘタリ

四、漁期終了期ノ件並ニ船内加工ノ件

「コ」ハ是等ニ關スル日本側ノ要望ハ何レモ從来ノ慣例以上ニ出テサルモノナルニ付事實上ハ容易ニ解決シ得ヘキ問題ト考フ斯ル問題カ極東ニテ解決セサルハ遺憾ナリ是等ハ條約ノ規定ニ直接関係無ク又極東官憲ノ權限ニ属スルモノ故自分限リニテ処置困難ナリ依テ一応「カラハン」ニ申出置カレ度キ旨述ヘタリ

五、標準高ノ件

本官ヨリ極東ニ於ケル交渉ノ大体ヲ語リ議論ナセハ双方ニ相當ノ言分アルヘキモ事実上條約実施ノ第一年ニ於テ

充分ノ協力ヲ為スノ用意アリト述ヘタルニ「ソ」ハ虛偽ノ届出云々ノ点ヲ表向キノ問題トスルハ甚タ面白カラサルニ付此ノ場限りトン度ク兎ニ角從来通ノ標準高ヲ採用スル様充分努力スヘシト結ヘリ

六、蘇側個人企業ノ件

本官ヨリ本日重要ナル訓電ニ接セリト前提シニ八年度ノ実例及本年度ニ関スル情報ヲ告ケ執拗ト思ハル程ニ日本側ノ不安乃至見解ニ付力説セルニ「コ」ハ本件ノ重要性ヲ充分認メ蘇側私人力如何ニモ國營ヨリ融資ヲ受ケタルカ如キ言動ヲ為スハ或ハ日本側ヨリ有利ニ融資ヲ受ケントスル魂胆ニ出ツルモノナラスマトモ臆測セラレサルニ非サルモ夫ハ兎モ角斯ル情報ヲ入手セル以上日本當業者カ不安ヲ抱クハ無理カラヌ心情ト認ムト述ヘタル後蘇當局トシテハ國營ニ於テ條約付属公文第二ノ趣旨ヲ敵守スヘキ事ニ付既ニ充分徹底スル様關係ノ向ニ指令シアリ又本年國營トシテハ條約ノ規定ニ基キ其ノ所要ノ漁区ヲ保留シ得ル次第ナルニ付二八年度ノ例ノ如キハ勿論日本側入手ノ情報ノ如キ事ヲ國營ニ於テ企画シ居レリトハ信シ難キモ尚為念嚴重ナル警告ヲ發スル事ニ異議無シ日本

貴電第四七号ノ六ニ関シ

163 昭和4年2月16日 在ソ連邦苟臨時代理大使宛（電報）

ソ連側私的企業の競売參加に当つて留意すべき事項について

本省 2月16日前發

暗第三三号

アリタシ

一、漁区競売參加者ハ入札申込書ニ添付スヘキ身分證明書又ハ委任状ノ外ニ競売執行ノ前日迄ニ身元保証金トシテ四千留ヲ漁区競賣事務所ニ提出シテ競賣參加証票ヲ受クルコトトシ本証票ヲ所持セサル者ハ競賣ニ參加スルヲ得サルコトトス但シ日本人ノ帶同スル通訳ハ此ノ限ニアラサルコト

前記身分保証金ハ競賣修了後當該參加者ニ之ヲ返還シ不參加者ノ分ハ「ソ」側當局ニ於テ之ヲ沒收スルコト二、漁区ノ競賣ハ漁区一ヶ所宛ニ付順次之ヲ行ヒ競賣參加者ヲシテ其ノ都度入札申込書ヲ提出セシムルコト

三、競り合アリタル漁区ニ付テハ競賣ノ當該年内ニ轉売又ハ轉貸ヲ為スノ目的ヲ以テシタル落札ハ之ヲ無効トシ第二番札ノ者ニ之ヲ貸付クルコト

右案ハ一面本邦人ノ不安ヲ少ナカラシムルト共ニ他面不真面目ナル競賣參加者例ハ單ニ落札価格釣上ケノ為参加スル者及「ブローカー」ノ如キ者ノ介入ヲ防止シテ競賣ヲ嚴正ナラシメ且競賣ノ実効ヲ大ナラシムルノ利益アルヲ以テ

取付方懇談ヲ試ミラレタク右懇談ノ結果我方希望達成到底困難ナル場合ニハ左記ノ案ニ対シ先方ノ同意取付方御尽力

側トシテハ前記公文ニ依ル充分ノ保障ヲ有セラル次第ニ付之ニ闕スル蘇側ノ責務ヲ信セラレム事ヲ切望シテ（脱）此ノ点ハ「カラハン」ニ相談スルヲ待タス茲ニ明言シ得ルヲ以テ是非日本政府並ニ日本當業者ノ不安ヲ去ル様打電セラレタシト切言セリ

右ニ対シ本官ハ蘇側ニ於テ條約付属公文ニ定ムル責務ニ背反スル事無キヲ信スルモ若シ万一論議ノ端ト為ルカ如キ事例起リタリトセんカ右ハ競賣後乃至漁期開始後ニケル交渉ニ待タサルヲ得ススクテハ依然日本側カ競賣ニ參加スルニ際シ不安アリト言ハサルヲ得ス日本側ノ希望スル處ハ日蘇両国人ノ從來經營セル漁区ニ付テハ互ニ相侵サル事トシ度キニ在リト述ヘタルニ「コ」ハ其ノ趣旨ハ諒トス從テ事實上ハ斯ル結果トナルヘキヤニ考フルモ競賣ヲ行フ以上政府ヨリ蘇側個人ニ向テ日本人ノ從來經營セル漁区ニ對シテハ入札スヘカラスト云フカ如キ何等ノ命令ヲ發スル事困難ナルハ日本側ニテモ諒察アリタシト答ヘタリ以上ノ諸件並ニ袋網ノ件及國營保留漁区ノ件以外ニ此ノ交渉ヲ要スヘキ事項無キヤ為念回電アリタシ

哈府ヘ転電セリ

ニ於テ国内法改正ノ関係モアリテ本年ヨリ之ヲ全部実行スルコト困難トスルニ於テハ同案ノ一部ト雖出来得ル限り実行シ例ヘハ一般漁区貸付条件第十七条ノ活用トンテ同案ノ第三項ヲ実行スルト共ニ前記ノ如ク競売ニ於テ予想外ノ私的企業ノ活動スルコトナキ様何等カノ措置併用方ヲ求メラレタシ

本電在ハバロフスク及浦潮総領事ニ転電アリタシ

164 昭和4年2月19日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

漁区競売問題をめぐる諸懸案につきカラハン

と懇談

モスクワ 2月19日後発
本省 2月20日後着

往電第六五号ニ関シ
第七〇号

十九日病氣引籠中ノ「カラハン」ヲ其ノ私邸ニ訪ヒ御訓令ノ趣旨ノ徹底スル様篤ト懇談ヲ重ネタリ

(一)「カ」ハ腹蔵ナク所見ヲ述フヘシトテ日本側カ日蘇両国人ニ於テ其ノ從来經營セル漁区ヲ競売ニ於テ互ニ相侵サ

サル様何等カノ措置ヲ講セラレ度シト要望セラルル趣旨ハ所謂現有漁区保有ノ希望ニ出ツルモノト認ムル処右ニ對スル蘇側ノ決定的態度ハ日本側ニ於テモ夙ニ承知シ居ラル筈ナリ從テ自分トシテ之ニ応諾シ得ヘキ地位ニアラサルハ日本側ノ諒承ヲ請ハサルヲ得ス然シ蘇側官憲ハ勿論國營当事者ニ於テハ蘇側個人ヲ何等カノ方法ニ依リ援助又ハ指嗾シテ日本人ノ從來經營セル漁区ヲ競売ニ於テ奪取セムトスルカ如キ意向ハ絶対且寸毫モ之ヲ有シ居ラス此ノ点ハ日本政府ニ報告セラレタシ尤モ蘇側個人ニ於テ一般金融業者ヨリ若干ノ融通ヲ受クルカ如キコトハ有リ得ヘキモ蘇側官憲トシテ之ヲ禁スルコト困難ナリト付言セリ依テ本官ハ競売ノ結果ニ於テ關係日本人カ其ノ希望スル從来ノ經營漁区ヲ失ハサル様何トカ措置出来間敷キヤ右ハ「カラハン」ノ好意的考慮ニ訴フル次第ナリト説ケルニ「カ」ハ結果ニ於テ日本側希望ノ通ニナルコトハ自分モ切望スル次第ナルカ競売ニ於テ個人ノ自由意思ヲ束縛スルコトヲ得サル限り競売ノ結果ニ付何トモ言明シ難シ然シ今迄得タル情報ニ依レハ蘇側個人ハ財的ニ貧弱ナル關係モアリ旁二、三ノ例外アルヤ否ヤハ逆睹シ

難キモ大体ニ於テ日蘇両国人ノ從来經營セル漁区ニハ今後共変化ナカルヘキヲ予想シ居レル旨述ヘタルニ依リ本官ハ二、三ノ例外アルヤモ測リ難シト言フカ如キ予想カ

日本側ヲ憂ヘシムル所以ナリスルコトナキ様何トカ措置ヲ望ムト繰返シタルニ「カ」ハ是レ至難ヲ強フルモノナリ自分ノ立場モ諒承セラレタントテ蘇側カ故意ニ日本人關係漁区ヲ競売ニ於テ奪ハムトスルカ如キ意向ナキ旨ノミヲ繰返シ答ヘタリ

(二)本官ハ貴電第三一号ニ基キ條約第二条中第二項ノ適用トシテ茲ニ提示スル漁区(貴電第三二号及工場關係ノ八漁区)ニ付此ノ際無競売貸下ヲ認メラレタント要望セルニ「カ」ハ之迄日本側ノ申出テニ対シテハ出來得ル限り好意のニ取扱ヒ前回要望セラレタル事項ニ付テハ大体日本側希望通解決セシ筈ナリ今又斯カル難題ニ接シテハ只困ツタモノナリト謂フノ外ナシ無競売貸下ノ件ハ種々審議

ノ結果之ニ応セサルコトニ決定シ居レリト言ヘルニ付本官ハ日本小漁業者ノ立場ヲ説キ今一応再考アリタキ旨要望セルニ「カ」ハ本件ハ言フ迄モナク日本政府ヨリノ訓

令ニ基キ飽迄根氣ヨク述ヘラルルモノト信スルニ依リ

165 昭和4年2月21日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

競売延期および懸案解決方申入れ

本省 2月21日後発

第四一号(大至急)

本省 2月21日後発

テハ「ソ」側個人ヲシテ重要漁区ニ対スル入札ヲ差控ヘシ
メ右ハ第一回ノ競売ニ於テ競合ハシメルコトトシ左ノ妥協
案ニ依リ何等局面ノ打開ヲ計リ度旨申述ヘタルニ付不取敢
午後係官ヲ同大使ノ許ニ派シ競売期日前ノ最後ノ便船タル
二十三日ノ敦賀発嘉義丸便ヲ外シタル今日當業者代表ヲ浦
潮ニ赴カシムルコトモ事實上到底不可能ナル旨及日本人ヲ
提案ニ同意シ得サル旨回答セシメ置タリ其際同大使ハ延期
承認カ條約規定ノ変更トナルヘキコト及當業者ノ真意ハ依
多失フヘキ虞アルニ付當方トシテハ遺憾乍ラ大使折角ノ御
提議ニ同意シ得サル旨回答セシメ置タリ其際同大使ハ延期
得スルニアリテ競売ノ執行ハ延期スルモ結局不参加トナル
虞ナキヤ懸念セラル旨ヲ述ヘタルニ付我方トシテハ競売
ノ延期ハ條約「テキスト」ノ変更ニアラス両國政府ノ合意
ニ依リ臨機ノ措置トシテ期日ヲ延期ストモ條約規定ノ変更
トハ看做シ難シト解シ居ル旨ヲ説明スルト共ニ「ソ」側ノ
右延期承認ニ依リ競賣期日迄ニ懸案ノ解決ヲ確定シ得ハ當
業者ヲ競売ニ誘導スル上ニ於テ多大ノ効果アルヘキ旨応酬
人現有鮭鱈漁区一六同蟹漁区一露人現有漁区九新鮭鱈漁区
五四新蟹漁区六不取敢

169 昭和4年3月1日 在ウラジオストック渡辺總領事より
田中外務大臣宛(電報)

競売の結果統報

ウラジオストック 3月1日後発
本 省 3月2日前着

第二六号 (五)
往電第二四号ニ関シ

昨二十八日競売ハ既報ノ通「ゴロ」主催ノ下ニ型ノ如ク終
了シタリトハ云ヘ三時締切後徒ラニ時間ヲ遷延シ六時漸ク
読上ヲ開始シ係官ノ態度纵然タラサルモノアリシカ本日午
後二時ノ公表揭示ハ四時撤回シ關係者以外ノ閲覧ヲ禁シタ
ルヤノ觀アリ右公表漁区表中ニハ昨日露人ノ落札セル邦人
現有鮭鱈漁区一七一ア、一七一ベ、二一二、一六一、一八
三ア、三七エ、三七デ、三八、三八エ、三八ジエ、三九
エ、四三、五七ア、一〇九ゲ、一八四、一八五、二二九ノ
十六ヶ所中三七エ以下十二ヶ所及新漁区三三ベヲ記載シア
ラス五一ハ再落シタル旨ヲ公表シ結局競落鮭鱈漁区六十九

格ヲ昨年度借区料ニ比スルニ二倍乃至三倍甚タシキハ五倍
ニ達セルモノアルハ注意ニ值スルモノト思考セラル
露、哈府ニ転電セリ

170 昭和4年3月1日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

競売を正式のものと認め難い旨当方の見解表
明について

モスクワ 3月1日後発
本省 3月2日後着

貴電第五六号ニ関シ
第九六号⁽¹⁾

一日「カラハン」ニ対シ御来示ノ二ノ趣旨ヲ敷衍シ二十八
日ノ競売ハ日本政府ニ於テ之ヲ正式ノ競売トシテ承認シ難
シ依テ三日迄ニ懸案ノ具体的解決ヲ為シ十四日ニ第一回ノ
競売ヲ施行セラレ度キ旨要望セルニ「カ」ハ右ニ付テハ既
ニ駐日大使ヨリ電報ニ接シ居レリ蘇側トシテハ二十八日ノ
競売ヲ以テ正式ノモノト認ムル旨詳細ノ説明ヲ付シ同大使
ニ電報シ之ヲ日本政府ニ申入ル様回訓済ミナリト答ヘ事

二依リ臨機ノ措置トシテ期日ヲ延期ストモ條約規定ノ変更
トハ看做シ難シト解シ居ル旨ヲ説明スルト共ニ「ソ」側ノ
右延期承認ニ依リ競売期日迄ニ懸案ノ解決ヲ確定シ得ハ當
業者ヲ競売ニ誘導スル上ニ於テ多大ノ効果アルヘキ旨應酬
人現有鮭鱈漁区一六同蟹漁区一露人現有漁区九新鮭鱈漁区
五四新蟹漁区六不取敢

本電哈府及浦潮へ転電アリ度ン
168 昭和4年2月28日 在ウラジオストック 渡辺總領事より
競売結果につき報告
田中外務大臣宛(電報)
ウラジオストック 2月28日後発
本 省 3月1日前着

第二五号

二十八日競売ノ結果左ノ通
競売参加者一二名入札漁区数一〇九内競落漁区八六内訛却

シ更ニ同大使ノ求メニ応シ貸付条件等目下ノ懸案ニ付詳細
説明ヲ為シ置タル趣ナリ

競売ノ結果ハ未タ確認ヲ経サルモノナリ右ニ付テハ日本側
東官憲ヘ電訓方ノ点ハ自分限リニテ決シ難キニ付明二日中
ニ自分又ハ「カズロフスキ」ヨリ何分ノ返事ヲ為スヘキ
ヲ答ヘタリ尚「カ」カ二十八日競売ニ付前記ノ如ク云ヘル
真意ヲ確カムル為例ヘハ日本人ノ現有漁区ニ闊スル限り無
効トスル意向ナリヤト突込ミ尋ネタルニ兎ニ角確報ヲ待タ
レタシトテ明答ヲ避ケタリ又保証金及公証人手数料等ノ如
キ問題ニ付テハ「カ」ニテハ解ラサルニ付「カ」ノ言ニ從
ヒ明二日中ニ「カズロフスキ」ニ今一応申入ル積リナ

茲ニ至ルハ日本政府カ當業者ノ不合理的ナル要望ニ動力
サレタル結果ニシテ右ハ如何ニ日本側ニテ弁解セラルルト
モ先ニハ山口總領事カ(?)包括協定ヲ支持セラレ現ニ貴
官自身モ數十ノ漁区ニ付無競売貸付ヲ要望セラレタルノミ
ナラス新聞紙等ニテ報セラル組合ノ決議等ニ徵シテモ蔽
フ能ハサル処ナリ外務農林當局カ當業者ニ競売參加ヲ勧誘
セラレ又吉田次官カ駐日大使ニ對シ蘇側ノ厚意的取扱ヲ諒
トスル旨述ヘラレタルカ如キハ蘇側ノ措置ノ正当ナルヲ語
ルモノニ外ナラス蘇側トシテハ條約ノ規定ヲ遵守セントス
ルノ外他意アルニアラスト述ヘタルニ付本官ハ累次ノ貴電
トスル旨ニ基キ「カ」ノ諸説ヲ論駁シ現ニ競売ノ主要条件ハ
條約ノ規定ニ依リ未タ調整セラレ居ラサルニアラスヤ斯カ
ル狀態ニ於テ二十八日ノ競売ニ當業者ヲ參加セシメサルハ
ノ趣旨ニ基キ「カ」ハ當業者カ速ニ極
言ヲ俟タサル処ナリト難詰セルニ「カ」ハ當業者カ速ニ極
東官憲ニ申請セサリシ罪ナリト繰返セルヲ以テ本官ハ貸付
ナルハ論ヲ俟タスト応酬シ彼是論議ヲ重ネタルカ「カ」ハ
期間ノ如キハ明カニ條約ノ違犯ニシテ政府間ニ於テ交渉ス
ヘキモノナリスカル事項ノ調整セラレ居ラサル競売ノ不当
議論ハ別トシテ今後如何ニスヘキヤノ問題ニ付日本政府カ

成ルヘク速ニ当事者ヲシテ浦潮ニ赴カシメ今後ノ競売ニ參加セシメラレムコトヲ望ム当事者ニ於テ極東官憲ト商議サヘ行ハハ総テ円満ナル解決ニ達スヘキヲ確信スト言ヘルニ付
本官ハ貸付期間ノ問題等ノ如キハ蘇側自ラ進ンテ調製スヘキモノナリ標準高ノ点ハ手続トシテ議論アリ得ヘキモ蘇側形式問題ニ因ハレ日本側ノ要望ニ副ヒ難シト豪語セラルルハ兎ニ角トシ吾人ハ結果ニ於テ如何ナル事態ヲ現出スルヤヲ考ヘサルヘカラズ本官トシテハ先決問題タル二十八日ノ競売ヲ無効トスルコトニ付蘇側ノ同意ヲ得サル以上善後措置ニ付交渉スルノ立（場）ニ非サルモ蘇側ノ友人トシテ言ハハ此ノ際極東官憲ヲシテ標準高及貸付期間等ニ闇スル日本側ノ要望ニ対シ蘇側ニ於テ実質的ニ異議ナキ事項ニ付テハ速ニ進ンテ調製セシムル様至急電訓ヲ発セラルルコト肝要ナリ尤モ二十八日ノ競売ノ結果ハ予テノ言明ヲ裏切り蘇側個人ノ活動目覚シキモノアリテ浦潮発閣下宛電報第二五号ノ次第ヲ告ケ斯ル以上仮リニ前記ノ如ク極東官憲ニ於テ措置セラルルトモ如何ナル結果トナルヤ予見シ難シト述ヘタル処「カ」ハ本官ノ所説ヲ能ク諒解セリトテ二十八日

17
昭和4年3月3日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛（電報）

別電 昭和四年三月

付期間三付決定ヲ専々久留又漁区賛付条件中條約ノ規定

新漁区追加発表問題並びに標準漁獲高問題に関する申入方訓令

ナルコトハ條約中漁区貸付ニ関スル細目並法令ニ付二月又ハ三月ノ予告期間ヲ定メタル趣旨ニ鑑ミルモ明白ナル次第ナリ依テ我方ハ已ムヲ得ス二月二十二日競売延期方ノ申入ヲ為シタルモノニシテ我方ハ引続キ右延期ノ主張ヲ固執スルト共ニ二月二十八日ニ行ハレタル競売ハ約上無効ノモノナリト認ムルノ外無シ

(b) 尚又二月二十八日ノ競売ハ單ニ左記理由ニ依ルモ之ヲ不正競売トシテ条約上無効ト認メサルヲ得ス

(c) 右競売ニ於テ露国人力百九ヶ所ノ漁区ニ入札シ価額九十余万留ヲ以テ八十七箇所ヲ落札シタルコトハ貴地当局ノ言明ニ反ス(貴電第四七号ノ六及第七〇号ノ一)又「リ」連邦ニ於テ逐年個人資本ノ活動カ衰滅シソアル事実ニ反ス故ニ我方トシテハ右ハ「リ」側国立金融機関又ハ之ニ準スルモノノ不当ノ融資及官刃ノ使嗾援助ニ因ルモノト認メサルヲ得ス

(d) 今回ノ如キ露国個人漁業者ノ活躍ハ「ソ」連邦ノ制度及政治上ノ主義ニ反スヘク從テ右制度及主義ヲ新事態ト認メ之ヲ考慮ノ下ニ締結シタル漁業条約ノ精神ニ反ス

尚貴官ハ先方ニ對シ我方ニ於テ此際此ノ如キ主張ヲ為ス所
以ハニニ條約ノ公正ナル遵守ト日露善隣ノ大義ヲ尊重スル
カ為ニシテ漁業条約実施第一年ニ於テ此種問題不解決ノ結果事態ノ紛糾ヲ惹起シ條約ノ円滑ナル適用ニ一頓挫ヲ來ス
カ如キコトアリテハ日露両國政府双方ニトリ甚タ好マンカラスト確信スル次第ナル旨ヲ申述ラレ先方ノ反省ヲ求メラ
レ併セテ本件不正競売ノ善後策トシテ先方ノ執ルヘキ措置ニ付成案ノ有無ヲ問糺シ結果至急回電アリタシ我方トシテモ善後策目下考案中ナルヲ以テ成案出来次第電報スヘキモ前記二十八日ノ競売否認ノ趣旨ハ此ノ際不敢申入置カレタシ尚出漁条件ノ是正ハ何レニシテモ其ノ急速解決ヲ絶対必要トスル次第ナルニ付別電第六一号ノ電訓モ至急執行アリタシ

本電在ハバロフスク及浦潮各總領事ニ転電セリ

(別 電)

本 省 3月3日前発

第六一号

往電第六〇号別電
貴電第九二号後段ニ關シ

一、「ソ」側ハ新漁区追加發表問題並標準高問題ニ關シ依然手続トシテ當業者ノ申請ヲ要求シ居ル趣ノ処

(1) 邦人希望ノ新漁区三〇九ヶ所ニ對シテハ客年十一月既ニ當業者ヨリ所定ノ手續ヲ履ミ極東漁業庁ニ開設方申

請済ナルカ右ニ對シ「ソ」側ハ漁区表ニ於テ僅カニ一

○二ヶ所ヲ發表シタルニ過キサリンヲ以テ我方トシテハ右ハ議定書甲第四条第一項ノ精神ニ背反セルモノト認メ政府ノ交渉案件ノ一トシテ残余ノ未發表漁区ニ関シ交渉ヲ開始スルト共ニ競売期日切迫ノ關係ヲモ考慮シ右當業者ノ出願漁区ヲ整理シ二月十一日及十四日ノ二回ニ亘リ追加發表方申入タル次第ナリ

(b) 漁獲標準高問題ニ關シテモ客年十二月當業者代表哈府

出張ノ際同地「ソ」側官憲ニ其要望スル標準高表手交済ナルカ其後「ソ」側ノ發表セル漁区表ニ依レハ右當

業者ノ要望トハ全然關係ナク從来ノ當業者ノ届出漁獲高ノミヲ基礎トシテ定メタルモノニシテ議定書甲第十

七条第一項ノ規定ニ反スルヲ以テ斯ノ如キ漁獲標準高ノ根本的決定ニ付テハ将来右規定ノ趣旨ニ從ヒテ之ヲ為スコトトシ本年ハ不取敢旧來通ノ標準高ヲ採用セシ

ムルコトニ取計ヒ來レル次第ナリ尤モ個々ノ漁区ノ標準高ノ変更ニ付テハ最終議書第十四ノ規定ニ依リ右一般標準高決定ノ上追テ關係當業者ヨリ其ノ手續ヲ為サシムヘシ
故ニ貴官ハ右ノ次第ヲ詳細貴地當局ニ御説明ノ上貴地當局ヨリ直ニハバロフスク官憲ニ對シ當業者ノ申請手續ハ此際不用ニ付至急我方申出通措置方訓電セシムル様御交渉相成度尚先方當局ヨリ電訓済ノ上ハ其旨在ハバロフスク總領事及當方ヘ御電報アリ度
本電在ハバロフスク及浦潮各總領事ヘ転電セリ

172 昭和4年3月4日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

ソ連側の競売強行に対する善後措置について

本 省 3月4日後発

往電第六一号末段ニ關シ

一、我方ノ競賣期日延期申入ヲ應諾セスシテ二十八日ノ競賣ヲ強行シ懸案未解決ノ上ニ加フルニ右競賣ニ對スル善後措置協議ノ必要ヲ生セシメ愈々事端ヲ滋クシタルハ全

然「ソ」側ノ責任ニシテ我方トシテハ飽迄往電第六一号申進ノ通右競売取消方ノ主張ヲ固執シタキ次第ナルモ三日接受貴電第九六号貴官ト「カラハン」会談ノ顛末ヲ微スルモ先方ノ意向ハ察知セラルニ依リ此際事態ヲ益々紛糾セシムルコトナク急速打開ヲ圖ル趣旨ヲ以テ

(1) 「ソ」側当局殊ニ極東官憲ノ対内的立場ヲ考慮シ其ノ体面ヲ傷ケサルコト

(2) 条約ニ於テ国營企業ヲ認メタル趣旨ニ反セサル限り

「ソ」連邦人ノ正当ナル漁業上ノ権益ヲ尊重スルコト

(3) 条約ニ依リ保障セラレタル我方権益ハ飽迄之ヲ擁護スルコト

(4) 我當業者ノ不当ナル要望ハ之ヲ阻止スルト共ニ其合理的要望ハ十分之カ達成ヲ期スルコト

ノ方針ノ下ニ善後策ヲ攻究シ左ノ成案ヲ得タリ就テハ貴官ハ至急貴地当局ト懇談熟議ヲ遂ケラレ我方成案ノ達成ニ依リ本件急速解決方御尽力相成リ結果回電アリ度シ

一、二十八日競売ノ後始末トシテハ「ソ」側カ(イ)露国人ノ競落シタル日本人現有漁区及日本人ノ申請ニ因リ開設セラレタル新漁区(同一漁区ニシテ日露人双方ヨリ申請ア

三月十四日迄ニ浦潮ニ到着スルコトハ事實不能トナリタルコトニ在リ

(ロ) 競売ニ付スヘキ漁区

本邦人ノ申請シタル現有漁区全部及本邦人ノミ申請シ

「ソ」側ニ於テ競売期迄ニ発表シタル漁区全部但シ往電第六一号ノ(イ)ノ末段漁区九十八ヶ所(本大臣發在ハバロフスク総領事宛電報第一六号及第二三号)ハ仮令露国人ヨリモ申請アリタルモノト雖我方屢次ノ交渉ニ依リテ漸ク發表セラレタルモノナルニ付本邦人ノミ申請シタルモノト看做ス

右ノ理由ハ(イ)ニ依リ露国人ヲ競売ニ参加セシメサルニ依ル而シテ残余ノ露国人ノミノ申請若ハ日露人双方ヨリノ申請ニ係ル新漁区ハ二十八日ノ競売及右延長競売リシ漁区全部ト共ニ再競売ニ付スルコトトス

(ハ) 競売参加者ノ範囲

本邦人ニ限り露国人ハ本邦人ト共ニ再競売ノミニ参加スルコトトス

右ノ理由ハ(イ)露国人ハ已ニ前回ノ競売ニ参加シ其ノ所

リタルモノヲ含ム)ニ関スル限り其ノ競落ニ對シ認可ヲ与ヘス及(ロ)次回競売ハ條約第二条第四項ニ所謂再競売ニ非シテ二十八日競売ノ延長ト看做シ右ト併セテ第一回ノ競売ト為スコト從テ條約所定ノ再競売ハ改メテ之ヲ執

行スルコトヲ容認スルニ於テハ我方ハ二十八日ノ競売ヲ有効ト認ム

三、右延長競売ニ關シ協定スヘキ事項左ノ通

(イ) 競売期日

従来ノ懸案並二十八日競売ノ善後策ニ關スル両国政府間一切ノ交渉ノ具体的的解決ヲ得次第當業者ノ利用シ得ヘキ敦賀浦潮間ノ船便ヲ考慮シ可成速力ナル期日ヲ協定スルコト右ノ理由ハ(イ)曩ニ三月十四日競賣執行方ヲ申入レ置キタルモ我方指定ノ三月三日迄ニ總テノ懸案解決ヲ見サリシノミナラス二十八日競賣ノ執行ニ依リ新ナル事態ヲ生シタルヲ以テ右懸案ノ解決ト新事態ノ是正ヲ要スルト共ニ右解決ヲ各地ニ分布スル當業者ニ通報スルニ相當ノ期間ヲ要シ且(二)在浦潮總領事發本大臣宛電報第二八号ノ通今般前記両地間ノ定期航路船嘉義丸ノ休航ニ依リ船便一時不規則トナリ現ニ當業者ノ

四、以上ノ案ハ當業者ノ競賣ニ對スル不安特ニ融資問題ニ立脚シテ考案シタルモノナル處右案採用ノ場合ト雖露國人ノ參加スヘキ再競賣ニ對シテハ融資問題ニ付「ソ」側ヨリ充分ナル保障ヲ取付クルヲ絶対ニ必要トスル次第付貴官ハ其ノ理由ヲ篤ト説明セラレタル上我方トシテハ最終議定書一ノ乙ノ(五)ノ規定ニ從ヒ露國人カ國營企業ノ

部類ニ包含セラルヘキモノナリヤ否ヤニ付「ソ」側ヲシテ我方ニ協議セシムルヲ必要ト認メ居ル次第ナルモ斯ク

テハ「ソ」側ノ面目ニモ係ルヘキヲ懸念セラルニ付

「ソ」側ニ於テ再ヒ前回競売ニ於ケルカ如キ不正ヲ演セ

サル様嚴重ナル取締ヲ実行スルコトニ依リ一方的ニ本件

ヲ解決シタキ所存ナルヲ以テ右ニ対シ先方ノ充分ナル言

質ヲ取付ケラルト共ニ競売ヲ公正ナラシムルカ為往電

第三三号ノ三及四ニ対スル先方ノ同意ヲ取付ケル様御配

慮アリタシ

尚二十八日ノ競売ノ実績ニ鑑ミ最低価格決定ニ関スル最

終議定書一ノ甲ノ(二)ノ励行方ニ付本大臣発浦潮宛電報第

二〇号ノ一二対スル回電ヲ待チ追テ電報スヘキニ付右御

含置アリタシ尚又貴官ハ已ニ往電第六〇号末段ニ依リ二

十八日競売ノ善後策ニ関スル先方ノ考案ニ付問糺サレタルコト思考スルモ先方ノ考案如何ニ不拘我方トシテハ

前記成案以上ノ讓歩ハ到底困難ナルニ付該成案ノ趣旨ノ達成方切ニ貴官ノ御配慮ヲ希望ス

本電ハバロフスク及浦潮ヘ転電アリタシ

173 昭和4年3月5日 在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

競売強行問題善後策をめぐるカラハンとの会談について

モスクワ 3月5日後発

本省 3月6日後着

貴電第六一号及第六三号ニ関シ
第一〇四号

昨今ハ「ソヴィエト」総選挙ノ為主ナル外務部員モ出払ヒ
ノ有様ナルカ漸ク五日夕「カズロフスキイ」ト会見長時間ニ亘リ議論乃至懇談ヲ重ネタリ

一、二十八日ノ競売ヲ無効ト認ムヘキ点ニ関シテハ累次ノ往電ニテ御承知ノ通リ先方ニ対シ强硬ニ主張シ来レル処

貴電第六一号ノ次第モアリ又我方妥協案達成ノ為ニハ此ノ点ヲ交渉スルノ得策ナルヲ認メ先ツ以テ貴電第六一号

ノ趣旨ヲ詳述シテ(先方ノ考慮ニ便スル為用意シ置キタル箇条書ヲ示シタリ)其ノ反省ヲ促シタルニ「カ」ハ条約ノ規定ニ依リ是正スヘキ案件ハ總テ二十八日ノ数日前迄ニ東京又ハ当地ニテ解決済ミナリ故ニ蘇側トシテハ二

妥協案ヲ蘇側カ容ルヘシトハ到底考ヘラレス殊ニ二十八

日競売ノ結果ハ既ニ地方官憲ニ於テ確認済ミノ筈ナリ又日本人ノミニ対スル競売ヲ行フ如キハ條約及国内法上モ

困難ナリトシ「カラハン」ト協議ノ上答ヘ得ル処ハ結局日本側妥協案ニハ応シ難シト云フニ帰スヘキモノト信ス

トノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ懇談的ニ述ヘ度シト前提シ妥協案ノ根本ハ日本人ノ希望スル漁区ヲ競売ニ依リテ得ントスルニ外ナラス蘇側ヨリ考フレハ若干ノ漁区カ日

本人ニ依リテ經營セラルト蘇側個人ニ依リテ經營セラルルト何程ノ差アリヤ二十八日ノ競売ノ結果ハ既ニ確認

済ミナリト云ハルルモ日本人ニ關係アルモノハ約三十ヶ所位ナリ仮リニ之ヲ蘇側官憲ニ於テ買戻ス事トスルモ其

ノ額ハ僅少ノモノナリスカル僅少ノ問題ノ為両国間ニ何等カノ望マシカラサル空氣ヲ釀成スルコトアランカ大局

ヲ解セサルノ譲ヲ免カレサルヘシ蘇側カ標準高問題ヲ解

決セラレタル意モ蓋シ此處ニ在リタルモノト信ス今ハ日

本當業者カ不合理ナル要望ヲ有セリトカ又ハ本妥協案カ其ノ不合理ナル要望ヲ満サンカ為ニ案出セラレタルモノ

ナリトカノ議論ヲ為スヘキニアラス國際間ノ問題ニ付

酬セリ

二、此處ニ於テ本官ハ議論ヲ別トシ事件ノ円満解決ヲ計ル

為善後策ヲ講スル必要アリ右ニ付訓令ニ接シタリト前提シ貴電第六三号ニ基キ用意シ置キタル箇条書ヲ提示シ右

ハ日本政府ニ於テ篤ト考慮ノ結果作成セル妥協案ニシテ

之以上日本側ニテ妥協スルコト困難ナル次第ナリトテ御

來示ニ從ヒ必要ノ説明ヲ加ヘタル処「カ」ハ「カラハ

ン」ト協議ノ上明日中ニハ何分ノ挨拶ヲ為スヘシ

併シ標準高問題ハ蘇側トシテ最後ノ讓歩ナリシニ鑑ミ本

「ノーノ」の一言ヲ發スルニハ充分ノ考慮ヲ要スル次第

付篤ト「カラハン」ト協議セラレンコトヲ切望スト説ケ

ルニ「カ」ハ諒承セルモ打開ケテ云ヘ「トロヤノフスキ」ヨリノ報告等ニ微スルニ日本政府ニ於テハ本問題

ノ為兩國親善關係ニ何等ノ累ヲ及ホササルコトヲ欲シ居

ラルルカ如シ依テ之迄讓歩セル以上自分等トシテハ樂觀

シ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ日本政府ノ意向ハ

正ニ其ノ通リナリ夫レ故妥協案ヲ案出セルニ外ナラス蘇

側ニテ右妥協案ヲ拒絶セラレタル場合如何ナル事態ヲ招

来スルヤハ何人モ逆睹スルヲ許ササルモ同時ニ蘇側ニテ

樂觀セラル前ニハ余程攻究ヲ要スル事情アリト信スル

旨応酬シ置ケリ

哈府及浦潮へ転電セリ

174

昭和4年3月7日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

競売強行問題についてはウラジオストック現

地にて解決したいとのソ連側要望について

モスクワ 3月7日後発
本省 3月9日前着

「マ」ニ於テ成ルヘク速ニ渡辺總領事ト協議アランコトヲ
望ムト述ヘタルニ浦潮ニハ「マ」ト知合ノ間柄ナル日本當
業者代表者滯在ノ筈ナリトテ本官ノ求ムル間ニハ直接答ヘ
サリキ右会談ニ於ケル本官ノ印象ニ依レハ蘇側ハ日本ニ於

ケル事情ニ関スル駐日大使ヨリノ電報ヲ俟チ居ルモノト認
メラレタリ尚「カ」ハ本官ノ問ニ対シ二四五エニ付テハ未
タ確定セサルモ多分日本側希望通り國營保留ヨリ除外スル
コトトナル模様ナリト答ヘタリ
ハバロフスク及浦潮へ転電セリ

ニ對シテハ左記ノ修正ヲ加フルニアラサル限容認シ難シ就
テハ貴官ハ左記各点ニ付先方ノ同意取付クト共ニ貴電協
定案ノ急速妥結方御尽力アリタシ

一、次回競売ヲ我方成案ノ如ク二十八日競売ノ延長ト見做
スコト

延長競売ノ觀念ハ我方提案ノ骨子ニシテ此点ハ我方トシ
テハ飽迄讓歩シ難シ(往電第七〇号参照)殊ニ貴電ニ依
レハ先方ニ於テモ次回競売ノ外ニ不落漁区ニ対スル追加
競売ヲ為ス意向アルヲ以テ此点ノ達成方必シモ困難ナ
ラスト認メラル尤モ先方カ行懸上飽迄同意ヲ難シトスル
ニ於テハ双方互ニ自己ノ主張ヲ保留スル外ナシ

二、次回競売ニ付セラルヘキ漁区ハ左ノ通リトン右ニ対シ
日露人ヲシテ競り合ハシムルコト

(1)二十八日競売ニ於テ入札ナカリシ漁区全部(右競売ニ
付セラレサリシ追加漁区全部ヲ含ム)

(2)右競売ニ於テ落札者アリタルモ確認ナカリシ漁区全部
(ハ)右競賣ニ於ケル不落漁区全部

我方トシテハ二十八日ノ競売否認ヲ主張シオリタル立場上
ヨリモ又妥協ヲ急ク為余リニ條約ト掛け離レタル便法ヲ容
認シテ累々将来ニ貽スノ懸念アルヨリ云フモ貴電ノ協定案

ついて

本省 3月15日後発

第七四号(大至急)
貴電第一九号ニ關シ

175 昭和4年3月15日

田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使(電報)

次回競売に際し我が方として留意すべき点に

第一一一号

往電第一〇四号ニ關シ

七日「カズロフスキ」ト會見セルニ「カ」ハ日本側ノ妥

協案ニ付テハ「カラハン」及關係ノ向ト篤ト協議セルモ遺

憾ナカラ応諾スルヲ得サルコトニ帰着セリ蘇側トシテハ条

約関係事項ニ付テハ既ニ是正済ミ又ハ是正ヲ約シ又貸下ケ

条件ニ闊スル事項中日本側ヨリ修正方要望アルモノニ付テ

モ特ニ「マモノフ」カ浦潮ニ出張セルニ付同地ニ於テ円満

ナル解決ヲ見ルヘキヲ信スル次第ナリ従テ此ノ上ハ日本當

業者カ次回ノ競売ニ参加セラルヲ信セサルヲ得スト述へ

本官カ最近ニ於テ幾多ノ事項ヲ是正セラレタルハ事實ナル

モ二十八日ノ競売ニハ是正セラレ居ラサリシニアラスヤ又

妥協成立セサル場合如何ナル事態力起生スヘキモノト考へ

ラルルヤトノ趣旨ヲ以テ反省ヲ促シタルニ「カ」ハ黙シテ

答ヘス唯日本側妥協案ニハ應シ難シトテ前言ヲ繰返スノミ

ナリシヲ以テ本官ハ先ニ提示ノ妥協案ハ嚴格ナル訓令ニ依

ルモノニテ之ト異リタル意見ヲ述フル自由ヲ有セス蘇側又

前言ヲ繰返スノミトセハ此ノ上政府ニ電報シ回轉ヲ俟ツノ

外ナシト応酬セリ又「マモノフ」ノ浦潮出張ニ付本官ヨリ

落漁区扱ヒトシ次回競売前ニ一定価格ヲ以テ本邦人ニ讓渡サシムルコトニ同意シタル上ハ實際上競売ノ効力取消ト選フ所ナク我方屢次ノ抗議ノ趣旨貫徹セルモノト認メラルニ付此点ニ付テハ先方ヲシテ名ヲ取ラシメ我方ハ実ヲ取ルコト為シ後出四ニ依リ處理シ差支ナシ

三、次回競売ノ結果不落漁区ヲ生シタル場合ニハ右漁区ヲ

約所定ノ再競売ニ付スルコト

右ハ延長競売ノ觀念ヨリ來ル當然ノ主張ナルカ先方ノ意

向次第ニテハ先方ノ閑スル限追加競売トスルモ差支ナシ尤モ此ノ場合ニハ将来ニ惡例ヲ残スノ惧絶無ニアラサルヲ以テ我方トシテハ出来ル限り再競売ノ執行ヲ避クルコト致シタク其意味ニ於テ前記貴電ノ(二)ニ依リ次回競売ニ於テ不落漁区ヲ出ササル様措置方ニ付先方ト充分ニ諒解ヲ遂ケラレタシ

四、漁区ノ最低価格ノ決定方法及露人ノ落札シタル邦人關係漁区ノ讓渡方法

右ハ二十八日競売ノ善後措置問題ヲ實際的ニ解決セムトスル本協定案ノ骨子ニシテ當方トシテハ此点ヲ最モ重要視シオルニ付御如才モナキコトナレト万々遺憾ナキ様左

ノ諸点ニ付充分且明確ナル諒解ヲ取付ケラレタシ

(イ)競売ニ付スヘキ漁区ノ最低価格ノ決定ニ付テハ最終議定書一ノ甲(一)ノ規定ヲ厳守スルコト

(ロ)二十八日競売次回ノ延長競売及再競売ニ於テ露人ノ落札シタル邦人關係漁区ノ讓渡価格ニ付テハ不落漁区ヲ再競売ニ付スル場合ノ最低価格決定方ニ閑スル最終議

定書一ノ甲ノ(二)ノ規定ニ從ヒテ基本価格ヲ定メ之ニ約五分ノ割増ヲ為スコト

(ハ)特ニ二十八日競売ニ於テ露人ノ落札シタル邦人關係漁区ノ讓渡ニ付テハ其ノ實行ニ當リ手違ヲ生セシメサルト共ニ右實行ニ依リ貴電第一一五号ノ(一)ノ末段ノ如ク次回競売及再競売ニ於テ露人ノ邦人關係漁区ニ對スル入札抑止ノ結果ヲ生セシムルカ為右漁区四十五ヶ所

(別電第七五号)^(省略)ニ対シ「マモーノフ」ヲシテ露國人

ノ態度如何ニ拘ハラス嚴重讓渡方ヲ取計ラハシムルコトニ付貴地當局ノ諒解ヲ取付ケラルト共ニ本邦當業者ノ浦潮渡航後次回競売迄ニ關係日露人間ニ右讓渡ヲ實行セシメ若シ當時關係露人同地ニ不在ノコトアリト雖右讓渡ニ違算ナキ様「マ」ニ嚴重訓令方併セテ了解

御含ノ上以上主張貫徹方極力御配慮アリタシ

尚我方今回ノ申出ハ條約ノ公正ナル運用ト國交ノ大義トニ鑑ミ先方ニ於テモ充分互讓妥協ノ精神ヲ以テ之カ審議決定ヲ為スヘキヲ確信シ協定成立次第當業者ノ當地出發ヲ可能ナランムル様其ノ準備促進方今ヨリ手配中ナルニ付出來得レハ右出發ヲ二十二日敦賀発ノ便船ニ間ニ合ハシムル様十日迄ニ先方ノ確答取付方特ニ御配慮ヲ煩ハシタシ

本電別電ト共ニハバロフスク及浦潮ヘ転電セリ

五、次回ノ競売時期

右四ノ(ハ)ノ事由ニ因リ邦人ノ浦潮到着ノ日取ト次回競売

トノ間ニハ少ナクモ數日ノ余日ヲ置ク必要アルニ付貴官

ハ貴地當局ニ対シ右考慮ノ上適當ニ競賣延期方此際更ニ

申入レラレタシ若シ本大臣發浦潮宛電報第三一号ノ申入ニ依リ延期セラレタル競賣期日カ右ノ實情ニ適合セサル

モノナルトキハ再度延期方併セテ申入レラレタシ

要之ニ我方ハ往第七〇号ノ通飽迄第六二号ノ成案ヲ理論上

ヨリモ實際上ヨリモ最モ妥當ナル善後措置案ナリト確信シ居ルヲ以テ若シ先方カ以上ノ主張ヲ容認セサルニ於テハ我

方トシテハ再ヒ右成案ニ立チ帰ラサルヲ得サル次第ニ付右

176 昭和4年3月17日 在ソ連邦酒匂臨時代理大臣より
田中外務大臣宛(電報)

付記 昭和四年三月十八日付在ソ連邦酒匂臨時代理大臣より田中外務大臣宛第一二三号(電報)

カラハンの發言および我が方の応答振り
モスクワ 3月17日前發

本省 3月17日後着

第一二二号

貴電第七四号ニ関シ

十六日夜「カラハン」ニ會見シ本日政府ヨリ訓電ニ接セル

カ右ニ依レハ政府トシテハ曩ニ提案ノ妥協案（貴電第六二号）ノ主張ヲ維持スルモ此ノ際機宜ノ措置トシテ別記ノ諸点ヲ蘇側ニテ承認セラルニ於テハ日本當業者ヲシテ速ニ浦潮ニ渡航セシムル意向ナリト前提シ貴電御來示ノ協定案ヲ（先方ノ諒解ニ便セシムル為個條書トセルモノ）提示シタル上右ハ十日「カズロフスキ」ニ参考ノ為告ケタル案ニ多少ノ修正ヲ施セルニ過キスト説明セル處「カ」ハ單ニ一瞥ヲ与ヘタルノミニテ直ニ今更斯ル案ニ付商議スルヲ欲セストテ從来ノ成行ヲ蔑視シタル言ヲ為シ先決問題ハ日本當業者カ浦潮ニ赴クニ在リト甚タ昂奮ノ語氣ヲ以テ述ヘタリ依テ本官ハ十三日「カズロフスキ」ノ述ヘタル言特ニ中央ノミナラス極東ノ意見ヲモ徵セル結果ナリトセル点ニ付「カ」ノ注意ヲ促シタル上「トロヤノフスキ」カ吉田次官ニ對シ二十八日競売ニ於テ露人ノ落札セル漁区中日本人カ讓受ヲ希望スル漁区ノ番号ヲ尋ネラレタルハ如何ナル趣旨ナリヤ云々ト「カ」ノ態度ヲ難詰セルニ「カ」ハ「トロヤノフスキ」カ吉田次官ニ前記ノ如キ質問ヲ為セルニ對シ次官ハ自分ハ何等承知セス漁業係ニテ莫斯科來電ニ依リ処置セルモノナラムカト答ヘラレタル趣ナリ

シテ吉田次官ニ又「カズロフスキ」ヨリ本官ニ述ヘタル

通り到底蘇側ニテ同意ノ余地ナシト断言シ本官カ然ラハ時

局收拾ノ為如何ナル案アリヤト問ヘルニ「カ」ハ要ハ日本當業者カ浦潮ニ赴クニアリ其ノ上ハ二十八日競売ニテ落札ノ漁区ニ付テモ何トカナルヘシ併シ右ハ私見ニ過キス公式ニ言ヒ得ルハ

(+)十五日ノ競売ハ日本當業者カ浦潮ニ赴ク迄其ノ儘延長

スヘキコト

(+)日本當業者カ露國個人ト漁区ノ讓渡ニ付商議スルニ於

テハ可成好意的取計ヒヲ為スヘシ

トノ二点ナリト結ヒ右ハ「トロヤノフスキ」ニ電報シ日

本政府ヘモ説明セシムヘシト述ヘタリ

尚本官ハ明十七日「カズロフスキ」ニモ会見ノ積リニテ

右ニ付テハ「カラハン」トモ打合セ濟ミナル処「カ」カ本

日ノ会見ノ如キ態度ヲ採ルニ至レルハ或ハ自治出漁論ニ刺

戟セラレタル為カ（往電第一二一号ノ如ク珍シク社説ヲ掲

ケタルハ這般ノ消息ヲ語ルモノト認ムヘシ）或ハ内地政情ノ動搖ヲ見越シ暫ク時機ヲ窺ハムトスル為カト推測セラル

哈府及浦潮ヘ転電セリ

然リトセハ本日貴官（本官）提示ノ案ハ次官ニ於テ承知セラレサルモノト認メサルヲ得ス本官ハ果シテ何人ヨリ電訓ヲ受ケラレタル次第ナリヤトノ奇問ヲ發シ本官カ勿論外務大臣ノ電訓ニ依ル旨答ヘタルニ対シ「カ」ハ然ラハ夫レニテモ可ナリ又「カズロフスキ」カ如何ナル言ヲ為セルニセヨ此ノ際斯カル案ニ付商議ノ余地ナシト放言シ更ニ本官カ然ラハ該案ノ如何ナル点ヲ不可トセラルヤト問ヘルニ「カ」ハ全体トシテ不可ナリ強イテ言ヘハ(+)蘇側トシテハ二十八日ノ競売ヲ以テ條約ニ依ル完全ナル一ノ競売ト認ム從テ之カ延長競売ノ如キハ之ヲ認ムルヲ得ス又(+)日本人カ浦潮ニ來リ露人ト漁区讓渡ニ付商議セラルコトニ付蘇側ニ於テ好意的取計ヲ為スヲ辞セサルモ協定案ニ言フカ如キ保障ハ到底之ヲ与フルコト困難ナリト答ヘタリ依テ本官ハ(+)ニ付執拗ニ「カ」ノ所言ヲ論駁シタル上此ノ点ハ双方ノ主張ヲ暫ク留保シテモ可ナルヘシ併シ(+)ノ保障ナキニ於テハ協定案ハ其ノ価値ナシスカル上ハ先ニ提示ノ妥協案ニ立戾ラサルヲ得スト述ヘ更ニ妥協案ノ趣旨ヲ説ケルニ「カ」ハ妥協案ノ趣旨ハ本官ヨリモ將又東京ニ於テモ再三聞ケルニ付充分諒解シ居レルカ右ニ付テハ「トロヤノフスキ」ヲ

(付 記)

往電第一二二号ニ閲シ

本官カ十六日「カラハン」ニ示セル妥協案ノ箇條書ハ便宜

(+)次回ノ競売ハ二十八日競売ノ延長競売ト認ム(+)次回ノ競

売ニハ日露人参加ス(+)次回ノ競売ニ付セラルヘキ漁区ノ点

(+)二十八日ノ競売ニテ露人ノ落札セル日本人關係漁区（貴

電第七五号）讓渡方法時期価額及之ニ関スル蘇側保障ノ点

(+)次回競売ノ最低価額ノ点(+)次回競売ノ結果不落漁区ヲ生

シタル場合ノ措置ノ御訓令ニ基キ詳述シ再競売（追加競

売）ノ行ハレサルカ如キ事態ヲ希望スト付記ス(+)萬一前記

(+)ノ競売（追加競売）ヲ行フ場合ノ最低価額ノ点(+)次回競賣

又ハ再競賣（追加競賣）ニ於テ露人カ日本人ノ希望漁区ヲ落

札スル場合此等漁区ノ讓渡方法及価額ニ関スル蘇側ノ保障

ノ点ニ細別シ置ケルカ十八日祭日ナリシモ特ニ「カズロフ

スキ」ノ出庄ヲ求メテ会見シ右協定案ニ付スル腹蔵ナキ

意見ノ開示ヲ促シタルニ「カ」ハ右(+)ニ付テハ双方見解ノ

差ニシテ日本側ニ於テ延長競賣ト認メラルヲ妨ケス(+)及

(+)ニ付テハ勿論異議ナシ(+)ニ付テハ実ハ極東トモ電照セル

次第ニシテ漁区數カ十數個ト謂フカ如キモノナラハ關係露

人ヨリ譲渡セシムルコト可能ナリ併シ今回日本側提案ノ如

ク価額ニ付テ迄モ明確ナル保障ヲ与フルコトハ立前トシテ

同意困難ナリ又二十八年度ニ日本人カ經營セルヲ特別ノ理

由トスルコトハ日本側ノ所謂現有漁区保有ニ関スル主張ヲ

容認スルコトナル為蘇側ノ立場トシテ同意困難ナリ(五)及

(六)ハ当然ノコトニテ議論トナラス(六)ニ付テハ曩ニ述ヘタル

通(一一九ノ二)ニシテ異議ナシ條約ニ依ルモ斯ル漁区ニ對

シ更ニ競売ヲ行フコトヲ妨ケサルモノト認ム併シ實際上ハ

スル競売ヲ行フ必要ヲ生セサルモノト考フ(八)ニ付若シ蘇側

カスル約束ヲ為ストセハ競売ヲ全然形式的ノモノト為スコ

トトセリ競売ヲ行フ意義ヲ失フコトナル為内部ニテ審議

ノ結果蘇側ノ立場上同意セサルコトニ決定セリ此ノ点ハ日

本側ニ於テ蘇側ノ立場トナリ考慮セラレントヲ望ム

尤論議上ノ推測トシテ云ハハ(イ)前記四ノ措置及(ロ)露國個人

ハ既ニ二十八日競売ニテ相当数ノ漁区ヲ得居ル点ニ鑑ミ恐

ラク次回競売ニ於テ露國個人カ日本人ノ希望漁区ヲ落札シ

確認ヲ得ル事ナカルヘント思考茲ニ懇談ノ相手方タル公

使(本官)モ同様ノ推測ヲナサルモノト考フルモ併シ右

ハ單ニ推測ニシテ之ヲ以テ言質トナサレサラン事ヲ望ムト

結ヘリ

以上ハ「カラハン」ノ述ヘタル要旨ナル処本官カ我方妥協案ヲ分解セハ蘇側ニテ不平ナルハ要スルニ前記(八)ノミニシテ四ニ付テハ蘇側ハ表面拒絶セラルモ實際上ハ日本側ノ

希望ニ副ハルルモノト認メサルヲ得サルニ拘ハラス十六日

「カラハン」ハ協定案全部ヲ言葉荒ク否認セラレタリ其ノ

真意ヲ解スルニ苦シムト言ヘルニ対シ「カ」ハ日本官力

参考トシテ述ヘタル案ニ付テモ詳細「カラハン」ニ告ヶタ

ル上内部ニテ論議シ駐日大使ニ電訓シタル次第ナルハ勿論

十六日本官ト「カラハン」ト會議ノ模様ニ付テモ「カラハ

ン」ヨリ聞キタルカ十六日「カラハン」カ昂奮セシハ協定

案ノ字句中例ヘハ關係露人ノ態度如何ヲ問ハスト云フカ如

キ蘇側ヲ踏付ケタル文句アリタル為ナラン兎ニ角蘇側トン

テハ日本當業者ノ要望ニシテ條約ノ規定ニ關係ナキモノ例

ヘハ現存漁区ノ国有ト云フカ如キモノヲ正式ニ認可スルカ

如キ案ニハ同意セサル事ニ決定シ居レルカ今回ノ妥協案ハ

正ニスル要望ヲ正式ニ容認スヘシトナスモノナルニ付断然

反対ナリト言ヒ放テルモノナラント答ヘ實際上ノ結果トン

テ斯ル要望カ達セラル事ヲ蘇側ニ於テ妨ケントスルカ如

キ意向寸毫モナキハ勿論曩ニモ述ヘタル通日本側ト蘇側ト
カ併立シテ漁業ノ發展セン事ヲ望ミ居ル次第ニテ日本新聞
紙ノ伝フルカ如ク日本漁業者ヲ放逐セントスルカ如キ意図
モ計画モ之ナキヲ断言スト附言セリ本官ハ蘇側ノ意ノアル
処ハ之ヲ推測シ得サルニアラサルモ单ニ推測ヲ基礎トシ本
件カ解決セラルヘントハ考ヘラレス従テ日本政府トシテハ
最初ノ妥協案ニ立返リ其ノ主張ヲ固持スル事トナルヘシ更
ニ電訓ニ接スルヲ待チ会談シタシト応酬シ置ケリ

哈府、浦潮へ転電セリ

177 昭和4年3月24日 田中外務大臣より
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

次回競売をめぐる吉田次官とトロヤノフスキ

一大使との会談

本省 3月24日後発

第八二号

往電第八一号ニ閑シ

東京ニ於ケル交渉ノ経過左ノ通

一、二十三日午後吉田次官ハ「ト」大使ニ対シ急速妥結ノ
必要ヲ説キ二十八日露人競落漁区七十四ヨリ我方トシテ

必要ヲ説キ二十八日露人競落漁区七十四ヨリ我方トシテ
落價格ヲ譲渡価格トスルトキハ我方トシテ二十八日ノ競
落價格モ自分ノ研究ノ結果ニ依レハ二、三ノ例外
ヲ除キ何レモ合理的ノ價格ナリト述ヘタルニ付係官ハ競
落價格ヲ譲渡価格トスルトキハ我方トシテ二十八日ノ競
落價格モ自分ノ研究ノ結果ニ依レハ二、三ノ例外
以外ニ合理的ノ標準ヲ求ムルコト絶対ニ必要ナルカ例ヘ
ハ旧漁区ニ就テハ昨年ノ借区料新漁区ニ就テハ條約ノ規
定ニ準シ附近ノ旧漁区ノ昨年度借区料ヲ漁獲標準高ニテ
除シテ一布度当リノ単価ヲ求メ之ニ当該新漁区ノ漁獲標準
高ヲ乗シタルモノヨリ一定率ヲ控除シタルモノトスル
カ如キハ公平ナル案ナランカトモ考ヘラルカ貴見如何

ト問題シタル所大使ハ価格ハ第一ノ問題リシテ漁区數ヲ
先決セサルカラスト過ケ次回競売後ノ漁区移讓問題リ

付係官ヨリ我方ノ主張ヲ力説シタルニ対シテモ大使ハ

「ハ」側トシテハ不正入札ヲ予想シテ正式保障ヲ与フル

カ如キハ困難ナリトテ承諾セス切リ前記讓渡漁区數ノ

削減ヲ希望シテ歎クス

11月14日午後係官大使ヲ往訪シ前記數点付更ニ討議

ヲ重ネタル所大使ハ「ハ」側トシテハ11月18日ノ競売リ

テ殆ント満腹ノ状態ナルトバ自分シオルヲ信スキ理

由アリ従テ十五日入札ノ九通ヤ九漁区ニシテ111ノ個人

企業及「ノオヅラチヅ」ノム参加シオルヲ以テ次回競売

リ於テ露人ノ参加スルロトモ殆ノナカルク日本人ハ

合理的価格ニテ入札セハ殆ノ全額競落スシテ確信ス

ト説キ讓渡漁区ニ付テハ飽忽「ヤクヨー」ハ訓令通讓歩

ノ余地ナシト抗弁ヲ続ケタルカ其節大使ハ「ヤクヨー」

來電中ノ讓渡漁区十ノ田漁区四ノ合ム意味ヲ漁シタルヲ

以テ係官ハ貴電第一ノ五号ヲ読ム聞カセ田漁区四及新漁

区十數個ノ誤ナルヲ説明シ結局大使ハ大使館ノ思忖トハ

ハ「ヤクヨー」ハ電照ヘシト答クタリ當11月15日余見

浦潮及ハベロハベクハ藍電トツ度シ
討議繼續ノ筈

~~~~~

178 昭和4年3月29日 吉田外務次官 在本邦ソ連邦大使 会談

漁区問題立ヘシトロロニ置諒解事項

付 記 右仮訳

(11月119日)

Monsieur l'Ambassadeur,

Pour préciser l'état des pourparlers relatifs à l'application de la Convention des pêcheries, j'ai l'honneur de vous communiquer la conviction que j'ai acquise à la suite des dernières conversations avec Votre Excellence et de celles qui ont eu lieu entre notre Chargé d'Affaires et le représentant de votre gouvernement:

1° Les ressortissants russes ont déjà obtenu, à la suite des enchères du 28 février, des lots de pêche en quantité généralement suffisante pour leurs besoins.

2° Les neuf dossiers déposés au début des enchères du 15 mars ne semblent concerner que neuf lots: de

ceux-ci trois ou quatre sont nécessaires aux coopératives pour compléter la part de pêche qui leur est attribuée; les autres sont destinés à compléter des lots acquis par certains enchérisseurs le 28 février.

3° Je suis convaincu qu'aux prochaines enchères vos ressortissants ne déposeront aucune demande de lots en dehors des neuf dossiers sus-mentionnés, que par conséquent les pêcheurs japonais, s'ils donnent un prix raisonnable, pourront obtenir sans difficulté les lots qui leur sont nécessaires, et cela, même si les ressortissants Soviétiques abandonnent aux ressortissants japonais un certain nombre des lots qui leur ont été attribuées à la suite des précédentes enchères, comme il en est question dans les pourparlers en cours qui ont pour objet de formuler des directives pour les deux Parties.

avez exposée.

邦人ノ参加スヘキ四月五日ノ競売保障ニ関ス

ル吉田次官「トロヤノフスキ」大使諒解

(三月二十九日) 仮訳文

(吉田次官声明)

大使閣下

漁業条約ノ適用ニ関スル商議ノ状態ヲ明確ニセンカ為最近ニ於ケル本官ト閣下トノ会談及我代理大使ト貴国政府代表者トノ間ニ行ハレタル会談ニ依リ本官カ得タル確信ヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

一、露國人民ハ二月二十八日ノ競売ノ結果既ニ彼等ノ必要ヲ大体充スヘキ漁区数ヲ取得セリ

二、三月十五日ノ競売当初ニ提出セラレタル九通ノ「パケット」ハ單ニ九ヶ所ノ漁区ニ関スルモノノ如ク其ノ中ノ

三、四ヶ所ハ「コオペラティヴ」カ其ノ許与セラレタル漁獲数量ヲ補充スルニ必要ナルモノニシテ其ノ他ハ若干ノ二月二十八日ノ競売参加人力既ニ取得セル漁区ヲ補足セントスルモノナリ

三、本官ノ確信ニ依レハ貴國人民ハ前記九通ノ「パケット」ヲ除キ次回競売ニハ全然漁区ノ入札ヲナササルヘク

從テ日本當業者カ合理的価格ヲ与フルニ於テハ彼等ノ必要トスル漁区ハ容易ニ獲得シ得可シ而シテコノ事態ハ兩者ノ基準ヲ決定センカ為現ニ商議中ナル通り仮令「ソ」連邦人民カ前回ノ競売ニ於テ取得シタル若干数ノ漁区ヲ日本人民ニ譲渡スルモ変更ナカルヘシ

(「トロヤノフスキ」大使声明)

次官閣下

貴官ノ提起セラレタル問題ノ重点ハ競売ノ結果ニ在リ日本漁業者カ合理的価格ヲ提供スルナラハ其ノ競売ニ於テ獲得セント欲スル漁区数ヲ大体次回競売ニ於テ獲得スヘシトノ貴下ノ御観測ハ幾多ノ理由アリト思考ス

貴官ノ申述ヘラレタル細目ニ閑シテハ例ヘハ露西亞個人漁業者ノ提出セル「パケット」ノ數ト其ノ獲得セント欲スル漁区ノ數トカ一致スヘシトカ彼等露西亞個人漁業者カ次回競賣ニ於テハ既ニ提出セル九通ノ入札ヲ除キ何等新規ノ入札ヲ為ササルヘシトカノ細目ニ閑シテハ貴官ノ御陳述ニ比較シ若干ノ変更相違ハアリ得可キモ為ニ貴官御申述ノ本件諒解ノ骨子ニハ変更ヲ生セス

179 昭和4年3月30日

在ソ連邦酒匂臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

### 次回競賣における漁区に関するカラハンとの会談

会談

モスクワ 3月30日後発  
本 省 3月31日後着

第一四五号  
往電第一四〇号ニ関シ

(1)三十日「カラハン」ニ会見スルヤ否ヤ「カ」ハ御蔭ニテ

問題ハ解決セムトスト云ヘルニ付本官ハ未タ漁区問題及貸下条件ノ修正等ノ問題残リ居レリ漁区問題ニ付テハ駐

日大使ノ提議アルモ日本側トシテハニ満足スル能ハス

トニ二十九日「カズロフスキ」代理ニ手交シ置ケル漁

区表(貴電第八八号及第九一号)記載ノモノノ譲渡方是

非此ノ際快諾アリタシト力説セルニ「カ」ハ実ハ数個ノ漁区ニ付彼此云ハムトスルニ非ス只明確ナル漁区数ヲ挙

ケテ譲渡ヲ言明スルコトハ關係個人ノ意思ヲ考慮セスシテ余リニ明確ニ譲渡ヲ保証スルコトナル為蘇側ノ立場

トシテ困難ナリ此ノ点ハ日本側ニテ諒トセラレタシ要ハ

依テ本官ハ「カラハン」ノ所言トシテハ右ノ通電報スヘキモ自分ノ印象トシテ蘇側ハ数箇ノ漁区増加ハ之ヲ問題ト為シ居ラサルカ如シト付加スヘシト云ヘルニ「カ」ハ要スルニ双方当事者ノ商議如何ニアリ云々トノ前言ヲ繰返シタルカ本官ヨリ事態ハ漸ク好転セムトス併シ今後ニ残サレタル問題ノ成行如何ニ依リテハ再ヒ逆転スル事無キヲ保セス蘇側ニテ充分此ノ点ヲ考慮セラレタシト云ヘルニ「カ」ハ今回ノ解決案ノ動機ヲ与ヘタルモノトシテ殊更懸念セラルハ尤ナルモ此ノ上円満ニ進捗セサル由ナシ最早問題ハ解決セリト云フモ可ナル程ナリト答ヘタリ

(一)貸下条件ノ修正ニ付「カ」ハ本官ノ希望ヲ快諾シ日本當業者ノ申請ニ対シテハ充分好意ヲ以テ処理スヘキ様極東ヘ電訓スヘキヲ約セリ

(二)競売時日ニ付「カ」ハ四月五日トシタク此ノ上延長スル事困難ナルニ付其ノ旨政府ヘ電報セラレタシト繰返シテ述ヘ尚前記(一)及(二)ニ関スル商議カ同日迄ニ終了セサルカ如キ場合ニハ競売後之ヲ続行セシムルコトトセハ可ナリト付言セリ

(四)島山ノ二〇六「ヲ」ノ善後措置ニ付「カ」ハ「コルチヤ」ト協議セラレタシト答ヘタリ  
田中外務大臣宛(電報)

哈府、浦潮ヘ転電セリ

180 昭和4年4月6日 在ウラジオストック 4月6日前発

田中外務大臣宛(電報)

四月五日追加競売の結果概要報告  
ウラジオストック 4月6日前発  
本 4月6日後着 省

第八六号

四月五日追加競売ノ結果概要左ノ通

漁区数二八六個所(内海洋漁区二六一、蟹漁区二四)ニ対スル入札数三八七、内海洋三四九、蟹三八、邦人入札数三五三、内海洋三三二、蟹三一競落漁区二六五、内海洋二四一、蟹二四不落漁区二一、邦人競落漁区二四五、内海洋二四、蟹二一

右ノ通ニテ日魯(組合員外 K. Uda 商会ハ法外ナル値段ヲ以テ日魯ノ七十八個所及他邦人現有漁区一ニ入札シ七八個所内海洋漁区六九蟹漁区九(競落セリ)ヲ除キ我當業者ハ大体現有漁区ヲ競落シ新漁区ノ一部ヲ獲得セリ

尚詳細ハ本六日午後三時ノ競売結果公表ヲ俟テ追電ス追テ邦人競落漁区中ニハ右 K. Uda 商会ノ競落漁区七十八個所ヲ含ムニ付為念前記数字ニ関シテハ競売入札者多数ニシテ競売執行室広ク係官ノ音声明瞭ヲ欠キタル為多少誤謬ナキヲ保セス組合側調査ノ分ト差アルモ当館調査トシテ不敢敢莫斯科、哈府ヘ転電セリ

181 昭和4年4月8日 在ウラジオストック渡辺総領事より

田中外務大臣宛(電報)

四月五日の競売結果の是正措置振りにつき請

訓

ウラジオストック 4月8日後発  
本省 4月9日後着

(一)第一〇一号  
往電第八六号ニ関シ

(一)五日競売ニ於テ十五日提出ノ封筒九通ハ漁区約三十ヶ所ニ対スル入札(五日提出ノ封筒五通ノ分入札約二十通ハ右三十三ヶ所ニ対スル価格追加入札ナルコト判明セリ)ニシテ右ニ依リ邦人關係漁区十六ヶ所ハ露人ノ落札トナリ(右ノ外宇田ノ入札無効ト認メラルル場合ニハ二番札

カ) ニ関係アルニ付前記是正方至急御詮議ヲ請フ

記

一般漁区四五、四六、四九、五八、一〇九イ、一六一、三二三ヶ、一八四、一八五、(以上二一個所ハ「リューリ」二番札) 蟹漁区二〇

(三) 「コオペラチーブ」ハ二十八日競売ニ於テ既ニ十万布度ニ対スル漁区ヲ落札シタル疑アル処若シ右ニ相違ナキコト判明シタル場合ニハ前記「コ」ノ二番札漁区(一九三、一九四)カ「コ」ノ落札トナルコトアリトルモ右漁区ハ前記二ニ依リ同シク邦人ニ貸付クヘキモノト解セラル御参考迄

莫斯科、哈府へ転電セリ

182 昭和4年4月11日 在ウラジオストック渡辺總領事宛  
(電報)

競落結果の日ソ了解事項違反につき駐日大使

に注意喚起方申入れ

本省 4月11日後発

第五五号

第一二七号

貴電第一二八一号ニ関シ

一、当方ハ漁業条約改訂當時極東水域ニ於ケル露国私的漁業ハ微々タルモノニシテ又「ソ」連邦ノ立国ノ主義及法

制ニ依リ右企業ハ益々衰微ノ途ヲ辿ルモノナルコトノ了解ノ下ニ條約ヲ締結シタルモノニシテ右ニ最モ関係アル最終議定書第一部ノ一ノ(乙)ノ如キモ全ク其ノ精神ノ下ニ成レルモノト解シ居レリ從テ本年一月二十三日開会ノ第一回「ソ」連邦國營漁業大会ニ於ケル「ブリフ」ノ報告

ニ関スル決議中國當漁業及「コオペラチーブ」漁業ノ発達セル方面ニ於テハ私的漁業ハ驅逐スヘキモ然ラサル遠隔地方ニ於テハ私的漁業ヲ残存セシメテ可ナル旨ノ一節(露國漁業雑誌二月号付録十六頁)ハ前記條約ノ精神ニ反スルモノニシテ概シテ本年ノ競売ニ於テ私的企业カ一

般漁区八十八個其ノ漁獲標準高約百六十二万布度(旧漁区ニ付テハ一九二七年度新漁区ニ付テハ隣接旧漁区又ハ

本年漁区表ノ標準高ニ依ル)蟹漁区八個其ノ標準高二万七千函ヲ取得シ昨年度ノ一般漁区十九個其標準高四十五

往電第五四号ニ閲シ

十一日前係官「ト」大使ヲ往訪シ五日ノ競売ニ於テ露人カ予想外ニ多数ノ漁区ヲ競落シタルハ吉田次官貴大使間ノ諒解ニ基キ適當調整ヲ要スヘキ所之カ具体的解決ハ浦潮ヲ便宜トスヘキニ付當方トシテハ既ニ措置方訓電済ナルモ貴

大使ヨリモ右ノ趣競売官憲ヘ指示アリ度キ旨申入タル所大使ハ自分ノ得タル情報ニ依レハ今回露人ノ落札シタル漁区ハ概々露人カ開設ヲ請願シタル漁区ニシテ日本人關係漁区ニ非サル趣ナリト述ヘタルニ付係官ハ前記往電九ヶ所ノ「リスト」ヲ示シコノ中ニモ既ニ邦人現有漁区三ヶ所邦人新規出願漁区四ヶ所ヲ含ミ居ルヲ以テ右情報ハ正確ナラスト酬イ重ネテ大使ヨリモ右九ヶ所ノ漁区讓渡方浦潮ヘ電報アリ度旨繰返ヘシ置タリ尚大使ノ希望ニ従ヒ右<sup>(九)</sup>漁区ノ落札価格標準高並右經營希望ノ邦人取得漁区数ヲ通報セリモスコ一及ハバロフスクヘ転電アリ度シ

183 昭和4年4月30日 在ソ連邦酒匂代理大使宛  
(電報)

漁区問題解決に当つては漁業条約の改正も辞せずとの我が方の意向表明について

第五五号

本省 4月30日後発

第一二七号

貴電第一二八一号ニ関シ

一、我方ハ從來漁区讓渡問題ニ付テハ主トシテ二十八日競

売ノ善後措置並東京ニ於ケル彼我諒解背反ニ対スル是正手段トシテ主張ヲ統ケ来リタル處飽ク迄先方カ我方要望

ヲ容認セサルニ於テハ我方トシテハ國營企業ノ私的企业ニ対スル財的援助乃至投資ノ事実ニ鑑ミ條約ノ規定ニ基

キ右私的企业カ國營企業ノ部類ニ包含セラルヘキヤ否ヤ

ニ付先方ヲシテ我方ニ協議セシムルカ又ハ先方ノ条約ノ

精神背反ニ対シ嚴重警告ヲ為シ右ニ対スル先方ノ出方如何ニ由リテハ條約ノ一部改正ヲ為スニ至ルモ已ムヲ得ス

ト思考シ居レリ就テハ貴官ハ先方ニ対シ我方ハ強硬ナル

意向ヲ有スル旨ヲ篤ト説述セラレ讓渡漁区問題解決ノ為

利用セラレタ

三、貴電前段ニ依レハ先方ハ本件要望ヲ以テ日魯ニ対スル

同情ニ出ツルカ如ク解シ居ルモノノ如キモ右ハ全ク誤解ニシテ別電第一二八号ノ如ク希望者ノ多数ハ中小漁業者ニシテ孰モ自ラ經營セムトスルモノナリ尚五日及十二日

ノ競売ニ於テ希望ノ漁区全部ヲ取得シタル一部邦人ハ満足ノ意ヲ表シタルコトアラムモ然ラサル者及二十八日競売ニ於テ漁区ヲ奪取サレタル者ハ未タ満足シ居ラス而シテ佐々木代表ハ私的交渉ニ於テ邦人希望漁区中十個迄関係露人ノ讓渡方意向ヲ得タルモ右漁区ノ価値及數ニ於テ多数者ヲ満足セシムルニ足ラス從テ佐々木ノ立場トシテハ右ニテ妥結スルコト能ハス已ムナク交渉ヲ切りタルモノナルニ付貴官ハ右ノ趣旨先方ヘ篤ト説明アリタシ（浦潮発本大臣宛電報第一四〇号参照）

四、貴電末段ニ關シ往電第一二三号談話ノ際係官ハ「ト」大使ニ對シ二十八日競落漁区ニ付テハ東京ニ於テ交渉シタルコトアリタルモ漁区數等ニ付容易ニ妥結セサルニ及ヒ貴大使カ此ノ上ハ寧ロ「モスコ一」ニ於テ交渉スルヲ希望スル旨漏ラサレタルコトアリタルニ鑑ミ今次ハ「モスコ一」ニ於テ交渉ヲ再開スルコトシタル旨述ヘタルニ同大使ハ之ヲ首肯スルト共ニ五日競落漁区ニ付テハ「マモーノフ」ノ約言アルヲ以テ「マ」ヲシテ其ノ約言ヲ実行セシムル方好都合ナルヘシト遁ケタル趣ナリ尤モ右約言實行方ニ付テハ當方ニ於テモ一応「ト」大使ニ交

涉スルコトトスヘシ

五、二十八日競落漁区中往電第九〇号及第九一号所載ノモノハ當時組合ニ於テ邦人希望漁区削減方取扱ヒ能ハサリシヲ以テ政府側ニ於テ漁区ノ価値ノ大小ノ順序ニヨリ選択シタルモノニシテ佐々木カ私的交渉ノ際關係邦人ノ意向ヲ參酌シテ選択シタル三十八乃至二十八個（五日競落ノ分九乃至八個ヲ含ム）トハ個々ノ漁区ニ付多少ノ相異アル處右佐々木申出ノ漁区中前記関係露人ノ同意シタル漁区ハ別電第（脱）号丙ノ通ニシテ内往電第九一号漁区ニ属スルモノハ（）乃至（）ニシテ其他ハ佐々木ノ選択シタル漁区ナリ（前記浦潮発電参照）

本電別電ト共ニハバロフスク及浦潮ニ転電アリタシル漁区ナリ（前記浦潮発電参照）

（参考）

#### 184 日付不明

- (1) 「日露漁業条約並ニ昭和四年度出漁ニ関スル件」
- (2) 「日露漁業条約及本年度出漁ニ関スル件」

編注 本文書は日付不明であるが通商局で作成したものと思われる。

#### (1) 日露漁業条約並ニ昭和四年度出漁ニ関スル件

(一) 昭和三年一月二十三日締結ヲ見タル日「ソ」新漁業條約ハ同年五月二十八日ニ至リ發効シタルヲ以テ同年ハ從来ノ暫定取極ニ依リ出漁シタルカ本年度ヨリ愈新條約ノ全部的適用ヲ見ルコトトナレリ今参考迄ニ右新條約ノ旧協約ニ比シ特異ナル点ヲ挙クレハ左ノ如シ

(イ) 連邦國營企業ニ對シ漁獲標準高合計二百万布度（條約締結當時ノ標準高合計ノ二割ニ該当ス）ニ相當スル漁区ノ留保ヲ認メ右留保漁区ノ割当ニハ帝国政府ノ同意ヲ要スルコトシ國營企業ヲシテ直接間接ヲ問ハス一切競売ニ參加セシメサルコト

(ロ) 本邦人經營ノ各缶詰工場ニ對シ最寄漁区二個所宛ヲ付属セシメ十ヶ年ニ亘ル長期契約ヲ認メシメタルコト即チ此等ノ規定ハ二十余年ニ亘リ培ヒ來レル邦人ノ現有勢力ヲ確保セントスルモノニシテ之カ貫徹ノ為ニハ彼我交渉ニ二年余ノ日子ヲ要シタリ而シテ前記(イ)ニ基キ客年末「ソ」連邦政府ヨリ提議シ來レル國營留保漁区ノ割当ニ閲シテハ我當局ニ於テ慎重審議ヲ加ヘ当初先方ヨリ申出タル留保漁区表中ニハ三十ヶ所ノ邦人現有漁区ヲ含ミ居タルニ對シ交渉ノ結果中小漁業者ノ經營セル十二ヶ所

ハ之ヲ放棄セシメ目下残余ノ十八ヶ所ニ付邦人ノ不利益ヲ齎ラササル様極力折衝中ナリ(ロ)ノ缶詰工場特別契約モ既ニ客年末我當業者代表ト「ソ」連邦當局トノ間ニ調印ヲ了シ付屬漁区合計四十二ヶ所ヲ十年間確保スルコトヲ得タルカ右ニ對シテハ目下所要物資ヲ積送中ニシテ近々操業ニ着手スル筈ナリ

(二) 本年度ノ一般出漁ニ關シテハ客年末「ソ」連邦官憲ノ發表シタル漁区表並漁区貸下条件中ニハ前記新條約ノ規定ニ副ハス或ハ漁業ノ実情ヲ無視シタルモノ多々アリタルヲ以テ之カ是正方ニ付帝國政府ハ本年一月以来莫斯科及哈府駐在ノ代理大使又ハ總領事ヲシテ當該官憲ニ對シ夫々嚴重交渉セシメタリ其ノ結果先方ハ漸次我方主張ヲ容認シ「ソ」側所定ノ競賣期日タル二月二十八日間際ニ至リテハ大体ニ於テ我方要望達成セラレタルカ是ヨリ先キ我方ヨリ時日切迫ノ為本邦當業者ノ競賣參加困難ナルヲ見越シ前記競賣期日延期方ヲ申入レタルニ對シ「ソ」側ハ競賣期日ニ關スル條約文ニ對スル自己ノ見解ヲ固持シ同意ヲ与ヘス遂ニ二月二十八日日本人ノ參加ナクシテ競賣ヲ執行シ「ロ」人ヲシテ七十四ヶ所ノ漁区ヲ取得セシ

メタルヲ以テ我方トシテハ直ニ右競売ニ対シ嚴重ナル抗議ヲナシ「ソ」側ノ反省ヲ求メタルモ先方ハ其ノ主張ヲ固執シテ讓ラス

於是政府トシテハ從来ノ懸案解決ニ加フルニ右競売ノ善後措置ヲ講セシムルヲ要スルニ至リタル処「ソ」側ニ於テ更ニ三月十五日競売ヲ続行シ一部露人ノ入札ヲ受付クルニ及ヒ事態益々紛糾シ両国政府間ノ交渉モ亦難渋ヲ極メタルカ四月初旬ノ出漁期ヲ顧慮シ莫斯科及東京ニ於テ連日繼續セラレタル彼我ノ折衝ハ遂ニ「ソ」側ヲシテ

(1) 次回競売カ前記二月二十八日ノ延長競売ナルコト隨而次回競売ニ不落漁区ヲ生シタル時ハ條約上ノ再競売ヲ行フコト

(2) 繩ニ「ロ」人ノ取得シタル邦人關係漁区中邦人ノ希望

スルモノアラハ之ヲ讓渡スルコト

(3) 「ロ」人ハ三月十五日入札ノ分ヲ除キ次回競売ニ於テハ殆ント漁区ノ入札ヲ為ササルコト  
ヲ容認セシメ茲ニ彼我妥結ノ曙光ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ我當業者ハ右次回競売ニ對スル先方ノ保障ニ信頼シ競売參加ノ為三月三十一日孰賀發浦潮ニ向フコトトナリ

永ラク紛糾ヲ重ネタル懸案モ其ノ解決ニ一步ヲ進ムルニ至リ

然ルニ四月五日浦潮ニ於テ行ハレタル邦人參加ノ競売ニ

於テハ「ソ」側言明ノ通「ロ」人ノ活躍ハ之ヲ調整スルコトヲ得タルモ露水組合員以外ノ宇田某カ日魯會社ノ旧漁区七十七ヶ所及西出商會ノ旧漁区一ヶ所ヲ競落シタル為國內問題トンテ事態再び紛糾スルニ至リタルカ右宇田問題ヲ別トシテ邦人昨年度經營漁区數二百五十五ヶ所ニ對シ今次ノ競売並ニ引続キ四月十二日ニ行ハレタル再競売ニ於テ我當業者ハ二百六十四ヶ所ノ漁区ヲ取得シ之ニ前記缶詰工場ノ長期契約ノ分四十二ヶ所ヲ加フレハ合計三百六ヶ所トナリ昨年度ニ比シ更ニ相當ノ進出ヲ為スコトヲ得タリ

(2) 日露漁業條約及本年度出漁ニ關スル件

一、我邦人カ過去二十年余ニ亘リテ扶植シタル勢力ヲ毀損セサルコトハ新漁業條約締結ニ當リテ政府ノ最モ留意シタル所ニシテ交渉ニ二年余ノ長日月ヲ要シタルモ実ハ其方針ニ依リ幾多ノ難点ヲ解決スルニ努メタルカ為ナリ幸

ヒニ交渉ノ結果ハ此現有勢力保持ノ趣旨ハ大体ニ於テ新條約ノ規定ノ上ニ貫徹セラレオルモノト信ス。

二、露國ノ政治組織カ旧協約時代ト異リ原則トシテ漁業モ國營企業ノ手ニテ行フコトトナリオル關係上新漁業條約ノ上ニ國營企業ヲ認ムルコトハ不得已義ニシテ之ヲ認メサル限漁業條約ハ成立シ難シ故ニ國營ニハ或一定ノ限度ヲ限りテ漁区ノ留保ヲ許スコトシタルモ其代リ國營ハ一切競売ニハ参加セサルコトトシ右一定限度内ノ留保モ各個々ノ漁区ニ付我政府ノ承認ヲ求ムルコトヲ条件トナシオレリ

三、漁区取得ノ方法モ旧協約時代ニハ凡テ競売ニ依ルコトトナリオリタルモ競売一点張ニテハ我權利擁護上不利ナルヲ認メ新條約ニハ競賣ヲ原則トハスルモ例外シテ競

売ニ依ラス兩國政府間ノ同意ニ依ル漁区取得方法ヲモ規定シ居レリ其結果トシテ本邦人カ缶詰工場ヲ有スル漁区ハ付屬漁区ト共三十年間無競賣貸下ヲ受クルコトトナリオレリ

四、此等ノ規定ハ何レモ我現有勢力ヲ失ハサランカ為ノ用意ニシテ新條約ノ運用ニ際シテモ政府ハ此点ニ深甚ノ注

意ヲ払ヒオレルカ  
(一) 前記缶詰工場付屬漁区無競賣貸下ノ問題モ我方ノ有利ニ解消済ニテ我邦人ノ從來經營セル優良漁区ハ已ニ多数我方ノ手ニ収メオレルノミナラス  
(二) 國營留保漁区ノ問題ニ就テモ露國側ニテ邦人關係ノ漁区ヲ留保シタキ希望ハ可成之ヲ拋棄セシムル様交渉中ナルヲ以テ國營カ邦人ノ從來經營シタル漁区全部ヲ奪取スルト云フカ如キ貳毫モ無之モノト思考シオレリ

五、漁区取得ノ原則的方法タル競賣ニ關シテハ露國側ニテハ既ニ我政府ノ希望ヲ容レ旧來ノ漁区ノ外ニ多数ノ新ナル漁区ヲ競賣ニ發表シオルヲ以テ邦人企業家ニシテ其財的實力ヲ發揮セハ本年モ多數ノ漁区ヲ獲得シ得ル可能性ハ十分ナリト思考セラル即チ新條約ニ依リ國營ハ競賣ニ参加セス今日ノ露國ニテハ例外的企業者ナル個人企業ノミヲ對手トシテ競爭スル次第ナルヲ以テ旧協約時代ノ競賣ニ比シ競爭ハ比較的容易ナルモノアルヘシ

六、尤モ此等個人企業家ニ對シ國營企業等ニ於テ巧ミニ金融ノ途ヲ講スルカ如キ不正手段ニ出ル場合ハ舉証頗ル困難ナランモ政府トシテハ出來得ル限其是正方努力スル筈

ニテ現ニ事前防止ノ趣旨ヲ以テ露当局ト交渉中ナリ

七、目下本年度ノ出漁ニ関シ紛糾シツアルハ去二月二十

八日「ハバロフスク」漁業庁ニ於テ本邦漁業者ノ参加ヲ

俟タス浦潮ニ於テ第一回競売ヲ実行シタルニ起因ス而シ

テ露側ハ条約規定通り二ヶ月前ヨリ該競売期日ヲ公示シ

タルヲ以テ本邦漁業者ノ不参加ハ全ク其ノ予期セサリシ

出来事ニシテ該競売ノ公正ナルコトニ関係ナシト称シオ

ルモ我方トシテハ露側カ競売期日ノ公示ト共ニ発表セル

漁区貸下条件及各漁区ノ漁獲標準高等ニ異議アリタル為

爾來是正方交渉中ニ属シ右交渉未解決ナル限仮令公示セ

ラレタル競売期日到来スルモ延期スルカ当然ニシテ殊ニ

貸下条件中ニハ条約ニ違反セル事項ヲ含ミ嚴格ニ云ヘハ

露人モ此儘ニテハ競売ニ参加シ難キ筋合ナルヲ以テ露側

カ我政府ノ延期請求ヲ斥ケ且我當業者ノ不参加ヲ介意セ

ス露人ノミノ入札ヲ以テ執行シタル該競売ノ不公正ナル

コトハ容疑ノ余地ナシトノ趣旨ニテ嚴重ナル抗議ヲ為シ

彼我ノ間未タ意見ノ一致ヲ見ス目下尚交渉ヲ重ネオレリ

然ルニ露側ハ三月十五日ヲ以テ更ニ条約規定ノ第二回競

売ヲ執行スルノ告示ヲ為シ便船ノ關係上該期日迄ニ我當

昭和5年

185

昭和5年2月13日  
常原外務大臣より  
在ソ連邦田中大使宛(電報)

ソ連政府の個人企業融資および競売參加につ  
きカラハンに注意喚起方訓令

本省 2月13日 発

第三六号 至急

本月ノ漁区競売ニ關シ我方ニ於テハ昨年ノ宇田事件ノ覆轍ヲ踏マサル様出來得ル限り厳重警戒シ居ルモ「ソ」側個人ノ條約ニ基カサル不当進出取締方ニ付テハ「ソ」側當局ノ誠意ニ信頼スル外ナキ所本邦當業者ノ最近入手シタル情報ニ依レハ昨年来「ソ」連邦政府自ラ漁業資金全部ノ支出ヲ為シ之ヲ極東銀行ヲ通シテ個人企業タル「リューリ」「ルイボプロドウクト」「ダリルイボプロム」「ルビンシユテイン」「カズロフ」等ニ貸付ケ其ノ条件トシテ(金利ヲ年一割二分トシ)漁獲物全部ノ販売ヲ銀行ニ委任シ(漁場財産ヲ担保トシ)銀行ハ漁場ニ監督員ヲ派シテ事業ヲ監督シ(銀行ハ個人ニ對シ其ノ事業成績如何ニ拘ハラス毎月一定ノ營業費(被融資者及其使用人ノ給料又ハ生活費ヲ含

業者ノ浦潮渡航不能ヲ知リツツ第二回競売ヲ強行セムトスル模様ナルニ付政府トシテハ飽迄其ノ不当ヲ難詰シ第一回競売ノ後始末スラ協議終ラサルニ更ニ第二回競売ヲ露人ノミニテ強行スルカ如キコトアラハ事態紛糾シテ收拾シ難カルベク其責ハ當然露側ニテ負フヘシト再三警告ヲ發シタリ之ニ對シ露側ハ第一回競賣當時本邦側ニテ異議アリタル漁区貸下条件及漁獲標準高ニ就テハ已ニ大体ニ渡航不可能ノ実情ニ顧ミ右第二回競賣ハ三月二十六日迄延期スル意向ヲ表示シ来レリ然レトモ第一回競賣ノ後始末ニ就テハ尚煩トシテ我方ノ主張ヲ容レス之ヲ公正ナルモノトシテ條約所定ノ第二回競賣ヲ行フ意向ト察セラルルヲ以テ之ヲ我方ニ於テ容認スルニ於テハ我方ノ條約上ノ立場ヲ害スルハ勿論我當業者ノ不利甚大ナルモノアルヲ認メ目下嚴重是正ノ方策ヲ立テ其解決ノ為露政府ニ對シ折衝中ナリ

約改訂商議當時「ソ」側全権及専門委員ノ「ソ」側ノ国情ニ関スル説明ニ依ルモ個人企業ハ本来ノ性質上「ソ」連邦ニ於テ今後非常ナル活躍ヲ期待シ能ハサルモノト看做シタレハコソ我方ハ國營企業及「コ」組合ニ對スル特別規定ヲ承認シタルノミナラス更ニ昨年ノ競売前ニモ「ソ」側個人企業ハ邦人ノ為脅威トナラサルヘキ趣旨ノ「カラハン」其他係官ノ言明（昨年貴電第四七号ノ六ノ末段、第七〇〇号ノ一及第八〇号ノ末段）等ニ依ルモ個人企業カ邦人ノ一大脅威トナルカ如キハ御互ニ懸念セサリシ所ナリシニ不拘若シ萬一前記個人企業ニ対スル極東銀行ノ融資ニシテ事実ナリトセハ我方トシテハ之ヲ最終議定書一ノ乙ノ五ニ予見セル普通ノ商取引ノ範囲ニ含マルヘキモノナリヤ否ニ付甚タ之ヲ疑視スル次第ナルノミナラス「ソ」連邦政府自ラ個人企業ニ融資シテ競売參加ヲ企ツルカ如キコトハ國營企業ニスラ直接間接ニ競売ニ參加セサルコトヲ規定シタル條約ノ精神ニ背反スルモノト考ヘラルトノ趣旨ヲ以テ可然「カ」ノ注意ヲ喚起シ其説明ヲ求メラレ先方ノ応酬振回電アリタン本電ハ巴ロフスクニ転電シ浦潮ヘ暗送セシメラレタシ

186 昭和5年2月17日 在ソ連邦田中大使より

幣原外務大臣宛（電報）

### ソ連個人企業の競売參加に関するカラハンとの会談について

モスクワ 本省 2月17日後着 発

承認シタルノミナラス更ニ昨年ノ競売前ニモ「ソ」側個人企業ハ邦人ノ為脅威トナラサルヘキ趣旨ノ「カラハン」其他係官ノ言明（昨年貴電第四七号ノ六ノ末段、第七〇〇号ノ一及第八〇号ノ末段）等ニ依ルモ個人企業カ邦人ノ一大脅威トナルカ如キハ御互ニ懸念セサリシ所ナリシニ不拘若シ萬一前記個人企業ニ対スル極東銀行ノ融資ニシテ事実ナリトセハ我方トシテハ之ヲ最終議定書一ノ乙ノ五ニ予見セル普通ノ商取引ノ範囲ニ含マルヘキモノナリヤ否ニ付甚タ之ヲ疑視スル次第ナルノミナラス「ソ」連邦政府自ラ個人企業ニ融資シテ競売參加ヲ企ツルカ如キコトハ國營企業ニスラ直接間接ニ競売ニ參加セサルコトヲ規定シタル條約ノ精神ニ背反スルモノト考ヘラルトノ趣旨ヲ以テ可然「カ」ノ注意ヲ喚起シ其説明ヲ求メラレ先方ノ応酬振回電アリタン本電ハ巴ロフスクニ転電シ浦潮ヘ暗送セシメラレタシ

### 貴電第三六号ニ閑シ 第八四号

十六日「カラハン」ニ會見日本政府ニ於テハ本年ノ競売ニ於テ露国個人カ大活動ヲナスヘキ旨情報集マリ居リ茲ニ一述ヘ難キモ例へハ斯ノ如キ報道アリトテ貴電前段ノ「個人企業タル「リューリ」ヨリ」以下「事実自ラ漁業ヲ經營スルニ等シキヤノ疑アリ」迄ヲ述ヘ斯ノ如ク個人ニ対シ法外ノ援助ヲ与フルハ個人名義ヲ藉リテ國カ競売ニ加入スルニ等シク條約明文及精神ニ反スルモノニシテ日本政府ハ一斯カル報道ヲ信用セント欲セサルモ今回ノ競売ノ成行ニ付憂慮シ貴官ノ説明ヲ聽カンコトヲ訓令シ來リタル旨ヲ述ヘ（タル）ニ「カ」ハ右情報ノ如キハ自分ハ未タ聽込マサルモ唯今述ヘラレタル情報中ノ条件（一）（二）（三）（四）ノ如キハ商取

引上普通ニ見ル形式ニテ日本側ニ於テモ異議アルヘシト思ハレス又在本邦通商代表カ物資ノ買入労働者ノ雇入賃銀ノ支払並ニ漁獲物ノ販売ニ当リタリトテ之レ個人又ハ關係者ノ依頼ニ依リ如何ナル場合ニ於テモ当然ナシ得ルコトニシテ是又格別不都合ト思ハレス唯五ノ点一カ事實ナリトセハ是貴説ノ如ク國家自ラ漁区ヲ經營スルト同様ニシテ斯カルコトナシト思ハルモ右ハ取調ノ上処置スヘシ要スルニ「ソ」政府トシテハ條約ノ規程ヲ遵守シ居ルコトト御承知アリタシト答ヘタルヲ以テ本使ハ更ニ元来個人ハ漸次活動力ヲ失フヘキ筈ナルニ極東ニ於テハ却テ之ヲ参加スルカ如キハ政府ニ於テ特別ノ援助ヲ与ヘ居ル為ト見ルノ外ナシ若シ本年ノ競売ニ於テ露國個人ノ進出著シキニ於テハ由々敷きハ「ソ」連邦ノ主ナル地域ニ於テハ既ニ個人ノ活動ヲ抑圧スル方針ニシテ進ミツツアルモ邊境地方例へハ極東ノ如キハ尚個人ノ活動ヲ禁止セサル限り個人經營カ漸次發達スルハ當然ノコトナリ

殊ニ卒直ニ言ヘハ蘇政府トシテハ國營漁業ニハ既ニ條約上

ヲ得サルモ政府トシテハ条約ヲ厳守スヘク特ニ日本人ヲ駆逐セン為個人ヲ援助スルカ如キ意図ナキハ充分御承知アリタントノ意ヲ繰返シタルニ依リ本使ハ進ンテ昨年宇田関係漁区七十九個所ノ運命カ本年競売ニ於ケル重点ニシテ之等ノ漁区ヲ目懸ケテ貴方個人力競争スルニ於テハ甚々面倒ナル問題ヲ生スヘク彼等カ若干ノ発展ヲナスハ有リ得ヘシト

スルモ競売ノ結果トシテ昨年ニ比較シ著シキ進出ヲナスコトアラハ貴國ノ国情及制度ニ照シ当然政府ノ援助又ハ発意ニ出ツルモノト見做ササルヲ得サル次第ニシテ斯ノ如クンハ日本政府トシテモ不愉快ナル交渉ヲナササルヲ得サルヘシ日露両国民カ互ニ「ノルマル」ナル発達ヲナスコトカ両國親善ノ要諦ニシテ國家ノ力ニ依リ「ノルマル」以上ノ發達ヲナサシムルカ如キハ必ス国交上ニ惡影響ヲ生スヘク此ノ点カ日本政府ノ常ニ憂慮シ居ル處ナルコトヲ篤ト考慮アリタシトノ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ日本政府ノ意アル処ハ良ク諒解シ得自分モ此ノ点ハ充分考慮シ居レリト答ヘ尚若干想談ヲ重ねタルモ先方ヨリ右程度以上ノ言明ヲ得ルコトハ困難ト認メ且當方ノ云ハント欲シタル處ハ一応尽キタルヲ以テ右ニテ会談ヲ打切り置キタリ

187 昭和5年2月25日 在ウラジオストック緒方總領事代理  
幣原外務大臣宛(電報)  
漁区競売結果について

漁区競売ヲ目懸ケテ貴方個人力競争スルニ於テハ甚々面倒ナル問題ヲ生スヘク彼等カ若干ノ発展ヲナスハ有リ得ヘシト

第二七号

ウラジオストック 2月25日後発  
本 省 2月26日前着

漁区競売ハ予定通り二十五日午後十時終了セル処其ノ結果ハ二十六日午後三時発表ノ筈ニテ未だ不明ナルモ唯蘇側個人企業進出顯著(約二〇五箇所)ナリシト最低価格ノ異常ニ高価(昨年ノ宇田競落漁区ヲ標準トス)ナリシト為邦人入札者ノ予期ヲ裏切リ意外ノ結果ヲ來セリ之力為邦人一同ハ何レモ蘇側当局ノ無法ナル遺口ニ憤慨シ目下(夜二時)当館ニ於テ之カ対策ヲ講シツアリ尚予テ懸念シ居タル非組合員邦人参加者ハ無カリキ右不取敢

莫斯科、哈府へ転電セリ

188 昭和5年2月26日 在ウラジオストック緒方總領事代理  
幣原外務大臣宛(電報)

### 競売參加者一同の決議について

別電 昭和五年二月二十六日在ウラジオストック緒方  
総領事代理より幣原外務大臣宛第二九号  
漁区競売邦人参加者の決議

ウラジオストック 2月26日後発  
本 省 2月27日前着

### 第二八号

往電第一七号ニ関シ

当地競売參加者一同ハ別電第二九号ノ如キ決議ヲナシ閣下ニ申達方願出テタリ

尚一方当地出張中ノ「マモノフ」等ニ對シ直接右決議ノ趣旨ヲ伝ヘ最後ノ決心ヲ示ス事トセリ

在露大使、哈府へ転電セリ

### (別電)

ウラジオストック 2月26日後発  
本 省 2月27日前着

### 第二九号

決議

昭和五年二月二十五日施行ノ漁区競売ヲ否認シ併而入札ノ無効ヲ主張ス

理由

189 昭和5年3月1日 在ウラジオストック緒方總領事代理  
幣原外務大臣宛(電報)

今回競売の結果および漁業関係者の反応等に  
関する駐日ソ連大使との会談について

本省 3月1日後発

## 第五六号

往電第五四号ニ関シ

三月一日「トロヤノフスキ」大使來訪競売ノ結果日本當業者ハ憤慨ノ模様ナルモ自分ノ受ケタル浦潮ヨリノ報道ニ依レハ鮭鱈ハ開設漁区三九四中落札漁区二一六其ノ内日本人八〇「ソ」人一一〇「ソ」側「コペラチブ」二六蟹ハ開設漁区四三中落札漁区二八其ノ内日本人七「ソ」人一一以上日「ソ」人ノ獲得セル漁区中ニハ新漁区ノ外昨年度保有ノ分ヲ互ヒニ奪取シタルモノ各数ヶアリ（日本ハ旧「ソ」漁区五ヲ取り「ソ」側ハ旧日漁区二十三ヲ取ル）一見「ソ」側ニ有利ナル如クナルモ漁区ノ質ヨリ見ルニ「ソ」側ノ獲得セル漁区ノ多クハ日本人ノ獲得シタル如キ優良漁区ナク從テ漁区ノ漁獲標準高ヲ計算セハ日本人ハ優ニ「ソ」側ヲ凌キオルモノノ如ク右競売ノ結果ヲ昨年競売ニ依ル長期漁区トシテ日「ソ」人ノ各現有シオル勢力ト併セ自分ノ概算スル所ニ依レハ日本人ハ約九百万乃至約一千万（プード）「ソ」人ハ約四百万乃至四百五十万（プード）ノ漁区ヲ保有スルコトトナリ日「ソ」間ノ比較勢力ヲ

浦潮及哈府へ転電セリ

190 昭和5年8月19日 在ソ連邦天羽（英二）より幣原外務大臣宛  
（電報）臨時代理大使

極東漁業に関するプラウダおよびイズヴェス  
チヤの論説記事について

第五〇〇号

最近「イズヴェスチヤ」及「プラウダ」両紙ハ頻リニ極東漁業ノ不振ヲ書立テシカ十二日ノ「プラウダ」ハ社説ヲ掲ケ蘇連領水ニ於ケル日本側ノ漁獲ハ蘇側ノ五倍ニ達シ又日本領水ニ於ケル漁獲ノ四倍ニ及フカ右日本側ノ漁獲ヲ全部直ニ回収セントスルニハ非サルモ少クトモ対立ノ域ニ達シ次テハ之ヲ凌駕セサルヘカラスト論シ「イズヴェスチヤ」モ亦今日迄數回ニ亘リ極東調査班ノ報告トシテ極東漁場ニ對スル本年ノ予定ハ昨年漁獲ノ二倍トスルニ在リタルカ前半期ノ成績不良ナリシノミナラス八月初旬ノ成績ハ右ノ不成績ヲ繰返サントスル危虞ヲ抱カシムトテ漁夫ノ待遇改善事務員ノ派遣漁船ノハチブン及「ブリヤトモンゴル」共

和国ニ於テ「ダリゴスルライブトレースト」ノ為千二百名ノ漁夫労働者ヲ募集スル事等今日迄ノ欠陥ヲ補フヘキ幾多ノ政策ヲ報シ更ニ十九日ノ同紙ハ極東ニ於テ直接漁業ノ指導ニ當ル為中央ヨリ「サユーブル（？）」理事長代理「ラチス」特派セラルヘク又「ブリヤトモンゴル」共和国ニ於ケル前記漁夫労働者ノ募集禁止ニ對シ「ミコヤン」（最近漁業事務ハ農務部ヨリ人民商業部ニ移管セラレタリ）ノ名ヲ以テ右募集カ仮令地方ノ改革ヲ破壊スルトモ募集ノ禁止ヲ解クヘキ旨電訓セル旨ヲ報シタリ

浦潮ニ転電シ哈府ニ暗送セシム

今回ノ競売ニ依リ覆サレタリト言フハ当ラス殊ニ近ク行ハルヘキ再競売ニハ今回ノ不落漁区ノ大多数ハ日本側ニ帰スヘク再競売ノ際ニハ最低価格ノ引下ハ當然ノ義ナルニ付日本人漁業家モ冷静ニ考慮セハ大騒ヲ為ス必要ナキニアラスヤト思考セラル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ我方トシテハコトト考ヘオル次第ヲ篤ト説明シオクト共ニ再競売ノ結果ハ全部若ハ大多数ノ不落漁区ハ日本人ノ有ニ帰スヘシトノ貴説ハ「ソ」側個人ニ最早進出ノ余力ナシト認メラルルカ為ナリヤト反問シテ何等カノ証言ヲ取付ケントシタルモ同大使ハ右ハ自分ノ感想ニ不過トテ別ニ「コムミット」スル所ナカリシモ前記所言ハ本国政府ノ訓令ニ依リタルモノカトモ察セラルニ付不敢電報ス